

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第260集

間洞Ⅱ遺跡発掘調査報告書

広域農道整備事業関連遺跡発掘調査

(財)岩手県文化振興事業団
埋蔵文化財センター

まほら 間洞Ⅱ遺跡発掘調査報告書

広域農道整備事業関連遺跡発掘調査

序

豊かな自然に恵まれた岩手県には、縄文時代をはじめとする数多くの遺跡や重要な文化財が残されております。これら多くの先人達の創造してきた文化遺産を保存し、後世に伝えていくことは、県民に課せられた責務であります。

一方では、地域開発に伴う社会資本の充実も重要な施策であります。発掘により遺跡が消滅することはまことに惜しいことではありますが、その反面それまで闇に包まれていた先人の営みに光明があたるのも事実であります。

このような埋蔵文化財の保護・保存と開発との調和も今日的課題であり、(財)岩手県文化振興事業団は埋蔵文化財センター創設以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、記録保存する処置を取って参りました。

本書は、岩手県盛岡地方振興局岩手北部土地改良事業所による広域農道整備事業に関連して、平成7年度に発掘調査を実施した玉山村間洞Ⅱ遺跡の調査結果をまとめたものです。遺跡は北上山系に囲まれた山間部に立地しており、調査の結果、数多くの土坑が検出され遺構に伴う豊富な遺物も出土し、縄文時代後期の遺跡であることが明らかになりました。本書が広く活用され、考古学の研究に寄与するとともに埋蔵文化財に対する関心と理解をいっそう深めることに役立つことを切に希望いたします。

最後になりましたが、発掘調査および報告書作成にご協力とご援助を賜りました岩手県盛岡地方振興局岩手北部土地改良事業所や玉山村教育委員会をはじめとする多くの関係機関・関係各位に深く感謝申し上げます。

平成9年2月

財団法人 岩手県文化振興事業団
理事長 船越昭治

例 言

1. 本報告書は、岩手県岩手郡玉山村大字日戸字間洞6番地7ほかに所在する間洞Ⅱ遺跡発掘調査結果をまとめたものである。
2. 本遺跡の発掘調査は、広域農道整備事業に伴い岩手県教育委員会と岩手県盛岡地方振興局岩手北部土地改良事業所との協議を経て、財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが記録保存を目的として実施した緊急発掘調査である。
3. 岩手県遺跡登録台帳番号と調査時の遺跡略号は、以下のとおりである。
遺跡番号・・・KE78-0240 遺跡略号・・・MHⅡ-95
4. 調査期間・調査面積・調査担当者は、以下のとおりである。
調査期間 平成7年8月16日～平成7年10月31日
調査面積 2,605㎡
調査担当者 木戸口俊子・溜浩二郎
5. 室内整理期間と整理担当者は、以下のとおりである。
室内整理期間 平成7年11月1日～平成8年2月29日 木戸口俊子
6. 本報告書の執筆はⅠ. 調査に至る経過を高橋與右衛門、Ⅱ. 遺跡の立地と環境を溜浩二郎、その他を木戸口俊子が分担した。
7. 鑑定は次の方に依頼した。(敬称略)
石質鑑定・・・佐藤二郎(長内水源工業株式会社)
8. 国土地理院発行の地形図を複製したものは、図中に図幅名と縮尺を記した。
9. 遺構の埋土観察には、農林水産省技術会議事務局監修の『新版標準土色帖』を参考にした。
10. 本報告書に掲載した実測図の凡例については、Ⅲ. 調査経過と調査方法に記載した。
11. 本遺跡から出土した遺物及び調査にかかわる資料は、岩手県立埋蔵文化財センターに保管してある。

目 次

序
例言

[本文]

I 調査に至る経過	1	IV 調査結果	
II 立地と環境		1 概要	13
1 遺跡の位置	2	2 遺構(1)土坑	13
2 地形・地質	2	(2)焼土	23
3 基本層序	4	(3)旧沢について	24
4 周辺の遺跡	4	3 遺物	
III 調査方法と整理方法		(1)土器	25
1 野外調査	10	(2)土製品	45
2 整理方法	10	(3)石器	46
		V まとめ	56
		報告書抄録	87

[図版]

第1図 岩手県図における玉山村の位置	1	第20図 遺構内出土土器(3)	29
第2図 地形分類図	2	第21図 遺構内出土土器(4)	30
第3図 遺跡位置図	3	第22図 遺構内出土土器(5)	
第4図 土層断面図	4	遺構外出土土器(1)	31
第5図 周辺の遺跡	7・8	第23図 遺構外出土土器(2)	32
第6図 遺構配置図	12	第24図 遺構外出土土器(3)	33
第7図 IC1号土坑～IC7号土坑	15	第25図 遺構外出土土器(4)	34
第8図 IC8号土坑～IC13号土坑	16	第26図 遺構外出土土器(5)	35
第9図 IC14号土坑～IC3号土坑	17	第27図 遺構外出土土器(6)	36
第10図 IIC4号土坑～IIC7号土坑	18	第28図 遺構外出土土器(7)	37
第11図 IIC8号土坑～IIC11号土坑	19	第29図 遺構外出土土器(8)	38
第12図 IIC12号土坑～IIC16号土坑	20	第30図 遺構外出土土器(9)	39
第13図 IIC17号土坑～IIC20号土坑	21	第31図 遺構外出土土器(10)	40
第14図 IIC21号土坑～IIC25号土坑	22	第32図 土製品	45
第15図 IIC26号土坑～IIC27号土坑	23	第33図 石器(1)	48
第16図 IC1号焼土～IIC5号焼土	23	第34図 石器(2)	49
第17図 旧沢土層断面図	24	第35図 石器(3)	50
第18図 遺構内出土土器(1)	27	第36図 石器(4)	51
第19図 遺構内出土土器(2)	28	第37図 石器(5)	52

第38図	石器(6).....	53	第40図	石器(8).....	55
第39図	石器(7).....	54			

[表]

第1表	周辺の遺跡表(1).....	6	遺構外出土土器観察表(2).....	43	
	周辺の遺跡表(2).....	9	遺構外出土土器観察表(3).....	44	
第2表	焼土表.....	24	第5表	土製品観察表.....	46
第3表	遺構内出土土器観察表.....	41	第6表	石器観察表(1).....	46
第4表	遺構外出土土器観察表(1).....	42		石器観察表(2).....	47

[写真図版]

写真図版1	遺跡全景.....	59	写真図版15	遺構(14).....	73
写真図版2	遺構(1).....	60	写真図版16	遺構内出土土器(1).....	74
写真図版3	遺構(2).....	61	写真図版17	遺構内出土土器(2).....	75
写真図版4	遺構(3).....	62	写真図版18	遺構内出土土器(3).....	76
写真図版5	遺構(4).....	63	写真図版19	遺構外出土土器(1).....	77
写真図版6	遺構(5).....	64	写真図版20	遺構外出土土器(2).....	78
写真図版7	遺構(6).....	65	写真図版21	遺構外出土土器(3).....	79
写真図版8	遺構(7).....	66	写真図版22	遺構外出土土器(4).....	80
写真図版9	遺構(8).....	67	写真図版23	遺構外出土土器(5).....	81
写真図版10	遺構(9).....	68	写真図版24	土製品.....	82
写真図版11	遺構(10).....	69	写真図版25	石器(1).....	83
写真図版12	遺構(11).....	70	写真図版26	石器(2).....	84
写真図版13	遺構(12).....	71	写真図版27	石器(3).....	85
写真図版14	遺構(13).....	72	写真図版28	石器(4).....	86

I. 調査に至る経過

「広域営農団地農道整備事業盛岡西部地区」に係わる事業は、盛岡市周辺の広域的な基幹農道を整備することを目的として、岩手郡雫石町、紫波郡矢巾町、盛岡市を經由して岩手郡玉山村に到る総延長20,474mを対象とした農道の新設及び改良する事業であり、昭和60年度に事業が開始され、平成12年度に完了する予定である。

事業実施区域に対する埋蔵文化財の取り扱いについては、岩手県盛岡地方振興局岩手北部土地改良事業所（以下事業所）と岩手県教育委員会事務局（以下県教委）との間で協議されたが、その経過は以下のとおりである。

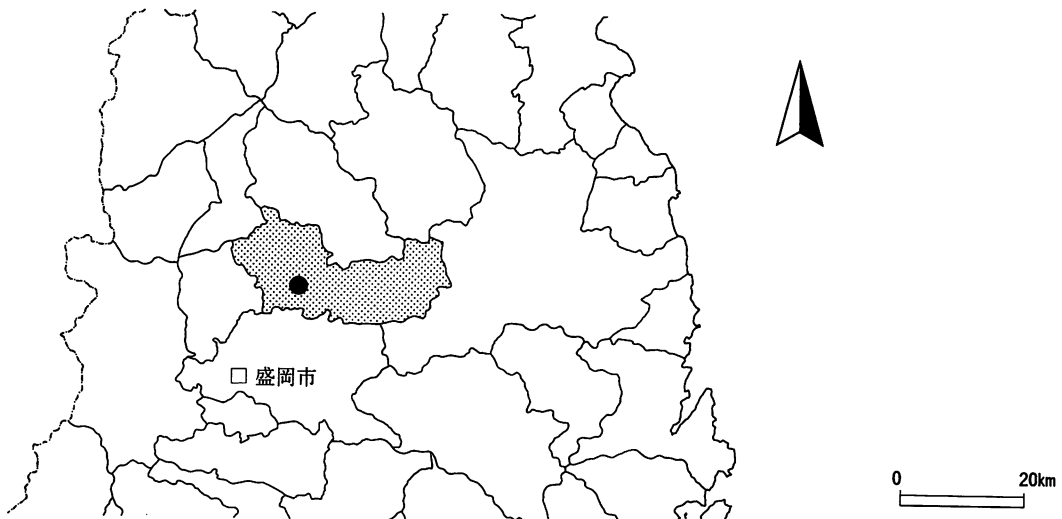
事業所では、事業実施区域内に埋蔵文化財が存在するかを確認するために、県教委に対して昭和63年8月30日付岩土地第254号「玉山村内の事業に係わる計画路線全体の分布調査について」依頼した。

依頼を受けた県教委は、路線全体を対象にした分布調査を実施して回答したが、事業所では路線の確定に伴って事業実施区域に対して再度詳細な分布調査を依頼した。依頼を受けた県教委では平成4年4月4日～4月6日に分布調査を実施し、その結果は平成4年8月18日付教文第564号で回答した。

回答を受けた事業所では、事業の実施に伴って県教委に対して盛地（岩土地）第186号で事業実施区域に対する試掘調査の依頼をした。依頼を受けた県教委は平成6年7月22日試掘調査を実施し、その結果は本調査が必要で有る旨を付記して平成6年8月8日付教文第449号によって回答され、さらに県教委は平成6年8月9日付教文第8-37号で遺跡発見の通知をした。

回答を受けた事業所では、事業実施に先立って平成7年度に発掘調査を実施してほしい旨を県教委に依頼をしたが、依頼を受けた県教委は（財）岩手県文化振興事業団（以下事業団）の平成7年度受託事業として発掘調査を実施することとし、事業所と事業団の両者に通知した。通知を受けた両者は、平成7年3月に発掘調査に係わる事前協議を持ち、平成7年8月から調査を開始することとした。

実際の発掘調査に当たっては、平成7年8月10日付で岩手県盛岡振興局長と（財）岩手県文化振興事業団理事長との間で委託契約を締結し、平成7年8月16日から調査に着手し、予定どおり10月31日に調査を終了し現場を撤収した。



第1図 岩手県図における玉山村の位置

Ⅱ. 立地と環境

1. 遺跡の位置

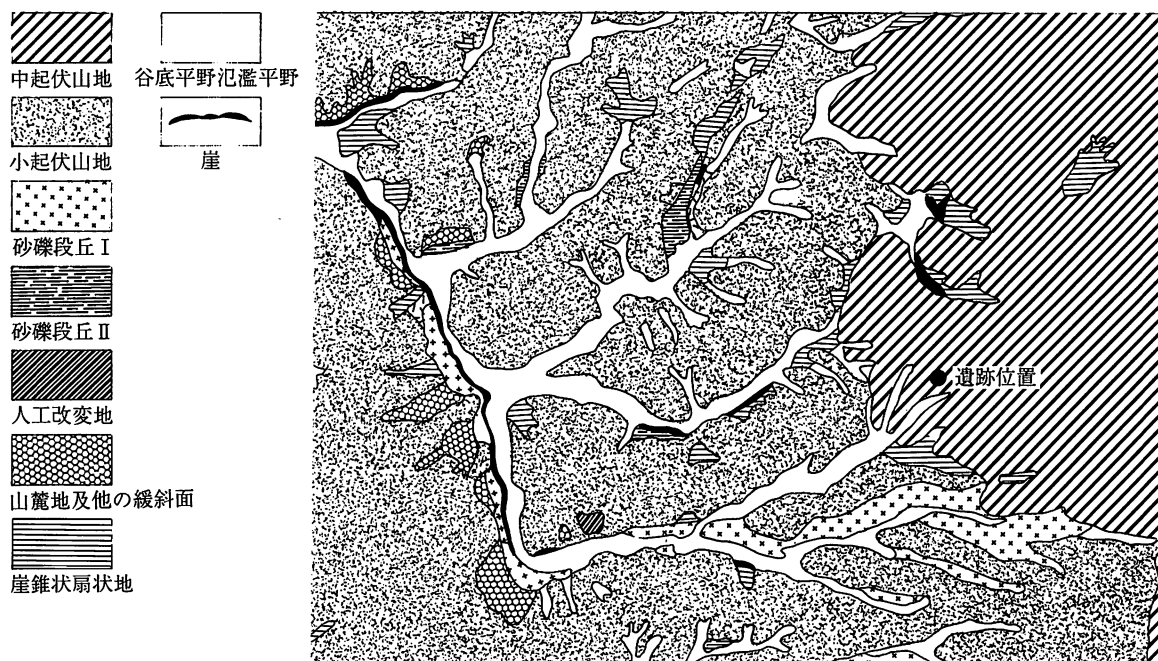
遺跡の存在する玉山村は県の中央部、県都盛岡市の北部に隣接し、北上山地の西麓に位置する。東は下閉伊郡岩泉町、西は滝沢村・西根町、南は盛岡市、北は岩手町・葛巻町に接する。北上川が村を南流し、近くを国道4号、東日本旅客鉄道東北本線が相交錯して南北に通る。村の総面積は397.90km²で、中央部には岩洞ダムによって造成された岩洞湖があり6.24km²の湛水面積を占める。総人口は約14,700人、居住地域は東部の山地が疎で、西部北上川沿いの低地部は密となっている。また当村は詩人石川啄木の故郷として名高い。

本遺跡は村の西南部に位置し、東日本旅客鉄道東北本線浪民駅から東南東6.8kmの距離がある。北側の北上山系の時館山(516.0m)、鳶頭山(709.8m)、東側の物見山(649.9m)などに囲まれた山間部にあり標高は約340mで、遺跡の南側には北上川水系である濁川へ合流する官代沢が流れている。遺跡の現況は草地で、最近は畑として利用されていた。また遺跡の中央部に小さな沢が通る。

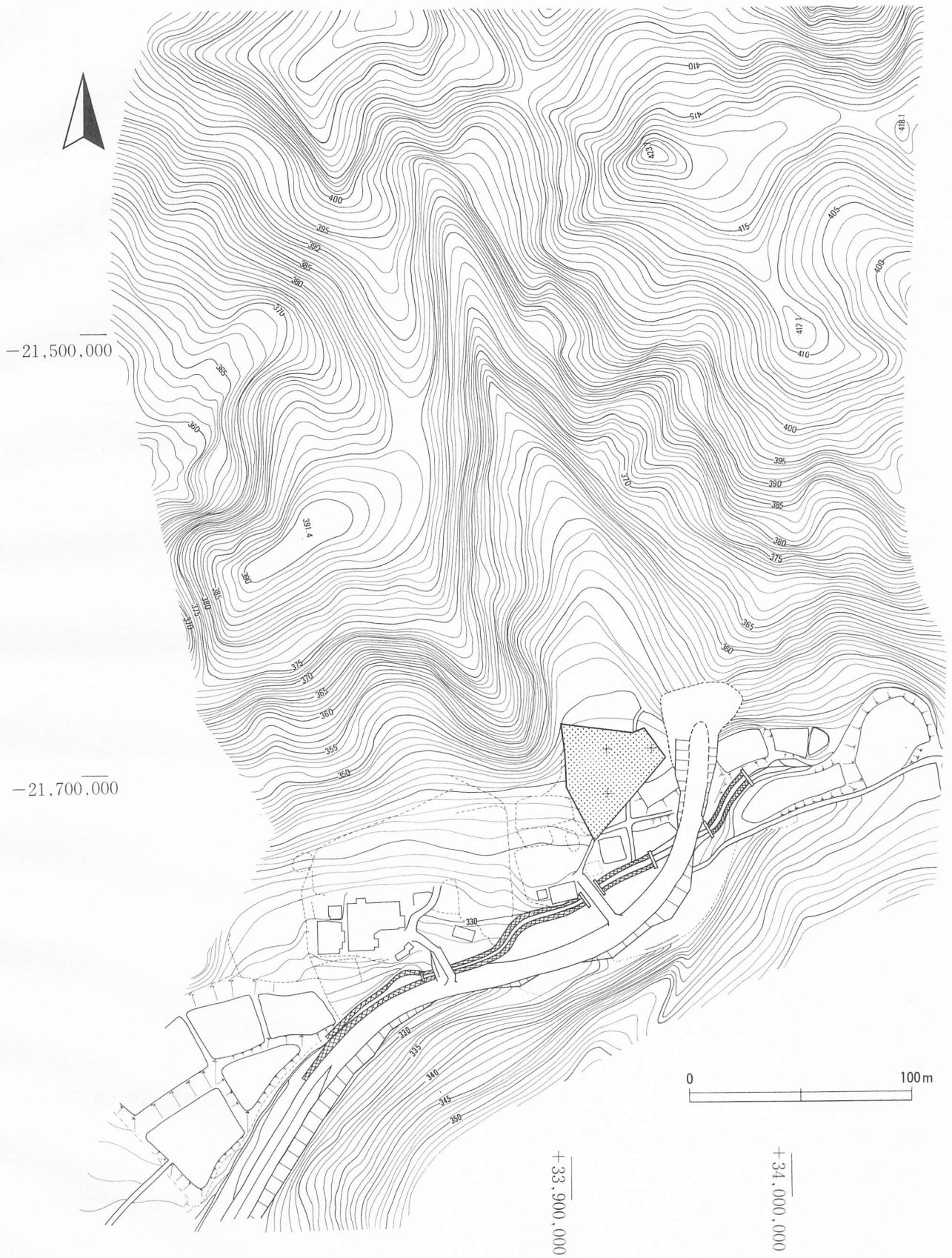
2. 地形・地質

遺跡の所在する玉山村周辺の地形を概観すると、東側には北上山地古生層をなす外山高原・早坂高原があり、西側には北上川が南流している。北上川には岩手郡岩手町の御堂観音境内にその源を發し、北上・奥羽両山系を東西に二分し、南北に縦走する幹線流路延長249kmの大河で、玉山村は北上川の上流域にあたる。村内の北上川支流には東側に西郡川、芦名沢川、大橋川、濁川、飛田川、西側に最大支流の松川がある。

玉山村の総面積の約79%が山地であり、大半を北上山脈の古生代に形成された泥岩が占めている。周辺地域の基盤は他に砂礫、輝緑凝灰岩、流紋岩質岩石、花崗岩質岩石などであり、これらを沖積統の黒色土層類や河川堆積物がのっている。本遺跡は北上山麓西側の中起伏山地上にあり、南の官代沢流域に沖積世砂礫段丘、新第三紀以降の小起伏山地が広がっている。



第2図 地形分類図



第3図 遺跡位置図

3. 基本層序

本遺跡は、先に述べたように最近まで畑として利用されていたため所々攪乱を受けている。調査区の北側では地山までの層が厚く堆積しており、南側へ向けて次第に薄くなっていく。基本層序としては、層のよく残っている北側の旧沢に伴わないところを選んだ。層序の様子は次の通りである。

第Ⅰ層 10YR2/3 黒褐色土 粘性なし しまりあり 径3mmのカーボン少量含む 植物痕多量に混入 現表土

第Ⅱ層 10YR2/2 黒褐色土80% 10YR4/4 褐色土20%の混合土層 粘性ややあり しまりなし 植物痕多量に混入 盛り土

第Ⅲ層 10YR2/3 黒褐色土80% 10YR2/2 黒褐色土20%の混合土層 粘性なし しまりなし 植物痕なし 旧畑地土

第Ⅳ層 10YR3/4 暗褐色土60% 10YR4/6 褐色土40%の混合土層 やや粘性あり しまりなし 10YR5/8 黄褐色土10%含む 径6mm~10mmの浮石を含む 盛り土

第Ⅴ層 10YR2/2 黒褐色土 粘性・しまりともにややあり 層中5%程部分的に筋状に砂を含む 旧耕作土

第Ⅵ層 10YR2/2 黒褐色土 粘性あり しまりあり 径3mmのカーボンを微量に含む 遺物包含層

第Ⅶ層 10YR3/4 暗褐色土 第Ⅵ層と第Ⅷ層の漸移層 径1mmの礫を少量含む 粘性あり しまりあり

第Ⅷ層 10YR4/6 褐色土 粘性あり 硬くしまる 径1mmの浮石を微量に含む 5mm程の小礫を多く含む

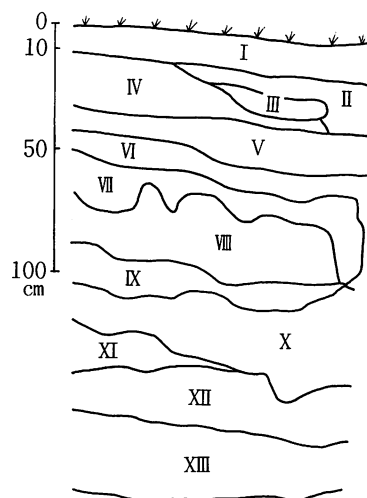
第Ⅸ層 10YR2/3 黒褐色土 粘性あり 硬くしまる 径10mm前後の浮石を微量に含む 7.5YR3/4 暗褐色土一部ブロックで含む カーボンなし

第Ⅹ層 10YR3/3 暗褐色土 粘性あり しまりあり 径10mm~15mmの浮石を7%程含む 径3mm~5mmの小礫7%程含む

第ⅩⅠ層 10YR3/4 暗褐色土 粘性あり 硬くしまる 径8mm~10mm程の浮石20%含む

第ⅩⅡ層 10YR5/8 黄褐色火山灰 分かれ火山灰の柳沢浮石

第ⅩⅢ層 7.5YR4/4 褐色土 粘性あり 硬くしまる 径8mm程の浮石(5YR4/8 赤褐色火山灰)を所々ブロック状に含む



第4図 土層断面図

4. 周辺の遺跡

岩手県教育委員会文化課遺跡台帳によると、本遺跡のある玉山村の旧石器、縄文、弥生、古墳(奈良を含む)、中世、近世の遺跡数は181ヶ所である。(表においては遺跡名の記入されているものを記載した。) そのうちで最も多いのは縄文時代の遺跡(複合遺跡含む)で109ヶ所を超える。続いて平安時代の遺跡、弥生時代の遺跡の順である。

旧石器時代：台帳に記載されている旧石器の遺物出土遺跡は、小石川遺跡のみである。昭和55年に発掘が行われ、尖頭器4点、石核4点、剥片22点、屑片117点が出土し、後期旧石器時代の遺跡であることが確認された。

縄文時代 早期：台帳にその記載は見あたらないが昭和31年に故草間俊一氏らが調査した日戸遺跡の調査略報のなかに「早期貝殻文の破片が割合に多く発見されている。」とあり、石器についても「早期の貝殻文

土器片等と伴出した打製の石筥状石器4個出土した」と記されている。

前期：台帳に記載されている縄文時代前期の遺跡には元好摩遺跡、状小屋Ⅰ遺跡、沢田Ⅲ遺跡、古屋敷遺跡など4ヶ所がある。また上記の日戸遺跡でも「縄文時代前期初頭の縄文ある繊維を含有した土器、土器片等が出土」と確認されている。

中期：台帳に記載されている中期の遺物出土遺跡には、元好摩遺跡、馬場Ⅱ遺跡、状小屋Ⅰ遺跡、三枚岩遺跡、高木遺跡、芋田F遺跡、昼久保遺跡、古屋敷遺跡などである。また上記の日戸遺跡、今回調査の間洞Ⅱ遺跡でも中期後半の大木系土器が出土している。

後期：台帳に記載されている後期の遺物出土遺跡は14ヶ所である。また今回発掘調査した間洞Ⅱ遺跡は後期前半末頃を中心とした遺跡で、土坑から深鉢や浅鉢形土器が多く出土している。また石斧、石鏃をはじめとする石器類もこの時期の包含層から出土している。

晩期：台帳に記載されている晩期の遺物出土遺跡は平森山遺跡、巻掘Ⅰ遺跡・巻掘Ⅱ遺跡、高木Ⅱ遺跡、寺の沢遺跡、前田Ⅰ遺跡など16ヶ所である。前田Ⅰ遺跡は、昭和60、61、63、平成元年に東北大学により調査が行われている。10数基の土壙群と2棟の竪穴住居跡、1基の大型竪穴が確認され、このうちの竪穴住居跡1棟から晩期の土器が豊富に出土した。それ以外は未調査であり、出土遺構や出土遺物に関しては不詳である。

間洞Ⅱ遺跡でも若干の破片が出土している。

弥生時代：台帳に記載されている弥生時代の遺物出土遺跡は下平遺跡、梨木平遺跡、千手観音堂裏遺跡、才津沢遺跡、幅下Ⅰ遺跡、幅下Ⅱ遺跡、三枚岩遺跡、芋田沢遺跡、山屋遺跡の9ヶ所である。他に遺跡名不掲載で弥生時代後期平行期の後北式土器が出土している地点がある。いずれも散布地および集落跡と記されているが詳細は不明である。

古墳時代・奈良時代：昭和48年に永井沢古墳の調査が行われ、石組や葺石を持たない円墳から土師器が1点出土している。これと近接する谷地田遺跡も同時に調査され、土師器を伴った奈良時代の竪穴住居跡2棟を確認している。

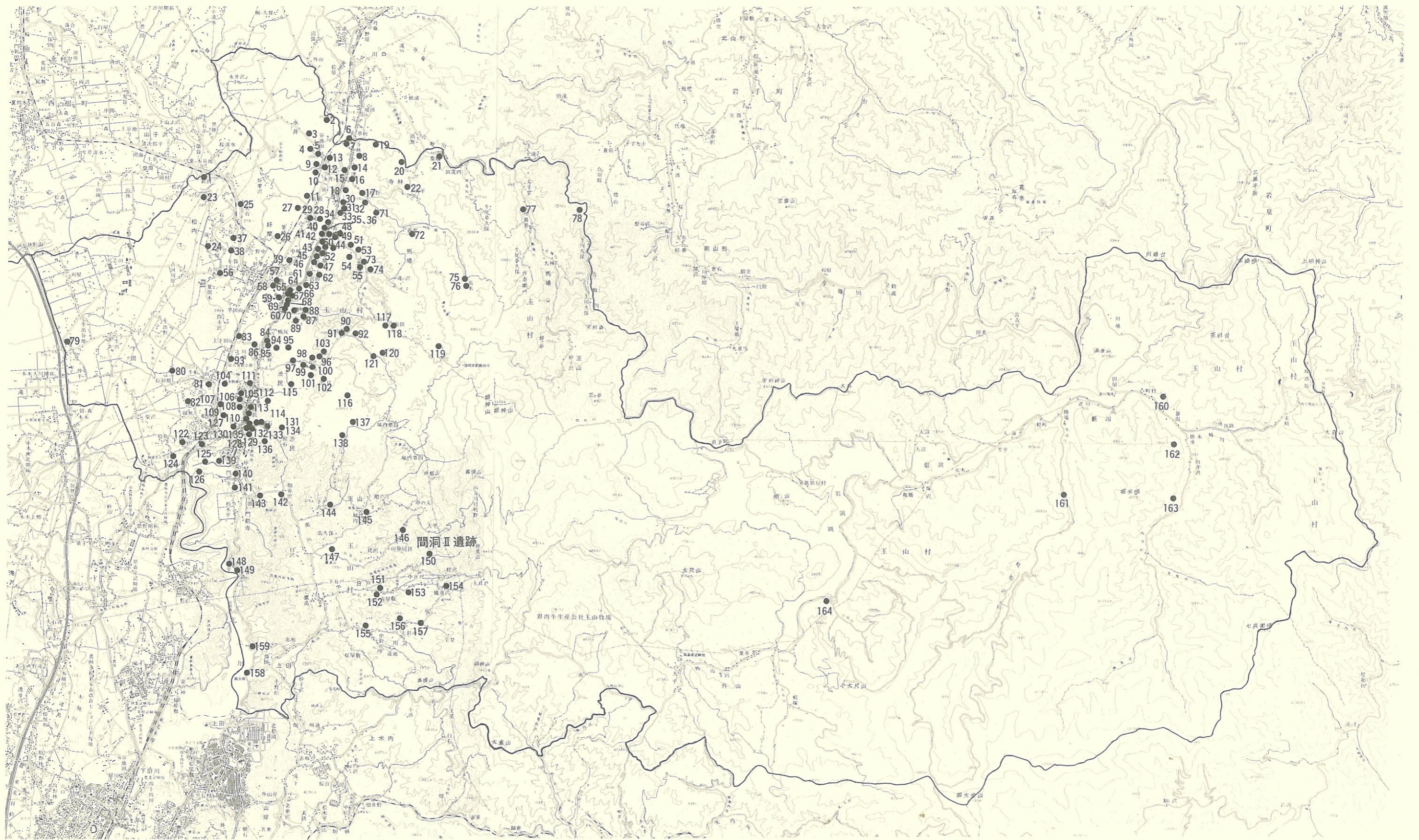
平安時代：台帳に記載されている平安時代の遺物出土遺跡は千手観音堂裏遺跡、本宮Ⅰ遺跡、才津沢遺跡、芋田C遺跡、沢田Ⅳ遺跡をはじめ14ヶ所で確認されている。いずれも詳細は不明である。また北上山地の高峰姫神山山麓にある玉東山東楽寺（玉山字城内）の観音堂に14体の仏像が納められている。そのうち、木造十一面観音立像1体、木造仁王像2体、木造十一面観音菩薩立像付木造立像5体は平安中期の作とされている。

中世：台帳に記載されている中世の遺物出土遺跡は上大台館遺跡、愛宕山館遺跡等がある。日戸館、玉山館、洪民館は現存する。この中で下田八幡館は昭和58年に調査が行われており、堀4条、土塁2条、掘立柱建物跡10棟、竪穴住居跡1棟等が検出された。

- 〈参考文献〉
- | | | |
|----------|------|---|
| 岩手県 | 1970 | 「外山」 北上山系開発地域 土地分類基本調査 |
| 角川書店 | 1985 | 「岩手県」 角川日本地名辞典3 |
| 草間俊一 | 1956 | 「玉山村日戸遺跡調査略報」 岩手大学学芸学部年報第14巻 |
| 玉山村教育委員会 | 1982 | 「小石川遺跡」 文化財調査報告書第9集 |
| 玉山村教育委員会 | 1984 | 「下田八幡館」 文化財調査報告書第10集 |
| 須藤 隆 | 1992 | 「東北地方における晩期縄文土器の成立過程」
加藤稔先生還暦記念『東北文化論のための先史学歴史学論集』 |
| 日本考古学協会 | 1973 | 「発掘と調査・岩手県」日本考古学年報26 |

No	遺跡名	種別	時代	No	遺跡名	種別	時代
1	八幡宮館	城館跡		46	沢田Ⅰ	散布地	縄文
2	谷地田館	城館跡		47	沢田	散布地	縄文
3	永井沢Ⅰ	集落跡	縄文	48	熊野山	寺院跡	
4	百目木	散布地		49	馬場Ⅳ	散布地	縄文
5	永井	集落跡	平安	50	馬場Ⅱ	集落跡	縄文
6	下平	散布地	縄文・弥生	51	馬場Ⅲ	散布地	縄文
7	梨木平	散布地	縄文・弥生	52	状小屋Ⅰ	散布地	縄文
8	千手観音堂 裏	散布地	縄文・弥生・平安	53	芦名沢Ⅰ	散布地	縄文
9	永井沢Ⅱ	集落跡		54	芦名沢Ⅱ	散布地	縄文
10	段の平館	城館跡		55	芦名沢Ⅲ	散布地	縄文
11	いたこ石	散布地		56	古川	集落跡	
12	荒屋	散布地	縄文	57	上山Ⅰ	散布地	縄文
13	土橋	散布地	縄文	58	上山Ⅱ	城館跡	
14	平森山裾	散布地	縄文	59	上芋田	散布地	縄文
15	一字一石一 礼塔	経塚		60	芋田C	集落跡	縄文・平安
16	才津沢	集落跡	縄文・弥生・平安	61	沢田Ⅳ	散布地・ 集落跡	
17	幅下Ⅰ	散布地	縄文・弥生	62	芋田V	集落跡	縄文
18	本宮Ⅰ	散布地	縄文・平安	63	沢田Ⅲ	集落跡・ 散布地	縄文・平安
19	境平Ⅰ	散布地	縄文	64	芋田A	散布地	縄文・平安
20	境平Ⅱ	集落跡	縄文	65	新塚一里塚	一里塚	江戸
21	桑畑館	城館跡		66	沢田Ⅵ	散布地	縄文
22	平森Ⅱ	散布地	縄文	67	芋田B	散布地	弥生・平安
23	松内館	城館跡		68	芋田E	散布地	縄文
24	学校屋敷	散布地	縄文	69	芋田D	散布地	縄文・平安
25	上大台館	城館跡	中世	70	幅下Ⅱ	散布地	縄文・弥生
26	釜崎	集落跡	縄文	71	三枚石	散布地	縄文・弥生
27	元好摩	散布地	縄文	72	西郡館	城館跡	
28	築袋Ⅱ	散布地	縄文	73	芦名沢Ⅳ	散布地	縄文
29	築袋Ⅰ	散布地		74	山館	城館跡・ 散布地	
30	幅下	散布地	縄文	75	高木Ⅱ	散布地	縄文
31	巻堀Ⅰ	散布地	縄文	76	高木Ⅰ	散布地	縄文
32	熊堂	城館跡		77	葛巻館	城館跡	
33	巻堀Ⅱ	散布地・ 集落跡	縄文	78	二子館	城館跡	
34	馬場北	散布地	縄文	79	生出湧口	散布地	縄文
35	馬場中	散布地	縄文	80	牛転	散布地	縄文
36	馬場Ⅰ	集落跡	縄文	81	下田館	城館跡	縄文
37	小袋Ⅱ	集落跡		82	生出向	散布地	縄文
38	小袋Ⅰ	集落跡		83	矢城	城館跡	
39	中塚館	集落跡		84	武道Ⅱ	散布地	縄文
40	馬場南	散布地	縄文	85	武道Ⅲ	散布地	縄文
41	小豆とぎ	散布地		86	武道Ⅰ	散布地	縄文・平安
42	榊沢山館	城館跡	縄文	87	芋田F	集落跡	縄文
43	状小屋Ⅱ	散布地	縄文	88	芋田沢	散布地	縄文・弥生
44	状小屋Ⅲ	散布地	縄文	89	昼久保	散布地	縄文
45	沢田Ⅱ	散布地	縄文	90	山屋	散布地	縄文・弥生

第1表 周辺の遺跡表(1)



第5図 周辺の遺跡

No	遺跡名	種別	時代	No	遺跡名	種別	時代
91	合羽沢	散布地	縄文・弥生	136	館石	散布地	縄文
92	水上	散布地	縄文	137	大谷地頭	散布地	縄文
93	敷屋森	城館跡		138	大谷地	散布地	縄文
94	八幡館	城館跡	縄文	139	御供山館	散布地	
95	武道東	散布地	縄文	140	門前寺Ⅰ	散布地	
96	山屋Ⅲ	散布地	縄文	141	門前寺Ⅱ	散布地	縄文
97	大坊石	散布地	縄文	142	旗井沢	散布地	縄文
98	山屋Ⅱ	散布地	縄文	143	独活倉	散布地	縄文
99	山屋館	散布地	縄文	144	二子沢館	城館跡	
100	沢目	散布地	縄文	145	玉山館	城館跡	縄文
101	山屋Ⅳ	散布地	縄文	146	山谷川目	散布地	縄文
102	山屋開墾	散布地	縄文	147	館花	城館跡	
103	山屋Ⅴ	散布地	縄文	148	笹平	散布地	縄文
104	下田	城館跡	縄文	149	笹平一里塚	一里塚	
105	泉田	散布地	縄文	150	間洞Ⅱ	散布地	縄文
106	小前田Ⅰ	散布地	縄文	151	日戸館	城館跡	
107	下田八幡	城館跡	縄文	152	古屋敷	散布地	縄文
108	小前田Ⅱ	散布地	縄文	153	岩井沢館	城館跡	縄文
109	牡丹野	散布地		154	黄道沢	散布地	縄文
110	愛宕裏A	散布地	縄文	155	館	屋敷跡	縄文
111	鶴塚	散布地	縄文	156	城館跡	城館跡	
112	小長根	散布地	縄文	157	宇頭	散布地	縄文
113	洪民東裏	散布地	縄文	158	川口平館	城館跡	
114	愛宕山	城館跡		159	町川又館	城館跡	
115	山屋沢目	散布地	縄文	160	肝入屋敷館	城館跡	
116	寺の沢	散布地	縄文	161	軽町沢掘米館	城館跡	
117	前田えぞ館	城館跡			館		
118	前田Ⅰ	散布地	縄文	162	蒲田館	城館跡	
119	前田Ⅱ	散布地	縄文	163	向井沢掘米館	城館跡	
120	田の沢B	散布地	縄文		館		
121	田の沢	散布地	縄文	164	小石川	散布地	
122	松島Ⅰ	散布地	縄文				
123	船田	散布地	縄文				
124	松島Ⅱ	散布地	縄文				
125	岩鼻	散布地	縄文				
126	柏木平Ⅱ	城館跡					
127	平田野館	城館跡					
128	大森Ⅰ	散布地	平安				
129	大森Ⅲ	散布地	縄文				
130	愛宕裏B	散布地	縄文				
131	愛宕裏C	散布地	縄文				
132	愛宕山館	城館跡	中世				
133	館石Ⅱ	散布地	縄文				
134	館石Ⅲ	散布地	縄文				
135	大森Ⅱ	散布地	縄文				

周辺の遺跡表(2)

Ⅲ. 調査方法と整理方法

1. 野外調査

(1) グリッドの設定

間洞Ⅱ遺跡は、南北の傾斜に合わせて座標の基準を設定し、20m間隔で西から東に向かいA B C・・・とアルファベットを、北から南にⅠⅡⅢ・・・と昇順する数字を当てて大グリッドを組んだ。さらに各グリッドを4m間隔で25等分して西から東そして北から南と01～25と当てて小グリッドを表すことにした。

使用した座標軸は、次の通りである。

基1 X = -21,690.000 Y = 33,920.000

基2 X = -21,710.000 Y = 33,920.000

補1 X = -21,690.000 Y = 33,940.000

(2) 粗掘と精査

調査は、まず地形に合わせて南北に4本、東西の方向に1本トレンチを入れた。トレンチによる遺構検出面までが厚く、またその間の表土からの遺物がほとんど見当たらないことから表土除去を重機により行った。

遺構の検出は、最東及び最西に関しては表土下が地山面だったため容易に進めたが、中央部については前に畑として利用され重機が入り込んでいることもあり検出が容易でなかったため、10cm程度ずつ掘り下げ遺構の検出に努めた。

精査は、基本的に2分法による埋土の観察を行ったが、面的に広がりを持ちそうな遺構については4分法を用いた。

遺物の取り上げは、遺構外出土のものは小グリッド単位で層位を記入し、遺構内では遺構名と埋土層位を記入して取り上げている。また、旧沢からは多くの遺物が出土したが、遺構外として基本的にグリッド名で取り上げを行った。

(3) 遺構の記録

遺構の記録は主に実測図作成と写真撮影により行い、作図に表現できないものはフィールドカードに記録した。

作図は遺り方測量を準用し、遺構の平面形、焼土、遺物出土状況を記録した平面図、及び断面形、埋土の堆積状態を記録した断面図を作成した。土坑のいくつかは、形状・深さにより正確な断面形を図化できない時には完掘後エレベーション図を作成した。縮尺は原則的に1/20とし、遺物出土状況については1/10で作成した。また、旧沢跡は、平板測量により縮尺1/100で作図した。

写真は、埋土堆積状態、遺物出土状況、完掘状態（焼土については検出状況含む）というように精査の段階ごとに撮影を行っている。フィルムは35mmのモノクロームとリバーサルフィルム、さらにモノクロは6×7判のものも使用した。調査終了全景は航空写真撮影を行った。

2. 整理方法

図面の点検・遺物の洗浄・写真の整理は、原則として野外調査と並行して行うことにしたが、写真の整理等一部は野外終了後に行った。

(1) 遺構図面

遺構図面は、点検後に第2原図を作成した。挿図中の縮尺は1/40を原則とし、任意の縮尺についてはスケールを付している。なお使用したスクリーントーンの種類は凡例のとおりである。

(2) 遺物



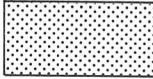
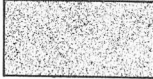
遺物は、洗浄後全出土遺物を点検し、実測や拓本の必要なものを選択したあと遺構内外に分けて登録し、注記・接合・復元を行った。その後、写真撮影・実測・トレース・図版作成と作業を進めた。

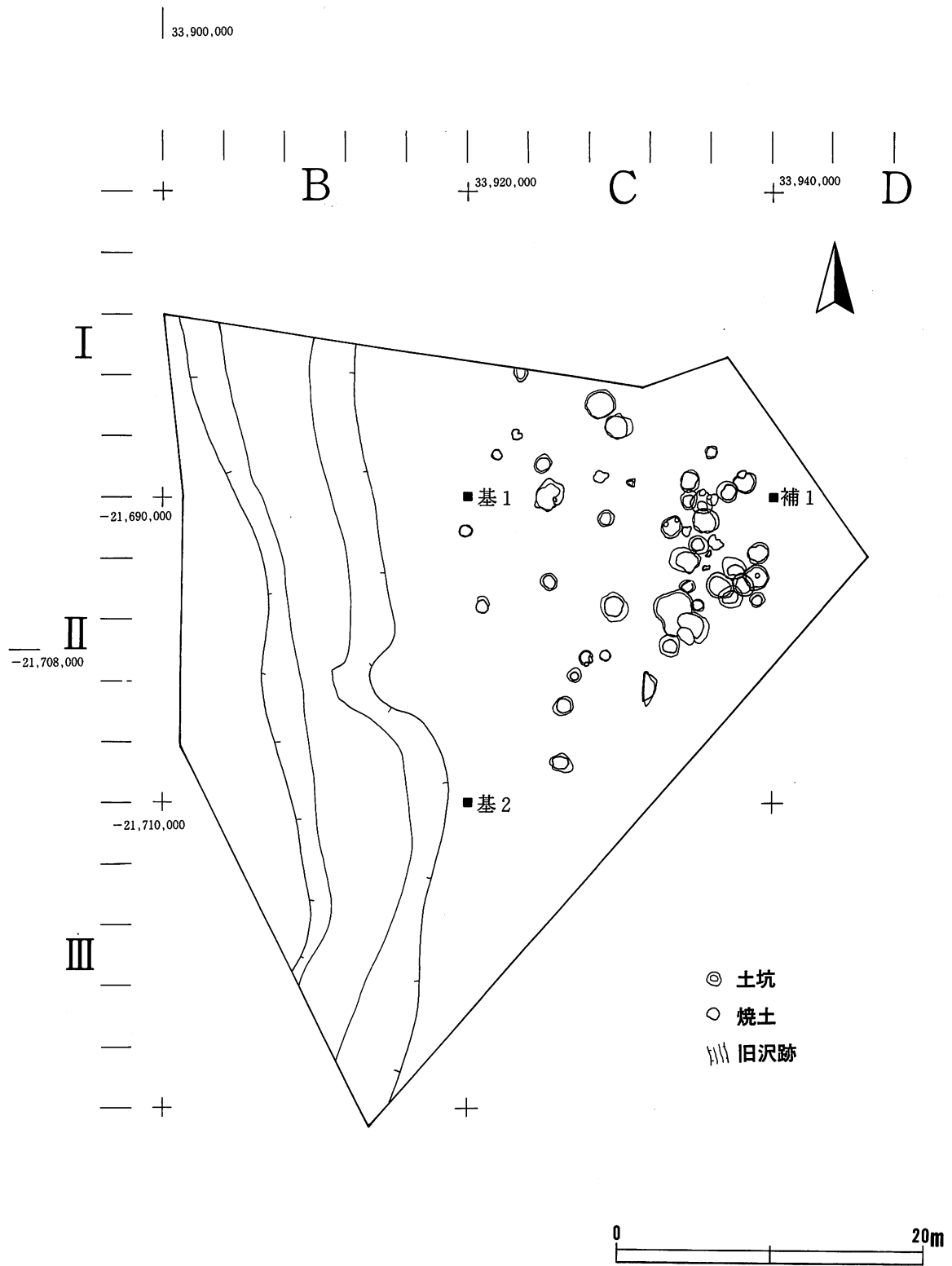
報告書に記載した遺物の選択基準は、土器は、完形品のすべてと接合復元で実測可能になった大部分、口縁部と胴部資料は文様の明瞭なものを優先し、底部資料は網代痕等のあるものの一部である。また、破片資料においても遺構の床面直上及び、埋土下部からの出土はなるべく使用した。石器は、加工されたものはすべて記載し、一部剥片も比較資料として選択・記載した。計測表には登録した石器すべて記載している。挿図中の縮尺は、土器1/3、土製品は2/3、石器は2/3を原則としているが、任意の縮尺については各図版中に記してある。なお、図版と写真図版の遺物番号は一致している。

(3) 写真

野外調査中に撮影した写真は、フィルムの規格ごとにモノクロはネガアルバムに、リバーサルフィルムはスライドファイルに整理した。いずれも撮影順に整理し、台帳に記載した。遺物は、登録したものを遺構内土器、遺構外土器、土製品、石器の順に35mmフィルムで撮影し、同様に整理を行った。なお、遺物撮影は当センターの写真技師が担当した。図版中の縮尺は、土器1/4、土製品1/2、石器2/3を原則としているが、任意の縮尺については各写真図版中に示してある。

	A					B	C
I	01	02	03	04	05		
	06	07	08	09	10		
	11	12	13	14	15		
	16	17	18	19	20		
	21	22	23	24	25		
II							
III							

〈凡例〉	
地山	
焼土	
遺物(土坑内)	
石器の磨痕	



第 6 図 遺構配置図

IV. 調査結果

1. 概要

今回の調査で、初めにトレンチを入れた際、東側の方は検出面までの厚さがあまりないのに対し、中央部のトレンチでは大変厚く土器片も多く出土した。西側に向かって全体に傾斜しているかと思われたが、旧沢跡であり、流れ込みによる土器片が出土していることがわかった。遺構は、土坑が43基、焼土が7基検出された。土坑は断面がフラスコ状を呈するものが27基と6割強を占める。竪穴状の遺構は見当たらなかった。これらの遺構はいずれも旧沢跡の東側に検出された。

遺物は後期中心の土器、土製品、剝片石器が出土している。

2. 遺構

(1) 土坑

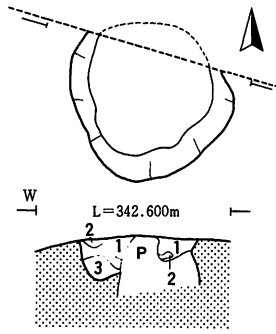
I C区と名付けた旧沢跡の北東部では15基の土坑が検出された。I C 1号土坑は、縄文時代後期前半の土器が一括出土している。口縁～胴下部までで、底部はなく横位の状態でつぶれていた。埋土の様子から埋設されたものではないと考えられる。I C 2号土坑は埋土の粘性が下位に行くほど強くなっていった土坑である。炭化物粒が散在していたが、原形がわかるような炭化物は含まれていなかった。埋土の様子から人為的に埋められたものと思われる。I C 4号土坑は土器が埋土下部より多く出土しており、本遺跡の中では最大径150cmと大型の部類に入り断面がフラスコ状を呈する土坑である。出土遺物は深鉢のほか浅鉢などほぼ完形のものや台石と思われるものも含まれていた。これらの遺物は土坑の中に設置されて使用されていたものではなく土坑を埋めた際に遺物も一緒に入り込んだと思われる。土器は縄文時代後期前葉のものと思われる。I C 5号土坑は柱穴状ピットのようなものだったが、現況に壊されているために半分ほどしか検出することはできず、実際の平面形を把握することはできなかった。遺物のところでも取り上げるが、この土坑の検出時に同質の石器類が出土した。しかし、この遺構は直接これらの石器に関わることはないようである。I C 8号土坑からは、厚さ1～3cmの焼土のブロックが出土している。底面より10～15cm程上位で見つかりその焼土の上に重なるように1個体分ほどの縄文時代後期前葉の土器片が出土した。埋土の一部と思われる。I C 9号土坑はI C 3号土坑の壁を切って掘られ、土器片を含む焼土が検出されたが濁りが多く流れ込みのものと思われる。I C 10号土坑は、I C 7号土坑、I C 12号土坑、I C 15号土坑、II C 12号土坑とそれぞれ重複している。新旧関係はI C 7号土坑とI C 15号土坑を切るようにI C 10号土坑が作られ、その後I C 12号土坑とII C 12号土坑が作られている。土器は極めて上位よりの破片のみの出土で、I C 7号土坑とI C 15号土坑、I C 12号土坑とII C 12号土坑とのそれぞれの新旧関係はわからない。

II B区と名付けた調査区中央部からは1基のみ検出された。II B 1号土坑は底面に礫が並んでいた（人為的な並びではない）。最も旧沢に近いところにあり、周辺に礫が検出の際に見つかることから自然のものと思われる。埋土そのものには礫はなかった。

II C区と名付けた調査区は旧沢跡の東部～南東部で、27基ともっとも多くの土坑が検出された。II C 1号土坑は約径35cm、深さ約20cmの2基の柱穴状ピットを伴い検出された。一部水道管埋設による攪乱があったが、幸い平面形を把握することができた。柱穴状ピットの埋土は当遺構と同じもので土坑に伴うものと考えられる。柱穴状ピットは2基以外検出できず、また土坑外にも見つからなかったため、どういう性格のもの

なのか不明である。ⅡC 2号土坑はⅡC 20号土坑と重複しており、平面形は円形で底部は楕円形を呈する。ⅡC 2号土坑のほうが古い。縄文時代晩期の土器片が出土している。ⅡC 3号土坑は断面形がフラスコ状を呈するものであるが、半分は礫が占めている。礫は頭大のものが多く、流れ込みとは考えにくい。遺物等は出土していない。ⅡC 4号土坑は今回検出された土坑の中でもっとも大きく最大径が 317cmある土坑である。当初、竪穴状の遺構かとも思われたが、炉や柱穴状ピット等はまったく検出されず、また底面の様子から竪穴状の遺構とは言い難いために土坑の中に入れたものである。土器片もあったが、ごく小さいもので埋土上位から下位にわたって出土しており、流れ込みによるものと思われる。ⅡC 11号土坑と重複しており、11号土坑がこの遺構に切られている。ⅡC 5号土坑は中央に径30cmの柱穴状ピットを伴っている。ⅡC 22号土坑と重複している。5号土坑のほうが新しい。また、このⅡC 22号土坑はⅡC 20号土坑、ⅡC 24号土坑とも重複している。先に述べたようにⅡC 2号土坑も重複している。これらの新旧は古い方からⅡC 24号土坑→ⅡC 22号土坑→ⅡC 20号土坑→ⅡC 2号土坑・ⅡC 5号土坑の順となる。これらの遺構の中でⅡC 24号土坑のみ埋土上位～中位から縄文時代後期前葉の土器が出土している。ⅡC 6号土坑からは当遺跡より最も多く出土している縄文時代後期前葉の土器が埋土中位から出土している。ⅡC 7号土坑は床部が礫によって一部壊されていた。ⅡC 8号土坑は、調査区の最南に位置する遺構である。埋土上位からは小破片の土器が多く出土した。ⅡC 10号土坑からは埋土上位～床直にかけて土器が出土した。特に中位からは花瓶型の土器がほぼ完形の状態で、下位からは浅鉢が完形で出土している。床直では全体の1/4程にあたる口縁～胴部の縄文時代後期前葉の土器片が出土している。埋土の様子から何度かに分かれて埋まったものと思われる。深さは103cmで、壁の北側でははっきりしないところがあった。ⅡC 14号土坑は底部に礫が多く、礫に達するまでは壁はきちんと掘られた様子がわかった。ⅡC 15号土坑は最初焼土と思われる土が散在しており、それにより検出できた土坑である。ⅡC 16号土坑は、ⅡC 4号土坑と同様、当初竪穴状の遺構に見えたが、断定できるものは検出されず土坑に入れた。3個体程の土器が埋土中位から下位より出土した。土器の時期はほぼ同時期である。この土坑の検出時に焼土(ⅡC 5号焼土)が検出されたが現地性のものとは思われず、この土坑との関連性はないと考えられる。ⅡC 17号土坑からは埋土中位より一括土器が出土している。また、土器片を含む焼土も埋土の同層より検出した。ほぼ同層より土器が出土しており、ある程度土坑が埋まってから焼土とともに投げ込まれたものと思われる。ⅡC 18号土坑は断面形がフラスコ型を呈するもっとも深い土坑で118cmあった。土器片も見つかったが、いずれも小破片であり、別土坑からの出土の破片と接合した。ⅡC 21号土坑は沢のため平面形が完全な形で検出できなかった。埋土上位では、他の土坑と同じ検出面で他からは出土していない厚手の縄文土器約1個体分が見つかっている。しかし、風化が著しく取り上げようとすると碎けてしまう状態で全体の1/3程度しか取り上げることができなかった。胎土、文様等から縄文時代中期の土器と思われる。また、埋土中位から同時期と思われる別個体の土器片が1片のみ出土している。検出面は他の土坑群と同面である。すぐ近くから大木9式の土器が出土している。ⅡC 23号土坑はⅡC 4号土坑によって底部を壊された遺構である。埋土から人為的に埋められた様子がわかる。遺物の出土はない。ⅡC 25号土坑は風倒木痕と思われる攪乱を受けている。ⅡC 26号土坑とⅡC 27号土坑はほぼ同規模の土坑である。比較的壁も明確であった。遺物の出土はない。

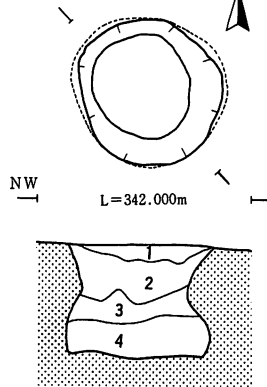
IC1号土坑



- 10YR2/3 黒褐色シルト。粘性ややあり、しまりなし。
- 10YR3/4 暗褐色シルト。粘性ややあり、しまりなし。壁の崩落土と上部の土との混合層。
- 10YR3/4 暗褐色シルト。粘性ややあり、しまりなし。

断面形	ビーカー
規模 (cm)	開口部径 90
	底部径 69
	深さ 22
備考	一括土器有り

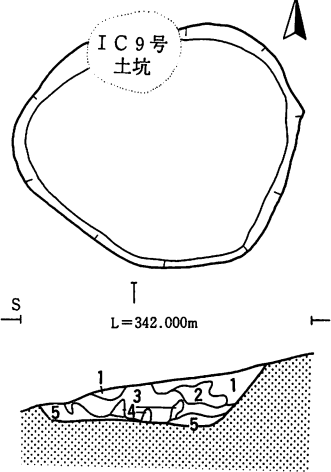
IC2号土坑



- 7.5YR2/2 黒褐色シルト。粘性ややあり、しまりなし。
- 7.5YR2/2 黒褐色シルト。粘性あり、しまりなし。径2~3mm程の炭化物粒微量含む。土器片、石器などが混入。
- 10YR3/4 暗褐色土。粘性強い、硬くしまる。径3~5mm程の小礫微量に混じる。
- 10YR3/3 暗褐色土。粘性強い、しまりなし。径3~5mm程の小礫少量、径3~15mm程の炭化物粒多量に混入。

断面形	フラスコ
規模 (cm)	開口部径 73×80
	底部径 80×83
	深さ 60
備考	

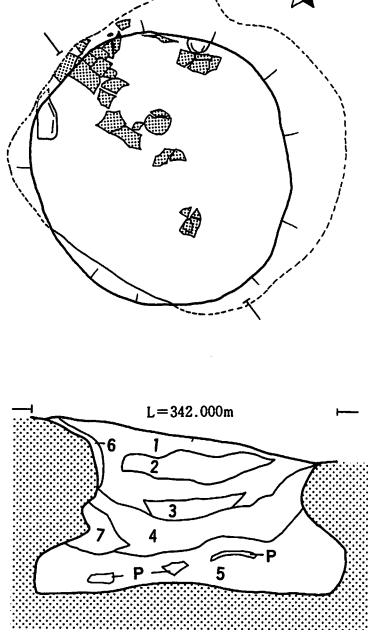
IC3号土坑



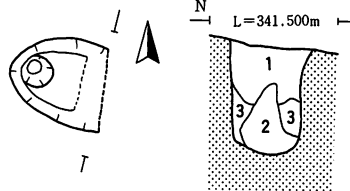
- 10YR2/1 黒色土。粘性なし、しまりなし。
- 10YR2/3 黒褐色土。粘性ややあり、しまりあり。
- 10YR2/2 黒褐色土。粘性あり、しまりあり。
- 10YR3/4 暗褐色土。粘性あり、しまりあり。
- 10YR2/3 黒褐色土。粘性なし、しまりなし。

断面形	ビーカー
規模 (cm)	開口部径 130×156
	底部径 115×140
	深さ 37
備考	IC9号土坑と重複 IC9号土坑よりも古い 焼土出土

IC4号土坑



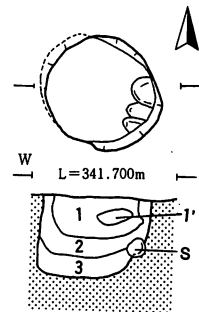
IC5号土坑



- 10YR3/4 暗褐色土。粘性ややあり、しまりなし。10YR6/6 明黄褐色土。粘性ややあり、しまりなし。50%含む。
- 10YR3/4 暗褐色土。粘性ややあり、しまりなし。
- 10YR3/4 2層よりややしまる。

断面形	ビーカー
規模 (cm)	開口部径 45×55
	底部径 30×32
	深さ 57
備考	平面形は稍円形 柱穴状ピット内部に有る石器が埋土上位から多量に出土

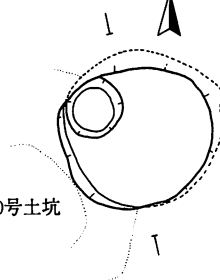
IC6号土坑



- 10YR2/2 黒褐色土。粘性あり、しまりあり。
- 10YR4/4 褐色土(1')をブロックで含む。
- 10YR3/4 暗褐色土。粘性あり、しまりなし。
- 10YR4/6 褐色土。粘性あり、硬くしまる。

断面形	フラスコ
規模 (cm)	開口部径 73×80
	底部径 80×83
	深さ 60
備考	

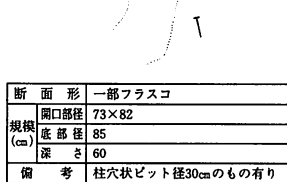
IC7号土坑



- 7.5YR2/2 黒褐色土。粘性ややあり、しまりなし。カーボン1%含む。10YR3/4 暗褐色土(粘性、しまりなし)を含む。(10%弱)
- 10YR3/4 暗褐色土。粘性、しまりあり。カーボン1%含む。
- 2層に同じ。
- 10YR2/3 黒褐色土。粘性ややあり、しまりなし。浮石径1~2mmを1~2%含む。
- 10YR3/3 暗褐色土。粘性、しまりなし。
- 10YR5/8 黄褐色土。粘性、しまりなし(地山)。
- 7.5YR3/3 暗褐色土。粘性、しまりなし。10YR5/6 黄褐色土。含む。粘性ややあり、しまりなし。

断面形	フラスコ
規模 (cm)	開口部径 132×150
	底部径 165×180
	深さ 94
備考	一括土器有り

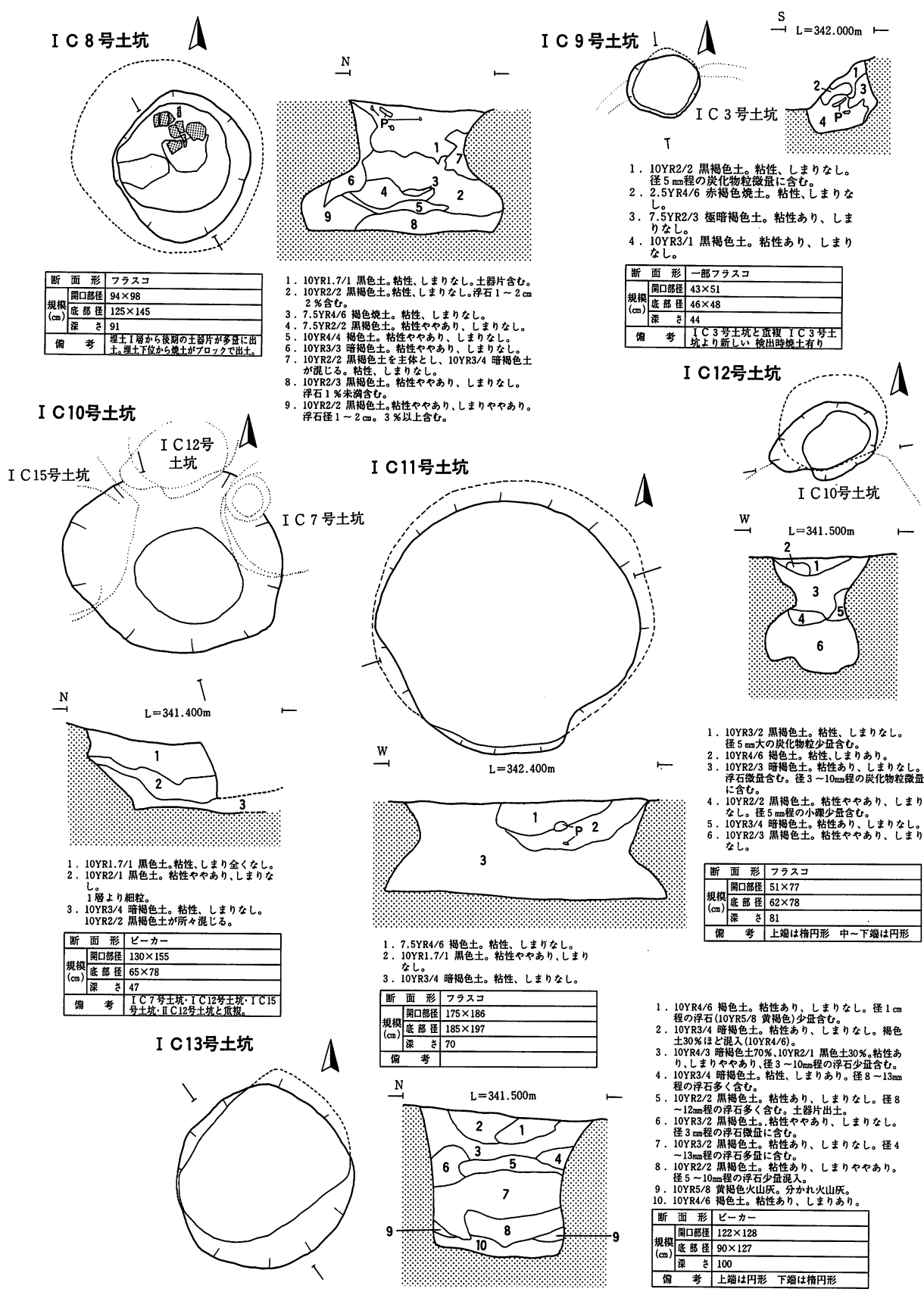
IC10号土坑



- 10YR2/2 黒褐色土。粘性、しまり全くなし。
- 10YR3/2 黒褐色土。粘性、しまりなし。カーボン少量含む。
- 10YR2/3 黒褐色土。粘性、しまりなし。カーボン径1~2mm 1~2%含む(2層より多く含む)。
- 10YR4/6 褐色土。粘性、しまりややあり。

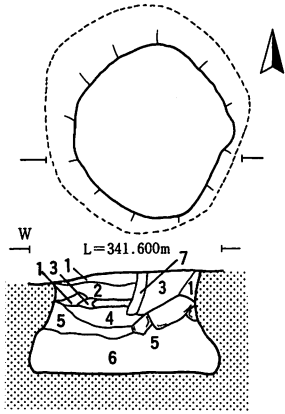
断面形	一部フラスコ
規模 (cm)	開口部径 73×82
	底部径 85
	深さ 60
備考	柱穴状ピット径30cmのもの有り

第7図 IC1号土坑~IC7号土坑



第 8 図 IC 8号土坑～IC13号土坑

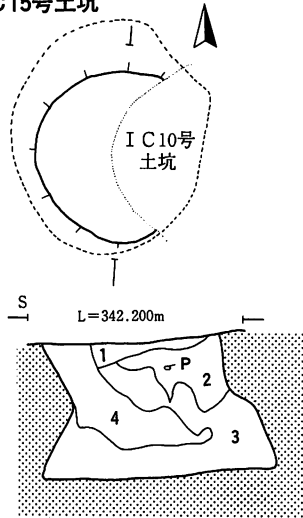
I C14号土坑



1. 10YR3/4 暗褐色土。粘性なし、硬くしまる。小礫少量混入。
2. 10YR2/3 黒褐色土。粘性なし、しまりなし。
3. 10YR3/4 暗褐色土。粘性なし、しまりなし。
4. 10YR3/4 暗褐色土。粘性なし、しまりややあり。径10mm程の浮石少量含む。
5. 10YR2/3 黒褐色土。粘性ややあり、しまりあり。
6. 10YR4/4 褐色土。粘性あり、しまりあり。径10mm大の浮石少量混入。
7. 木根痕。

断面形	フラスコ
開口部径	84×93
規模	
(cm)	
底部径	118×122
深さ	54
備考	

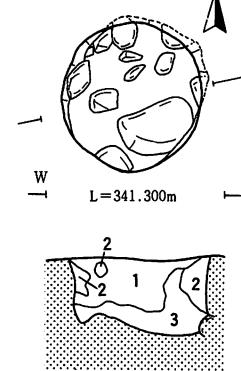
I C15号土坑



1. 10YR2/2 黒褐色土。粘性、しまりなし。カーボン極小粒1%含む。浮石径10mmごくわずか含む。
2. 10YR2/3 黒褐色土。粘性、しまりなし。カーボン径10mm1~2%含む。土器片含む。3層の土所々含む。
3. 10YR3/4 暗褐色土。粘性、しまりなし。浮石径10~20mm極小含む。
4. 10YR3/3 暗褐色土。粘性ややあり、しまりなし。カーボン極小粒少量含む。浮石径10mm以下少量含む。3層の土の一部混入。

断面形	フラスコ
開口部径	75×90
規模	
(cm)	
底部径	112×124
深さ	75
備考	I C10号土坑と重複

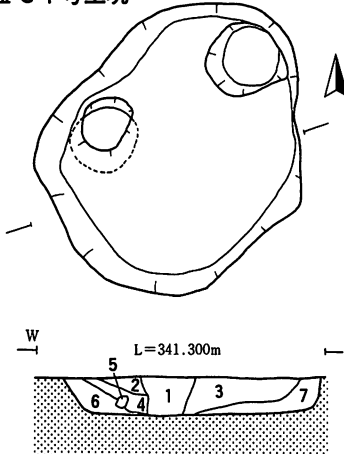
II B1号土坑



1. 7.5YR2/2 黒褐色土。粘性ややあり、しまりなし。
2. 10YR4/4 褐色土。粘性あり、しまりなし。炭化物粒径10mm程を含む。
3. 10YR2/2 黒褐色土。粘性ややあり、しまりなし。

断面形	ビーカー
開口部径	77
規模	
(cm)	
底部径	70×80
深さ	41
備考	一部フラスコ縁が底部から多量に出土。埴土全体には入らない

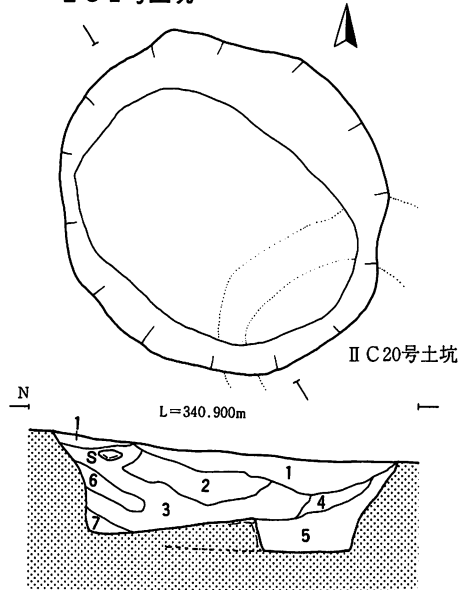
II C1号土坑



1. 2.5YR2/1 赤黒色土。粘性、しまり全くなし。シルト質。
2. 7.5YR2/2 黒褐色土。粘性、しまり全くなし。シルト質。7.5YR3/4 暗褐色土混じり。粘性ややあり、しまりややあり。
3. 5YR3/1 黒褐色土。粘性、しまり全くなし。シルト質。7.5YR3/3 暗褐色土。混じり粘性しまりなし。シルト質。
4. 7.5YR3/2 黒褐色土。粘性、しまり全くなし。シルト質。
5. 10YR5/6 黄褐色土。粘性、しまりあまりなし。7.5YR3/2 黒褐色土混じり。粘性、しまりあまりなし。根痕?
6. 7.5YR4/6 褐色土。粘性、しまりあまりなし。地山との混合土層。シルト質。
7. 7.5YR4/4 褐色土。粘性、しまりあまりなし。地山との混合土層。シルト質。

断面形	ビーカー
開口部径	124×163
規模	
(cm)	
底部径	105×139
深さ	20
備考	柱穴状ピット(径35×深20)?基有り 北部水道管埋設による根痕有り

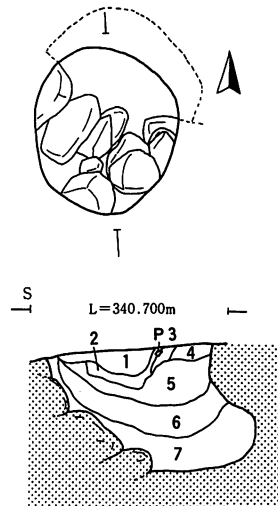
II C2号土坑



1. 10YR3/2 黒褐色土。シルト質。粘性、しまりなし。カーボン1%含む。10YR6/8 明黄褐色土。粘性、しまりなし。カーボン1%含む。7.5YR2/3 暗褐色土。シルト質。粘性、しまりなし。10YR6/8 明黄褐色土。粘性2~3mm、2%含む。
2. 10YR3/3 暗褐色土。シルト質。粘性、しまりあまりなし。10YR6/8 明黄褐色土。粘性、2~3mm、2%含む。
3. 10YR3/3 暗褐色土。シルト質。粘性、しまりあまりなし。10YR6/8 明黄褐色土。粘性、2~3mm、2%含む。
4. 10YR3/4 暗褐色土。シルト質。粘性、しまりあまりなし。
5. 10YR4/4 褐色土。シルト質。粘性、しまりあまりなし。
6. 10YR5/8 黄褐色土。シルト質。粘性、しまりあまりなし。木根有り。
7. 10YR4/6 褐色土。シルト質。粘性、しまりあまりなし。

断面形	ビーカー
開口部径	173×187
規模	
(cm)	
底部径	109×153
深さ	52
備考	底部楕円形 II C20号土坑と重複 II C2号土坑の方が古い。土器片出土

II C3号土坑

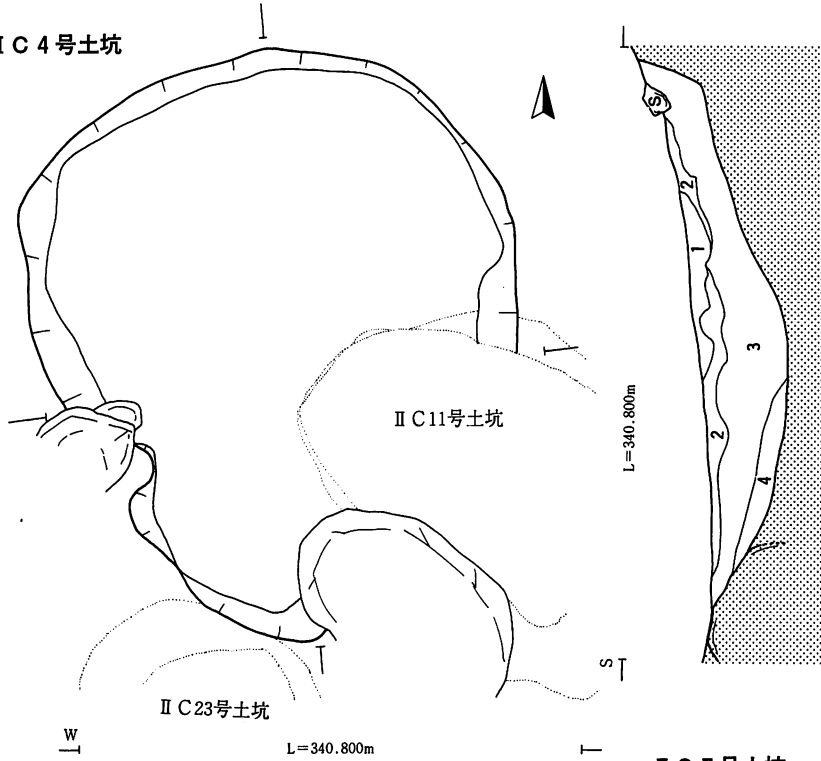


1. 2.5YR4/6 赤褐色焼土。粘性、しまりなし。
2. 7.5YR4/4 黒褐色土。粘性、しまりなし。
3. 7.5YR5/6 明褐色土。粘性ややあり、しまりなし。シルト質。
4. 5YR4/6 赤褐色焼土。粘性ややあり、しまりなし。(1層と3層の混合土層か?)
5. 4層に同じ。
6. 7.5YR3/4 暗褐色土。粘性、しまりなし。
7. 10YR3/4 暗褐色土。粘性ややあり、しまりややあり。

断面形	フラスコ
開口部径	88
規模	
(cm)	
底部径	85×110
深さ	67
備考	礫多量を含む 当初焼土と見られた

第9図 IC14号土坑～IC3号土坑

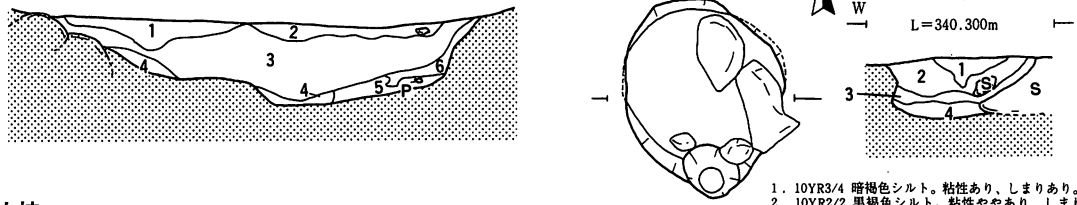
II C 4号土坑



1. 10YR5/4 におい黄褐色土、10YR6/8 明黄褐色土 (擾乱部)。
2. 7.5YR3/3 暗褐色土。粘性、しまりなし。シルト質。
3. 7.5YR3/2 黒褐色土。粘性、しまりなし。シルト質。10YR4/6 褐色土。所々に流じる。粘性、しまりありなし。
4. 10YR5/8 黄褐色土。粘性、しまりなし。シルト質。
5. 10YR4/4 褐色土。粘性、しまりありなし。シルト質。土器片含む。
6. 10YR5/8 黄褐色土。粘性、しまりなし。シルト質。

断面形	ビーカー
規模 (cm)	開口部径 253×317
	底部径 200×290
	深さ 47
備考	平面楕円形 II C 11号土坑と重複 II C 11号土坑よりも新しい

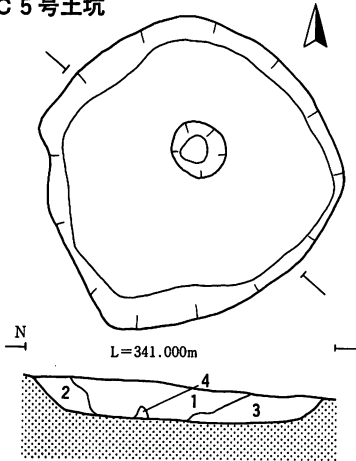
II C 7号土坑



1. 10YR3/4 暗褐色シルト。粘性あり、しまりあり。
2. 10YR2/2 黒褐色シルト。粘性ややあり、しまりなし。径3-4mm程の炭化物粒少量含む。浮石径10mm程微量に含む。
3. 10YR2/2 黒褐色シルト。粘性なし、しまりあり。浮石微量有。
4. 10YR3/4 暗褐色土。粘性ややあり、しまりなし。地山?

断面形	ビーカー
規模 (cm)	開口部径 82×105
	底部径 80×90
	深さ 32
備考	内部柱穴状ピット有り (径30cm) 土坑よりも新しい遺構

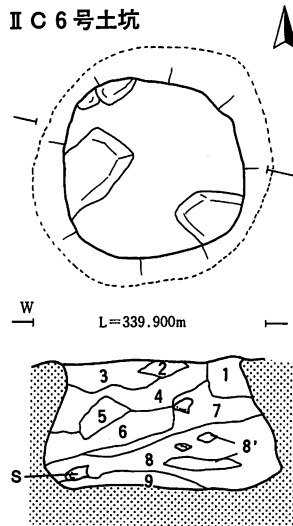
II C 5号土坑



1. 7.5YR2/2 黒褐色土。シルト質。粘性、しまりなし。
2. 7.5YR3/2 黒褐色土。シルト質。粘性、しまりなし。
3. 2層に同じ。
4. 10YR6/8 明黄褐色土。粘性、しまりありなし。10YR2/3 黒褐色土混じり (根跡)

断面形	ビーカー
規模 (cm)	開口部径 154
	底部径 127×140
	深さ 20
備考	II C 22号土坑と重複 内部柱穴状ピット有り (径30cm)

II C 6号土坑

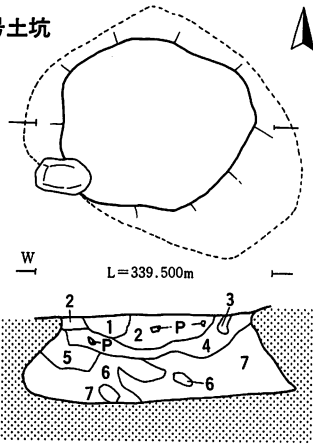


断面形	フラスコ
規模 (cm)	開口部径 100×102
	底部径 120×140
	深さ 70
備考	堀土中位から一括土器出土

1. 10YR2/2 黒褐色シルト。粘性、しまりなし。木根痕。
2. 10YR2/3 黒褐色シルト。粘性なし、しまりあり。径10mm程の炭化物粒ブロックで微量含む。地山の土の混入と考えられ、径10-13mm程の炭化物粒微量に含む。
3. 10YR2/2 黒褐色シルト。粘性ややあり、ややしまる。径3-5mm程の炭粒多く混入。
4. 10YR2/2 黒褐色土。粘性強い。しまりなし。炭化物粒径10mm程の塊を含む。
5. 10YR2/2 黒褐色シルト。粘性あり、しまりなし。
6. 10YR2/2 黒褐色土。4層と同じ。
7. 10YR2/3 黒褐色土。粘性ややあり、硬くしまる。小礫多い。径5mm程の炭化物粒少量含む。
8. 10YR1.7/1 黒色土。粘性強い、しまりややあり。層中に炭化物粒多量に混入。ブロック(8')で10YR3/4 黒褐色土混入(地山)。
9. 10YR2/2 黒褐色土。粘性あり、しまりあり。炭化物粒径4mm程を微量に含む。水酸化鉄粒多く混入。

第10図 II C 4号土坑～II C 7号土坑

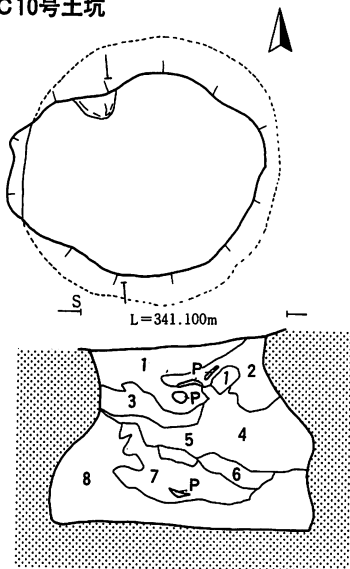
II C 8号土坑



1. 10YR2/2 黒褐色シルト。粘性、しまりなし。層下部に炭化物粒径10mm程の範囲にブロック状で混入。
2. 10YR2/1 黒色シルト。粘性あり、しまりなし。層中土器片有。
3. 10YR2/3 黒褐色シルト。粘性あり、しまりややあり。地山の崩落土。
4. 10YR2/2 黒褐色シルト。粘性あり、しまりなし。層中に土器片混入。径5~10mm程の小礫少量混入。
5. 10YR3/3 暗褐色シルト。粘性あり、しまりなし。6層、7層が入り混じる。層上面に径3~4mm程の炭化物粒微量に混入。
6. 10YR2/2 黒褐色土80%。7層にあたる土色20%の混合土層。粘性あり、しまりなし。径3~8mmの小礫多量に混入。
7. 10YR3/3 暗褐色土。粘性、しまりあり。ブロックで6層混入。

断面形	フラスコ
開口部径	94×105
規模	底 部 径 110×139
(cm)	深 さ 47
備 考	中位楕円形(110~140) 埋土上位土器片多量出土

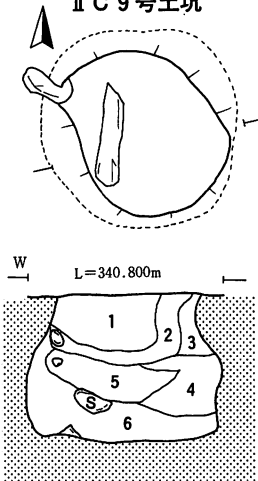
II C 10号土坑



1. 10YR2/2 黒褐色土。粘性なし、しまりなし。径3mm程度の炭化物粒多く含む。層中に10YR5/6 明褐色焼土粒ブロックで含む。
2. 10YR3/2 黒褐色シルト。粘性あり、しまりなし。層中に10YR5/6 明褐色焼土粒を含む。土器片有り。
3. 10YR1.7/1 黒色。粘性あり、しまりなし。層中に炭化物を筋状に多く含む。
4. 10YR2/3 黒褐色土。粘性あり、しまりなし。径8mm程の炭化物粒微量、径2~10mm程の小礫多量に含む。
5. 10YR1.7/1 黒色土。粘性あり、しまりなし。
6. 10YR4/6 褐色土。粘性あり、しまりなし。地山掘り過ぎ?
7. 10YR2/1 黒色土。粘性あり、しまりややあり。径10mmの炭化物粒微量、径10mm程の小礫多く混入。土器片有り。
8. 10YR2/2 黒褐色土。粘性強い、しまりなし。小礫微量含む。

断面形	フラスコ
開口部径	117×140
規模	底 部 径 138×142
(cm)	深 さ 103
備 考	埋土中位・下位から土器出土(一括、完形に近い)

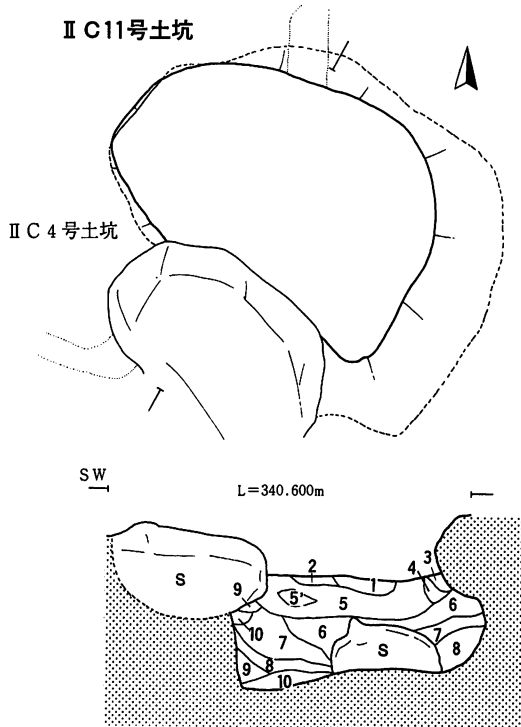
II C 9号土坑



断面形	フラスコ
開口部径	72×93
規模	底 部 径 105×113
(cm)	深 さ 78
備 考	

1. 10YR2/2 黒褐色シルト。粘性ややあり、硬くしまる。層全体に炭化物粒径3~10mm多く混入。
2. 10YR2/3 黒褐色シルト。粘性なし、硬くしまる。炭化物粒微量に混入。
3. 10YR4/4 褐色土及び2層の堆積による混合土層。粘性なし、しまりなし。褐色土は地山の崩落土。
4. 10YR2/3 黒褐色土。粘性なし、しまりなし。
5. 10YR3/2 黒褐色シルト。粘性あり、しまりなし。
6. 10YR2/2 黒褐色土。粘性ややあり、しまりなし。径3~8mm程の炭化物粒少量含む。

II C 11号土坑

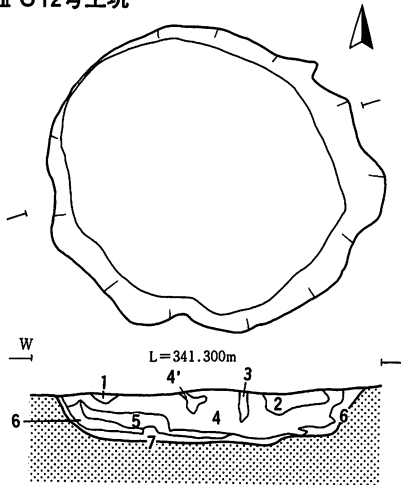


1. 10YR2/3 黒褐色シルト。粘性なし、硬くしまる。浮石(10YR5/8 黄褐色)径10mm程度を多く含む。
2. 10YR2/2 黒褐色シルト。粘性あり、しまりややあり。
3. 10YR4/6 褐色土。粘性なし、しまりあり。地山。
4. 10YR2/3 黒褐色土。粘性あり、しまりなし。土器片出土。層全体に炭化物粒分布し、層中央やや上面に炭化物粒の層が筋状に入る。また層右側に10YR3/3 暗褐色土層ブロックで入る。
5. 10YR2/3 黒褐色土。粘性あり、しまりなし。層全体に径10mm程の浮石が混入。
6. 10YR2/3 黒褐色土。粘性あり、しまりなし。層全体に径10mm程の浮石が混入。
7. 10YR3/2 暗褐色土。粘性あり、硬くしまる。径3mm程の浮石層全体に多く混じる。径8mm程の炭化物粒少量混入。
8. 10YR3/3 暗褐色土。粘性ややあり、しまりなし。浮石径5~10mm少量混入。径3mm程の炭化物粒微量に混入。
9. 10YR3/4 暗褐色シルト。粘性あり、しまりあり。径12mm程の浮石多量に混入。
10. 10YR5/8 黄褐色火山灰。浮石と地山10YR4/6 褐色土の混合土層。粘性なし、硬くしまる。

断面形	フラスコ
開口部径	127×177
規模	底 部 径 157×218
(cm)	深 さ 61
備 考	平面楕円形 II C 4号土坑と重複 II C 4号土坑よりも古い

第11図 II C 8号土坑~ II C 11号土坑

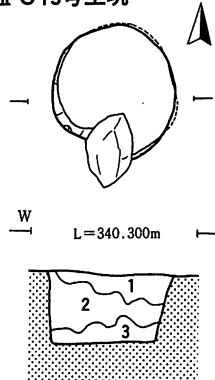
II C12号土坑



1. 10YR1.7/1 黒色土。粘性なし、硬くしまる。木根痕。
2. 10YR1.7/1 黒色土。粘性あり、しまりややあり。径2mm程の炭化物粒混入。
3. 10YR5/6 黄褐色シルト80%、10YR2/2 黒褐色土20%の混合土層。粘性あり、しまりなし。
4. 10YR2/1 黒色土。粘性なし、しまりなし。径3~10mm程の炭化物粒微量に混入。
5. 10YR2/1 黒色土。粘性あり、しまりなし。
6. 10YR2/1 黒色土80%、10YR4/6 褐色土20%の混合土層。粘性ややあり、しまりややあり。
7. 10YR4/6 褐色土。粘性あり、しまりあり。地山。

断面形	ビーカー
開口部径	168
規模 (cm)	底 部 径 135×155
	深 さ 27
備 考	I C10号土坑の壁を切る

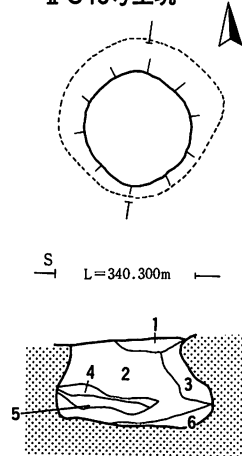
II C13号土坑



1. 10YR2/2 黒褐色土。粘性、しまりなし。
2. 10YR2/3 黒褐色土。粘性ややあり、しまりなし。径8~25mm程の浮石少量含む。
3. 10YR3/4 暗褐色土。粘性あり、しまりなし。径7~20mmの浮石(10YR5/8 黄褐色)多く含む。

断面形	ビーカー
開口部径	66
規模 (cm)	底 部 径 63
	深 さ 36
備 考	平面形円形 壁はほぼ垂直 時期不明

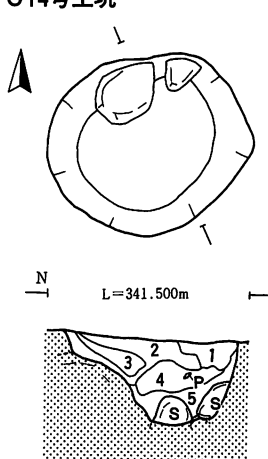
II C15号土坑



1. 10YR4/6 褐色土。粘性、しまりなし。5YR5/8 明赤褐色焼土50%含む。
2. 7.5YR4/4 褐色土。粘性、しまりなし。
3. 10YR4/6 褐色土。粘性、しまり全くなり。
4. 10YR3/4 暗褐色土。粘性ややあり、しまりありなし。
5. 10YR5/6 黄褐色土。粘性ややあり、しまりややあり。
6. 10YR6/8 明黄褐色土。粘性ややあり、しまりややあり(地山)。

断面形	フラスコ
開口部径	61
規模 (cm)	底 部 径 75×78
	深 さ 45
備 考	検出時焼土と思われる土が散在

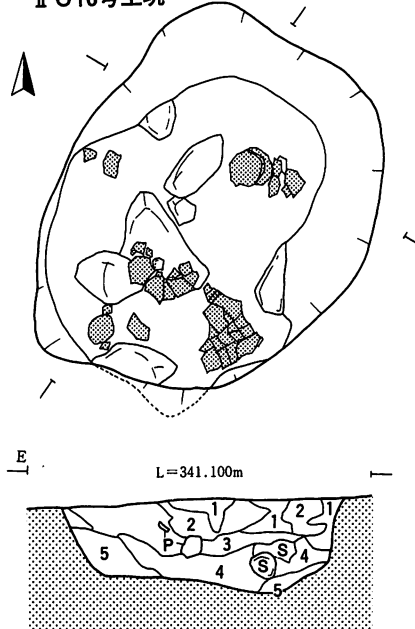
II C14号土坑



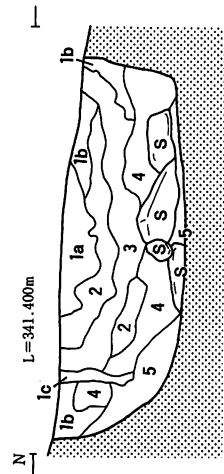
1. 10YR2/2 黒褐色土。粘性なし、しまりややあり。
2. 7.5YR2/3 極暗褐色土。粘性なし、しまりなし。
3. 10YR2/1 黒色土。粘性ややあり、しまりなし。
4. 10YR1.7/1 黒色土。粘性ややあり、しまりなし。土器片混入。
5. 10YR2/2 黒褐色土。粘性なし、しまりなし。

断面形	ビーカー
開口部径	96×116
規模 (cm)	底 部 径 63×77
	深 さ 46
備 考	

II C16号土坑



断面形	ビーカー
開口部径	162×201
規模 (cm)	底 部 径 110×173
	深 さ 76
備 考	一括土器多い 検出時燻土有り (II C5号焼土) 平面形楕円形

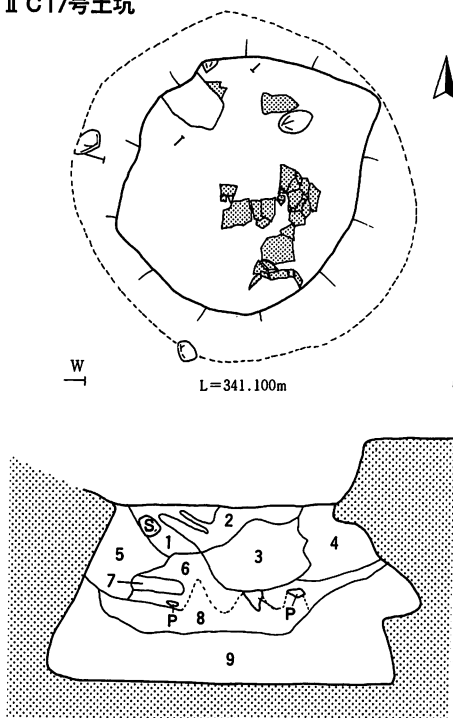


- 1 a. 10YR1.7/1 黒色土。粘性なし、しまりなし。径3mm程の炭化物粒多量に混入。
- 1 b. 東西セクションの第1層と同じ。
- 1 c. 10YR2/2 黒褐色土。

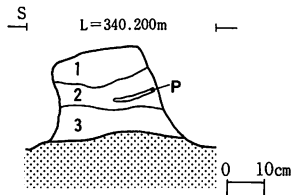
1. 10YR2/2 黒褐色土。粘性、しまりあり。径4mm程の浮石微量に混入。木根による影響で中位にブロックで混入。
2. 10YR3/4 暗褐色土。粘性あり、硬くしまる。径8~20mm程の浮石(10YR5/8 黄褐色)多く混入。地山の土を人為的に投棄した可能性有り。
3. 10YR2/3 黒褐色土。粘性あり。硬くしまる。径3~10mm程の小礫多く混入。径8mmほどの炭化物微量に混入。層中に土器混入。
4. 10YR2/2 黒褐色土。粘性ややあり、しまりなし。径4mm程の炭化物粒微量に混入。径10mm程度の小礫微量に含む。土器片有り。
5. 10YR4/4 褐色土。粘性ややあり、しまりなし。やや砂質。土器片有り。

第12図 II C12号土坑~ II C16号土坑

II C17号土坑



II C17号土坑内焼土

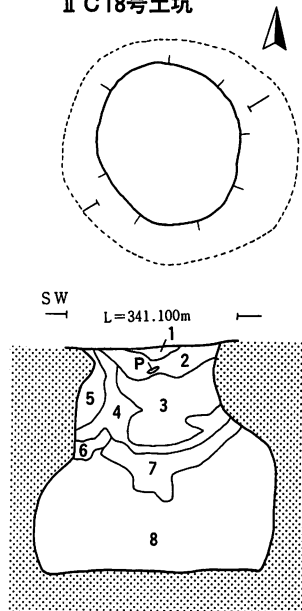


1. 5YR4/6 赤褐色焼土。粘性なし。しまりややあり。流れ込みによる形成と思われる。
2. 10YR2/3 黒褐色土。粘性、しまりなし。
3. 10YR4/6 褐色土が一部混入。径5mm程度の炭化物が多量に混入し層下部には土器片が混入。

断面形	フラスコ
規根 (cm)	開口部径 118×138
	底部径 180×185
	深さ 95
備考	一括土器・焼土埋土中位から出土

1. 10YR2/3 黒褐色土。粘性ややあり、しまりなし。炭化物少量含む。
2. 10YR4/4 褐色土。粘性、しまりなし。(所々3層含む。)
3. 10YR4/6 褐色土。粘性、しまりなし。
4. 2層に同じ。
5. 7.5YR4/3 褐色土。粘性ややあり、しまりなし。
6. 10YR2/3 黒褐色土。粘性、しまりなし。一見1層と酷似、しかし1層よりしまりを欠く。カーボン3層下に少量含む。土器多い。
7. 7.5YR4/4 褐色土。粘性、しまりなし。7.5YR5/3 におい褐色土。粘性、しまりなし。50%含む。
8. 10YR4/6 褐色土。粘性、しまりなし。
9. 10YR3/4 暗褐色土。粘性ややあり、しまりあまりなし。

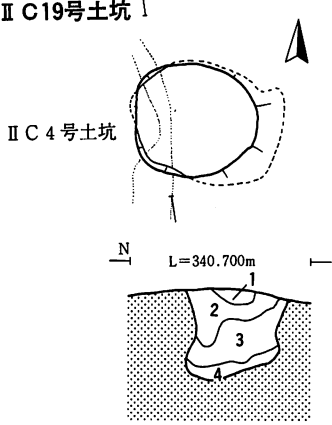
II C18号土坑



1. 10YR1.7/1 黒色土。粘性、しまりなし。
2. 10YR2/2 黒褐色土。粘性、しまりなし。浮石10mm程度1%未満有り。土器片含む。カーボン同様に1%未満含む。
3. 10YR2/2 暗褐色土主体。2層と同じ。但しカーボン、浮石ともに2%程度に増える。
4. 10YR3/2 黒褐色土と10YR3/3 暗褐色土の混合土層。同量。粘性、しまりなし。
5. 10YR3/4 暗褐色土。粘性ややあり、しまりややあり。
6. 10YR4/4 褐色土。粘性なし、しまりなし。
7. 10YR2/2 暗褐色土。粘性、しまりなし。浮石等の礫子は2層と類似。
8. 10YR3/2 黒褐色土主体。4層と類似。但し4層に比し10YR3/2が少なく、やや明るめの土色。

断面形	フラスコ
規根 (cm)	開口部径 75×88
	底部径 122×136
	深さ 118
備考	埋土下位から土器出土

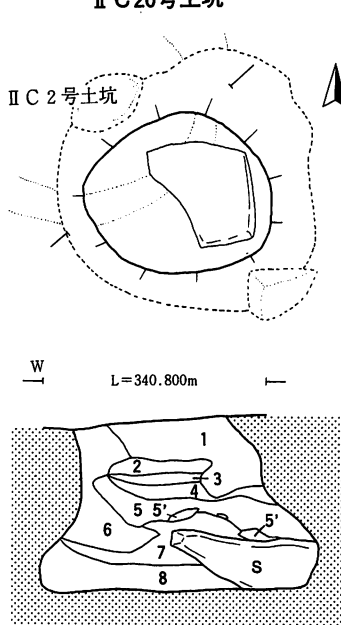
II C19号土坑



1. 10YR3/4 暗褐色土。粘性なく、硬くしまる。径7~12mm程度の浮石少量混入。
2. 10YR2/3 黒褐色土。粘性なく、硬くしまる。径10mmほどの浮石(10YR5/8黄褐色)少量混入。径6~12mm程度の炭化物少量含む。
3. 10YR3/2 黒褐色土。粘性、しまりあり。浮石径8~10mm程度を少量含む。径4~8mm程度の炭化物少量混入。
4. 10YR3/4 暗褐色土。粘性ややあり、しまりややあり。径3~4mm程度の浮石少量混入。

断面形	フラスコ
規根 (cm)	開口部径 60×67
	底部径 61×82
	深さ 48
備考	II C4号土坑と重複 II C4号土坑よりも新しい

II C20号土坑

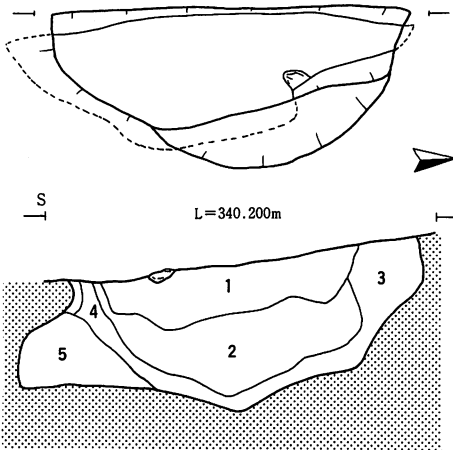


1. 10YR3/3 暗褐色土。粘性、しまりあり。径4~8mm程度の浮石多く混入。10YR4/6褐色土が混じる混合土層。径5mm程度の炭化物微量に含む。植物根多く混じる。
2. 10YR2/2 黒褐色土と10YR2/3 黒褐色土が混じる。粘性あり、しまりなし。浮石3~5mm程度多く混入。
3. 10YR3/4 暗褐色土。粘性、しまりあり。8mm程度の浮石多く混入。
4. 10YR3/3 暗褐色土。粘性あり、しまりなし。径4mm程度の小礫多く混入。
5. 10YR2/1 黒色土。粘性ややあり、しまりなし。10mm程度の炭化物粒を中心に多量に混入。層中に10YR3/2 暗褐色土ブロックで混入。
6. 10YR2/3 黒褐色土。粘性ややあり、しまりなし。全体に小礫多く層下位に径4~8mm程度の浮石多く混入。10mm程度の炭化物粒微量に混入。
7. 10YR2/1 黒色土。粘性ややあり、しまりあり。径8mm程度の浮石多く含む。
8. 10YR2/3 暗褐色土。粘性強く、しまりなし。小礫微量に混入。

断面形	フラスコ
規根 (cm)	開口部径 91
	底部径 146
	深さ 92
備考	II C2号土坑・II C22号土坑と重複 II C2号土坑よりも新しい

第13図 II C17号土坑~ II C20号土坑

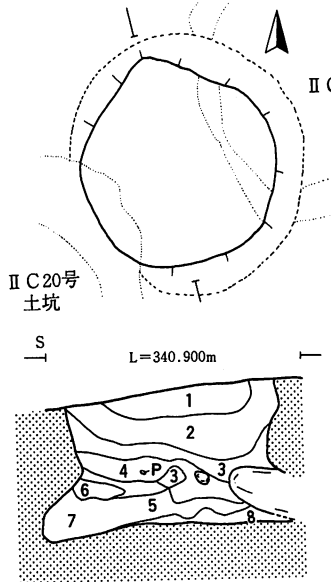
II C21号土坑



1. 10YR3/2 黒褐色土。粘性あり、しまりややあり。土器片混入。
2. 10YR3/4 暗褐色土。粘性なし、しまりややあり。
3. 10YR3/4 暗褐色土。粘性あり、しまりなし。
4. 10YR4/6 褐色土。粘性なし、しまりあり。
5. 10YR2/3 黒褐色土。粘性あり、しまりあり。径10mm程の浮石多く混入。

断面形	フラスコ
開口部径	191
規模	
(cm) 底部径	217
深さ	75
備考	半分のみ検出 残り半分は沢のため検出不可能

II C22号土坑



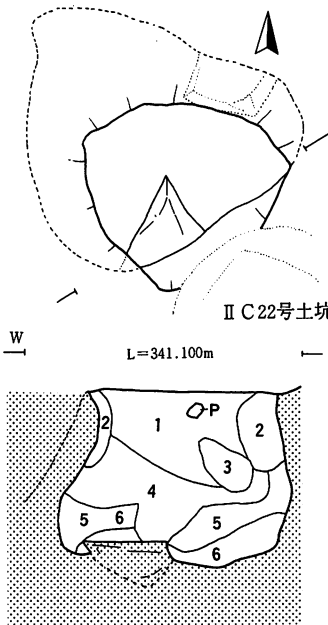
II C20号土坑

II C5号土坑

断面形	フラスコ
開口部径	105×114
規模	
(cm) 底部径	140
深さ	71
備考	II C5号土坑・II C20号土坑と重複

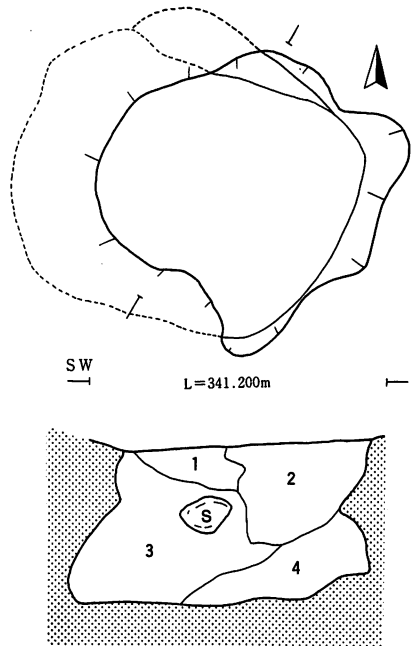
1. 10YR2/3 黒褐色土。粘性なし、しまりあり。径5~13mm程の浮石(10YR5/8 黄褐色)を多く含む。径4mm程の炭化物粒微量に含む。
2. 10YR2/2 黒色土。粘性ややあり、しまりあり。層中に浮石5mm程度微量に含む。径1.3cmの炭化物混入(上から5cm下)。
3. 10YR3/3 暗褐色土。粘性あり、しまりなし。微量の浮石混入。
4. 10YR2/2 黒色土70%、10YR3/3 暗褐色土30%の混合土層。土器片が混入。浮石は超微量。
5. 10YR3/2 黒褐色土。粘性、しまりあり。径10mm程の浮石少量混入。径4mm程の炭化物粒微量に混入。
6. 10YR3/4 暗褐色土。粘性あり、しまりなし。径2~3mm程の微量の浮石混入。
7. 10YR3/4 暗褐色土。粘性なし、硬くしまる。炭化物の混入はなし。少量の浮石混入。
8. 10YR4/6 褐色土。粘性あり、しまりややあり。多量の浮石混入。

II C24号土坑



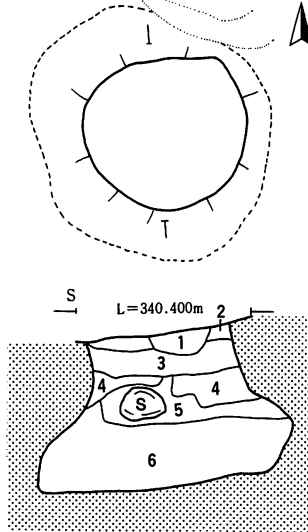
II C22号土坑

II C25号土坑



II C23号土坑

II C4号土坑



1. 10YR2/2 黒褐色土50%、10YR4/6 褐色土50%の混合土層。浮石径4mm程を少量含む。粘性あり、しまりなし。
2. 10YR2/2 黒褐色土。粘性あり、しまりなし。径3mm程の炭化物粒超微量に含む。
3. 10YR2/3 黒褐色土。粘性ややあり、しまりなし。浮石の混入は微量。
4. 10YR2/3 黒褐色土。粘性あり、しまりなし。浮石の混入は微量。
5. 10YR2/2 黒褐色土。粘性ややあり、しまりなし。径8mm程の炭化物粒微量に含む。浮石の混入はほとんど認められない。
6. 10YR3/4 暗褐色土。粘性強く、硬くしまる。径10mm大の浮石少量含む。

断面形	フラスコ
開口部径	80×87
規模	
(cm) 底部径	130×137
深さ	83
備考	

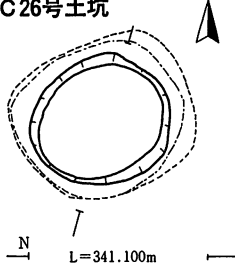
1. 10YR2/3 黒褐色土。粘性なし、しまりあり。径3~8mm程の浮石多く含む。土器片含む。径3mm程の炭化物粒多量に含む。
2. 10YR3/4 暗褐色土。粘性ややあり、しまりあり。小礫少量含む。浮石なし。
3. 10YR3/4 暗褐色土。粘性、しまりなし。径8mm程の浮石(10YR5/8 黄褐色)が多く含まれる。
4. 10YR2/3 黒褐色土。粘性、しまりなし。径3mm前後の炭化物粒微量混入。径4~7mm程の浮石多く混入。
5. 10YR3/4 暗褐色土。粘性なし。硬くしまる。径10~12mm程の浮石多く含む。
6. 10YR3/4 暗褐色土20%に浮石が混じる混合土層。暗褐色土は粘性が強く層全体硬くしまる。

断面形	フラスコ
開口部径	100
規模	
(cm) 底部径	144×160
深さ	91
備考	II C2号土坑・II C22号土坑と重複

断面形	フラスコ
開口部径	120×150
規模	
(cm) 底部径	140×181
深さ	85
備考	遊樹南東側は風割不痕により上位~中位にかけて擾乱を受ける。

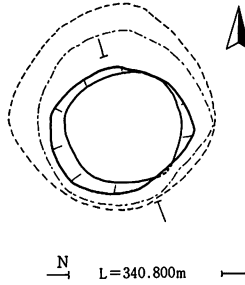
第14図 II C21号土坑~II C25号土坑

II C 26号土坑

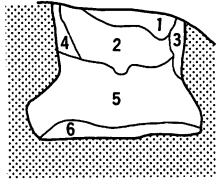


断面形	フラスコ
開口部径	69×75
規模	
底部径	81×90
深さ	69
備考	

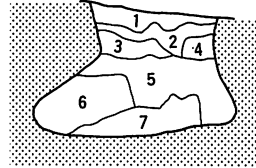
II C 27号土坑



断面形	フラスコ
開口部径	69×75
規模	
底部径	87×95
深さ	65
備考	



1. 10YR4/6 褐色土。粘性、しまりなし。
2. 7.5YR4/4 褐色土。粘性、しまりなし。
→7.5YR4/6 褐色土。粘性、しまりなし(低部)。
10YR7/3 黄褐色の小礫粒1%程度混じる。
3. 10YR2/3 黒褐色土。粘性ややあり、しまりなし。
低部 10YR5/6 黄褐色土。粘性ややあり、しまりあり。
4. 7.5YR4/6 褐色土。粘性ややあり、しまりなし。
5. 10YR3/4 暗褐色土。粘性、しまりなし。浮石10~20mm程度3%含む。
6. 10YR4/6 褐色土。粘性ややあり、しまりあり。
浮石10~20mm程度3%含む。



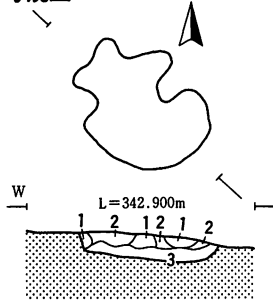
1. 7.5YR黒褐色土。粘性なし、しまりなし。
2. 10YR3/3 暗褐色土。粘性、しまりなし。浮石径1cm程度。1%以下混入。
3. 10YR3/4 暗褐色土。粘性ややあり、しまりややあり。
4. 10YR4/6 褐色土。粘性ややあり、しまりなし。
5. 10YR4/4 褐色土。粘性、しまりなし。
6. 7.5YR4/4 褐色土。粘性ややあり、しまりややあり。
7. 10YR4/6 褐色土。粘性ややあり、しまりややあり。径1cm以下の浮石1%程度散在。

第15図 II C 26号土坑～II C 27号土坑

(2) 焼土

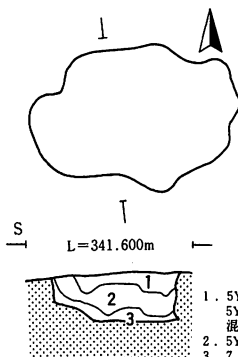
焼土はI C区で2基、II C区で5基検出された。平面形はほとんど不整形を呈している。検出面は土坑群と同面であるが、II C 1号焼土～II C 4号焼土は土坑群の集中しているところで検出され、同時期とは考えにくい。II C 2号焼土は他の焼土に比べると比較的厚みがあり、断面の状態からみても現地性の可能性がある。出土遺物はない。

I C 1号焼土

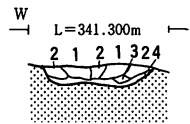


1. 5YR4/6 赤褐色焼土。粘性なし、しまりなし。
2. 10YR2/2 黒褐色土。粘性なし、しまりなし。
3. 10YR3/4 暗褐色土。粘性ややあり、しまりあり。

II C 1号焼土

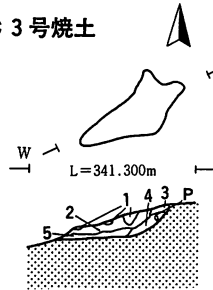


1. 5YR4/8 赤褐色焼土。粘性なし、しまりなし。
5YR3/3 暗褐色土(粘性なし、しまりなし)少々混じる。
2. 5YR5/8 明赤褐色焼土。粘性なし、しまりなし。
3. 7.5YR5/6 明褐色土。粘性なし、しまりなし。



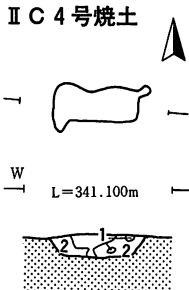
1. 5YR4/8 赤褐色焼土。粘性なし、しまりややあり。炭化粒など含まず。
2. 10YR2/3 黒褐色土。粘性あり、しまりなし。微量の炭化粒径2mm程を含む。
3. 10YR4/6 褐色土シルト。粘性あり、しまりなし。
4. 10YR4/4 褐色土シルト。粘性あり、しまりなし。微量の炭化粒含む。

II C 3号焼土



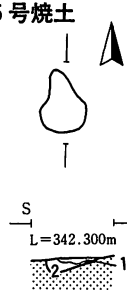
1. 5YR5/8 明赤褐色焼土50%、5YR4/8 赤褐色焼土50% 粘性ややあり、しまりなし。植物根多量混入。
2. 5YR5/8 明赤褐色焼土。粘性なし、しまりなし。
3. 10YR3/2 黒褐色シルト。粘性あり、しまりなし。
4. 10YR4/4 褐色シルト。粘性あり、しまりなし。土器1片混入。
5. 10YR4/6 褐色シルト。粘性なし、しまりなし。径1mm前後の浮石少量混入。

II C 4号焼土



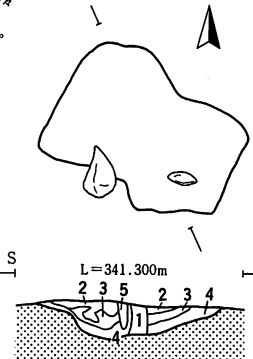
1. 10YR5/8 赤褐色焼土。粘性なし、しまりあり。
2. 10YR4/6 褐色土シルト。粘性あり、しまりあり。赤褐色焼土ブロックで混入。

II C 5号焼土



1. 5YR3/6 暗褐色焼土。粘性なし、しまりなし。
2. 10YR3/2 黒褐色シルト。粘性ややあり、しまりあり。

II C 2号焼土



1. 10YR2/2 黒褐色土シルト。粘性あり、しまりなし。木炭屑。
2. 10YR2/3 黒褐色土シルト。粘性あり、しまりあり。径2mm程の焼土粒(5YR5/8 明赤褐色)少量含む。
3. 5YR4/8 赤褐色焼土。粘性なし、しまりややあり。
4. 7.5YR3/4 暗褐色シルト。粘性あり、しまりなし。
5. 木炭屑。

第16図 I C 1号焼土～II C 5号焼土

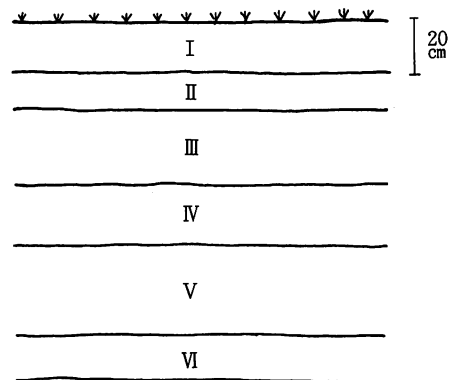
遺構名	形状	上端×下端×深さ	備考
I C 1号焼土	不整形	75 - 40 - 14	
I C 2号焼土	不整形	111 - 72 - 17	
II C 1号焼土	ほぼ円形	58 - - - 10	
II C 2号焼土	不整形	100 - 57 - 21	
II C 3号焼土	不整形	63 - 22 - 13	
II C 4号焼土	不整形	44 - 17 - 12	
II C 5号焼土	楕円形	32 - 24 - 8	II C 16号土坑の上部より検出

第2表 焼土表

(3) 旧沢跡について

調査区を大きく東西に分けるように北から南へ流れるこの旧沢跡は上端7～10m、下端2～6m、全長50m（確認分）ある。上端の東端に比べて西端の標高は高いが、低い東端を基準として沢の深さは約30～110cmある。

層は右の図のように6層に分けられるが南に向かい徐々にII層とIV層、VI層がなくなり、3層のみとなる。V層は水酸化鉄を含む層であるが、現在も水が浸透しており一部厚く大変締まった状態で鉄分が検出されたところもあった。II B 15グリット付近では流れ込みと思われる焼土も検出された。特に沢中央部にあたるII B 13、II B 14、II B 18、II B 19グリットでは、人頭大の礫～1m強の岩が集中している。その礫や岩に挟まれ堆積していったと思われるII B 15、II B 20、II B 25グリットのV層面では旧沢出土遺物中約7割の遺物が出土した。同グリットから土偶2点も出土している。出土した土器は土坑中から出土した土器と接合したものもある。



- I. 10YR3/4 暗褐色土。粘性、しまりなし(表土)。
- II. 10YR2/2 黒褐色土。粘性ややあり、しまりなし。パイプ攪乱部より南側土器片含む。
- III. 10YR2/2 黒褐色土。粘性なし、しまりややあり。
- IV. 10YR1.7/1 黒色土。粘性、しまりややあり。2層で多く含まれた糞母が再び増える。10YR2/3 黒褐色土を所々含む。
- V. 10YR2/2 黒褐色土。粘性、しまりあり。7.5YR4/4 褐色土所々に含む(酸化鉄層)。5層上部には2層で見られた糞母多し、中央部南側より多くの土器片を含む。
- VI. 10YR4/6 褐色土。砂層。粘性、しまり全くなし。礫多く含む。

第17図 旧沢土層断面図

沢下流部の調査区外では現在私道として利用している道路に続いている。

3. 遺物

出土した遺物は縄文土器、土製品、石器で、土器は縄文時代後期前葉のものを主体に大コンテナで約9箱出土した。土製品は10点、石器は54点である。遺物中3割が土坑内、5割は旧沢跡、2割はその他からの出土である。土坑内の出土であっても、埋土下位からの出土は少なく、また土坑そのものに直接関わるような遺物はない。

(1) 土器

土器は接合・復元できるものを中心に分類し、器形や文様のわかる破片をそれに照応させて分類した。それぞれの土器の分類については後に掲載している観察表にあるとおりである。内面については、細めの工具により調整され光沢のあるものをミガキとし、指または幅広の工具などで調整され光沢のないものはナデとした。またどちらともいえないものは空欄のままとした。

本遺跡の出土土器は、縄文時代中期、縄文時代後期、縄文時代晩期と大きく3つの時期に分けられ、中でも縄文時代後期前葉の土器は出土総数の相当数を占めており、下記のとおりa～hと細分した。

・第Ⅰ群土器—縄文時代中期に属する土器群（第18図—1・第22図—44・45、写真図版16、19）

3点のみの出土である。遺構内では21号土坑の下位より1片、その他の2点は同遺構の検出上面にて出土している。文様から中期後葉と思われる。

・第Ⅱ群土器—縄文時代後期初頭に属する土器群（第23図—46～48、写真図版19）

46は欠損が著しいが門前式系の土器の口縁部である。47は縦位に隆帯を設け、刺突を施している。口縁に平行して横位にも隆帯が設けられていたようである。48は沈線によって隆帯を際立たせ、充填縄文と刺突を施している。

・第Ⅲ群土器—縄文時代後期前葉～中葉に属する土器群（第18～31図—2～40・49～175、写真図版16～23）

器形及び文様からa～h類に分けたが、a～c類が大半を占める。

a類 頸部が内彎し平口縁のものであり、頸部にナデによる無文帯を持つ。11のように口縁部に縄文を施すものと7のように施さないものがある。

b類 立ち上がりはa類とほぼ同じくし、波状口縁である。口縁と胴部3条の平行沈線を基本とし、胴部文様体には入組文、渦巻文、クランク文、孤線文などが描かれ、磨消縄文が施されている。大湯式第1期第3段階併行の土器群と見られる。

c類 多条の平行沈線が描かれている。器形は胴部～頸部においてはb類とさほど変わらないが、頸部～口縁にかけて若干外反の度合いが強くなる（111）。また突起部の内面においても沈線が描かれたりと強調されている（121・123）。

d類 c類と似ているが平行沈線間に刺突が施されるものである（142）。

e類 平行する沈線に縦位に孤状の沈線が入るものである。加曾利B式併行と考えられるものである（154・155）。

f類 e類の次時期にくると思われるものである。胴部全体に曲線的な文様が施される。165は羽状縄文ではないので十腰内Ⅲ式併行の中でも古手と思われる。

g類 無文の土器群で小型のものが多い。壺・浅鉢がある。35・172・174は粗製であるが、34・173は大変丁寧な作られている。

h類 上記のどれにもあてはまらない土器である。33は胴部に沈線が施され、168は縄文のみであるが、両方とも立ち上がりは他の土器よりも直線的であるので、中葉の中でも新しい段階と思われる。

・第Ⅳ群—縄文時代後期後葉～末葉に属する土器群（第31図—176～178、写真図版23）

178は田柄貝塚の第Ⅳ群に属する土器と同時期の土器と思われる。

・第Ⅴ群—縄文時代晩期に属する土器群（第31図—41～43・179～187、写真図版23）

大洞C1～C2式併行の中葉に属する土器である。出土数は少ない。

・第Ⅵ群—その他（第31図—188、写真図版23）

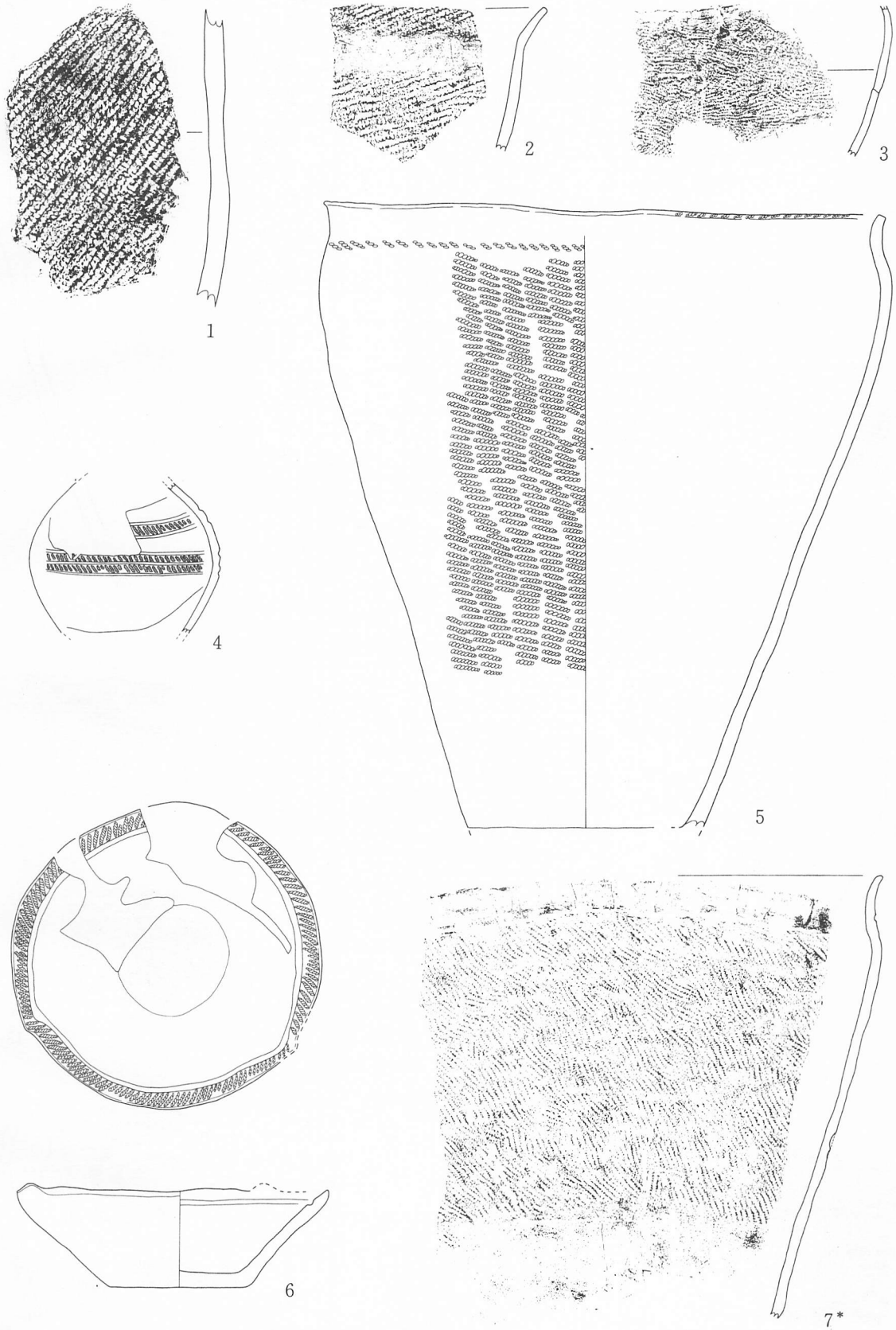
188は土師器の土器片で1片のみの出土である。内面はハケメ、外面はハケメの後ミガキをかけたもので底部に木葉痕らしきものがある。器形などから7C後葉～8C前半と思われる。

上記のように分類してみると後期前葉のいわゆる十腰内Ⅰ式の新段階の土器の出土が多いが、中でもⅢa類・Ⅲb類の土器と多条の平行沈線が施されるⅢc類・Ⅲd類の土器が中心となっている。秋田県の居熊井遺跡でも酷似する土器が出土しており、報告書の中の第Ⅲ群1類c種及びd種はⅢa類・Ⅲb類に、第Ⅲ群1類e種はⅢc類・Ⅲd類にあたるようである。これらの土器の関係については、同書の中で後者の土器を前者の土器に伴った「特殊な意図をもとに製作された土器」または「型式変化の流れの中で位置づけられる時間差をもった土器」として2つの可能性を指摘している。また、新山権現社遺跡出土の土器分類ではそれぞれⅡ群とⅢ群1類にあてはまるようである。

本遺跡のⅢa類・Ⅲb類とⅢc類・Ⅲd類の土器群は時間差のある土器群としての可能性もあるが、今回の調査では出土地点及び出土層位での時間差は見られなかった。

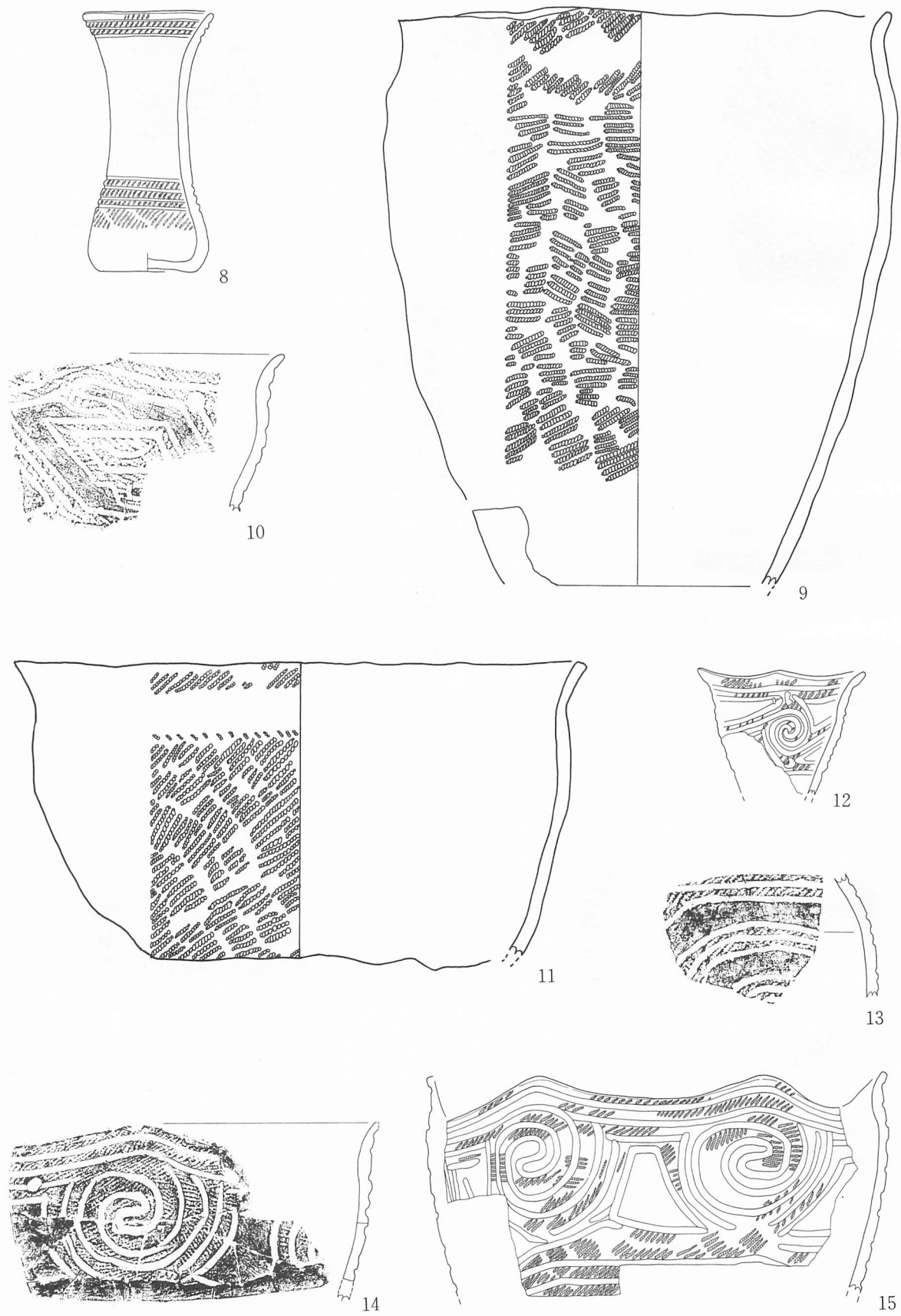
〈参考文献〉

- | | | |
|--------------|--|-------------------|
| 岩手県埋蔵文化財センター | 1995「大日向Ⅱ遺跡発掘調査報告書」 | 岩埋文調報第225集 |
| | 1993「新山権現社遺跡発掘調査報告書」 | 岩埋文調報第188集 |
| | 1996「寺久保遺跡発掘調査報告書」 | 岩埋文調報第239集 |
| 磯崎正彦 他 | 1968「十腰内遺跡」『岩木山』 | |
| 陸前高田市教育委員会 | 1992「門前貝塚」 | 陸前高田市文化財調査報告書第16集 |
| 金子昭彦 | 1996「十腰内Ⅰ式(新)に併行する東北地方中部の土器(1)」『縄文時代』第7 | |
| 手塚均 他 | 1986「田柄貝塚」宮城県教育委員会 | |
| 市立市川考古博物館 | 1992「堀之内貝塚資料図譜」 | |
| 高橋忠彦 | 1989「秋田県の縄文時代後期の土器」秋田県埋蔵文化財センター『研究紀要』第4号 | |
| 金子昭彦 | 1994「東北地方北半部における縄文時代後期中葉の土器」(財)岩埋文 紀要XIV | |
| 大迫町教育委員会 | 1979「立石遺跡」 | 大迫町埋調報第3集 |
| 熊谷常正 | 1986「門前式土器の検討」『岩手県立博物館研究報告』第4号 | |
| 高橋信雄・小田野哲憲 | | |
| ・熊谷常正 | 1982『岩手の土器』岩手県立博物館 | |
| 宇部則保 | 1989「青森県における7、8世紀の土師器」『北海道考古学』25 | |
| 八木光則 | 1993「(2)古代ス波郡と爾薩体の土器様相」『第18回古代城柵官衙遺跡検討会
特集シンポジウム「北日本における律令期の土器様相」』古代城柵官衙遺跡検討会 | |
| 佐藤憲幸・村田浩一 | 1996「東北の煮炊具」『古代の土器研究会第4回シンポジウム古代の土器研究
—律令的土器様式の西・東4煮炊具—』古代の土器研究会 | |
| 小井田和夫 | 1980「宮戸島台貝塚出土の縄文後期末・晩期初頭の土器」『宮城史学』第7号 | |
| 秋田県教育委員会 | 1981「東北縦貫自動車道発掘調査報告書Ⅰ」—居熊井遺跡—秋田県文化財調査報告書第78集 | |
| 鈴木克彦 | 1996「東北地方北部における十腰内式土器様式の編年学的研究
—十腰内2式土器の研究—」考古学雑誌 第81巻 第4号日本考古学会 | |

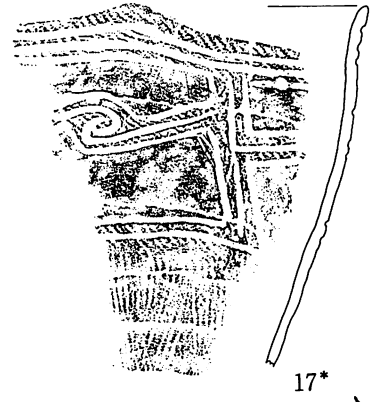
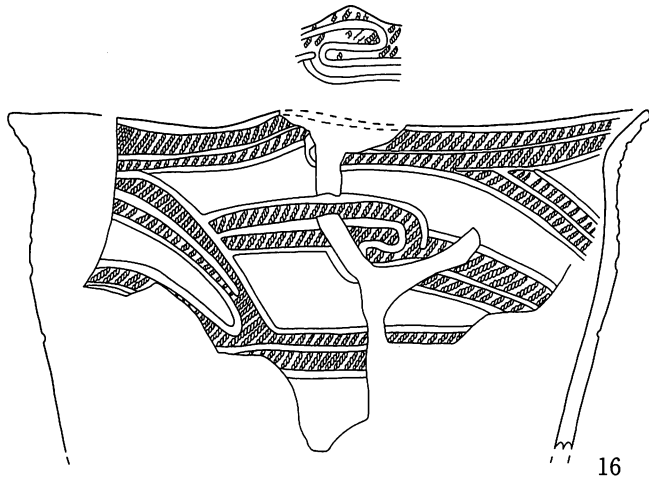


第18図 遺構内出土土器(1)

*S = $\frac{1}{4}$



第19図 遺構内出土土器(2)

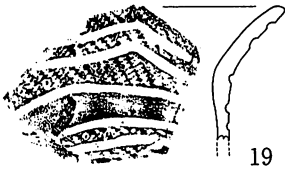


16

17*



18



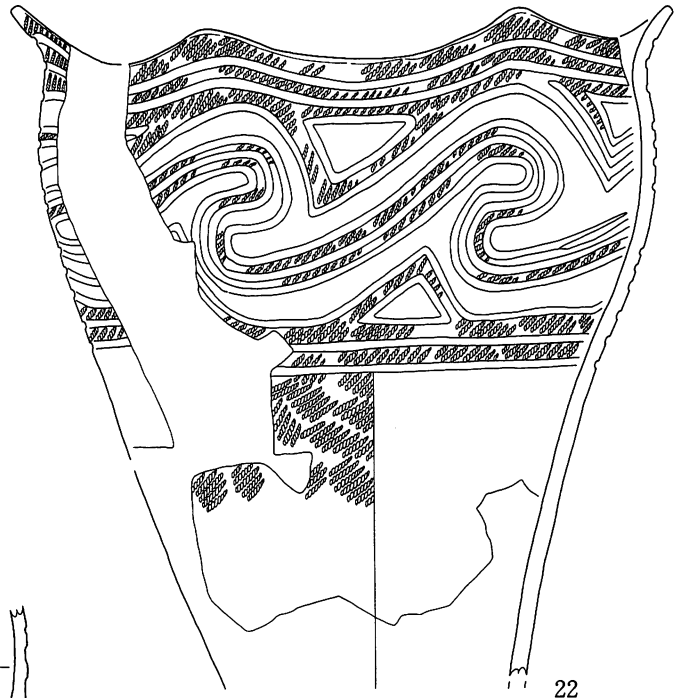
19



20



21



22



23



24



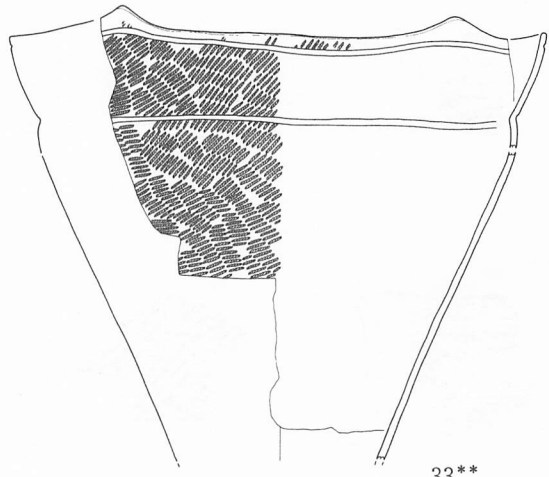
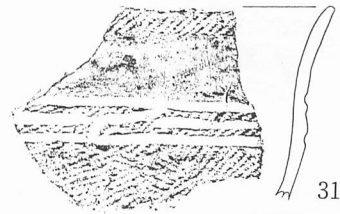
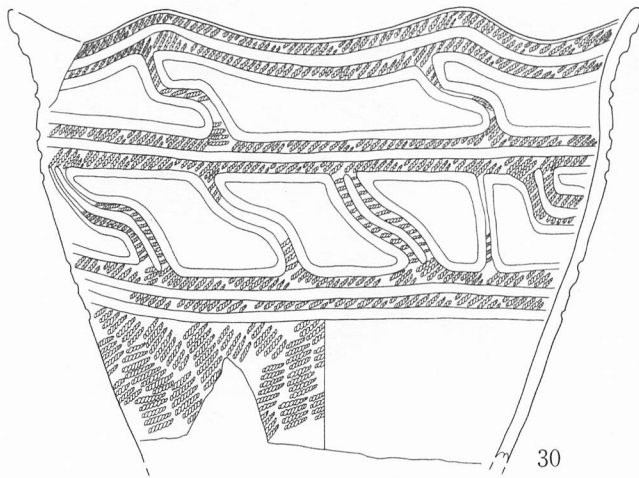
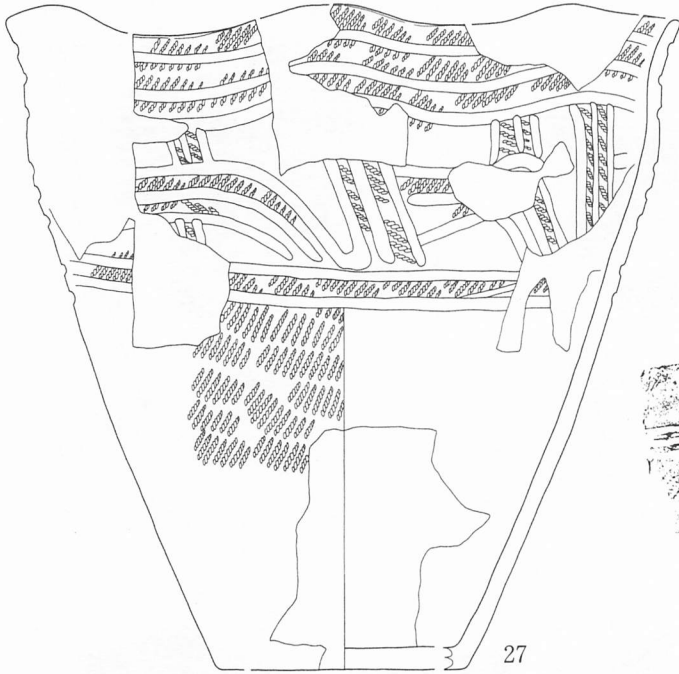
25



26

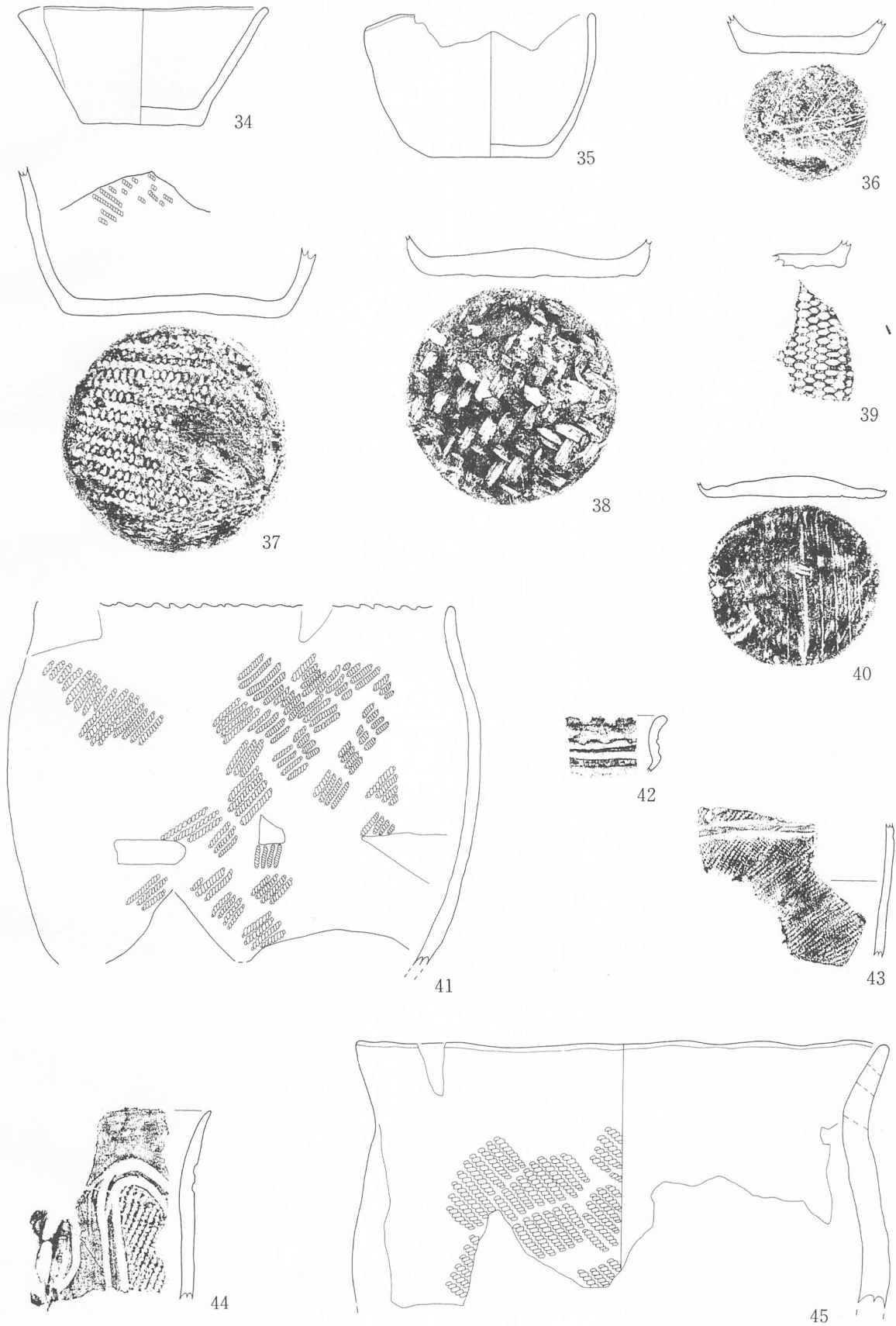
*S = 1/4

第20図 遺構内出土土器(3)



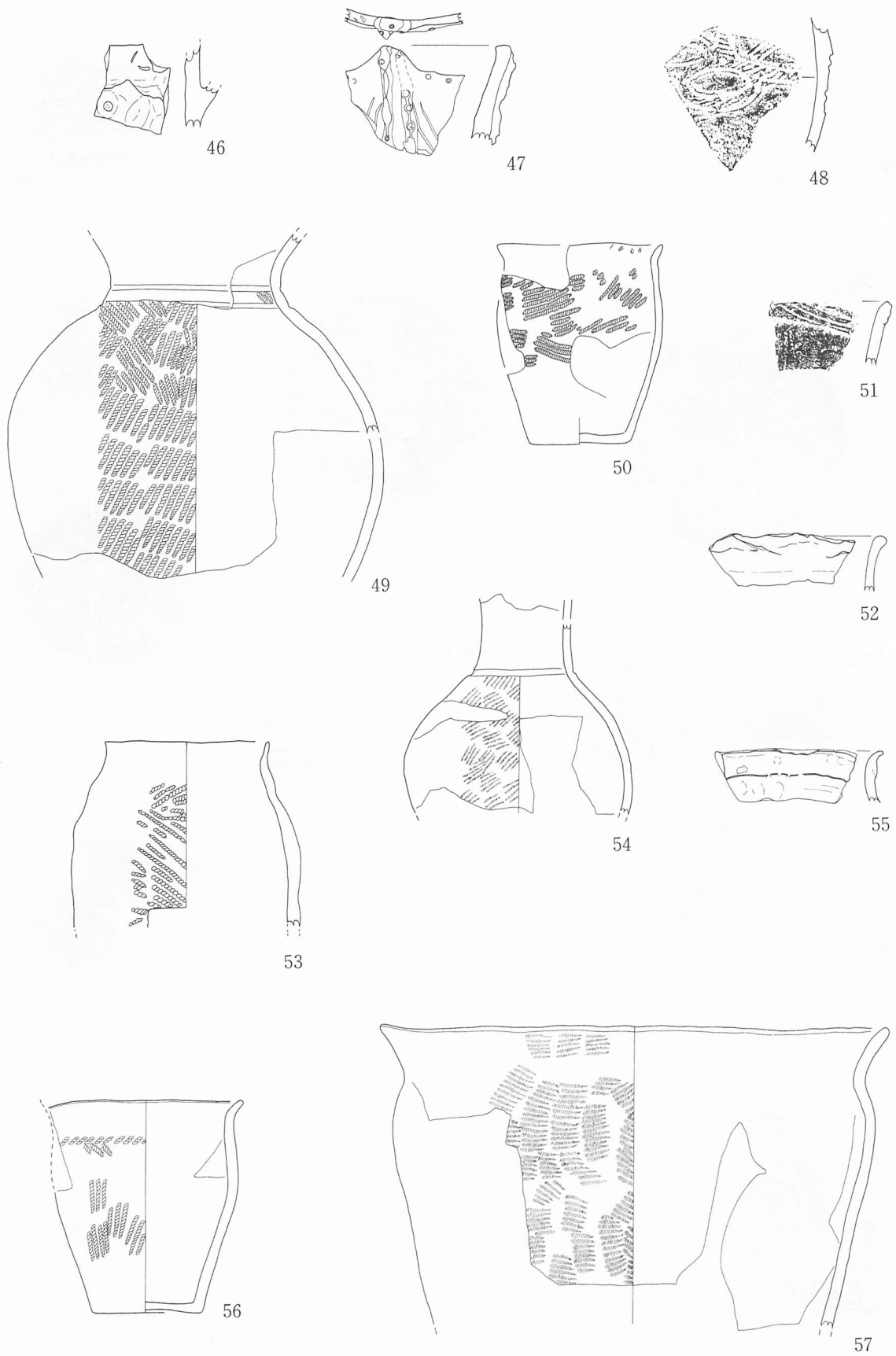
第21図 遺構内出土土器(4)

*S = 1/4 **S = 1/6

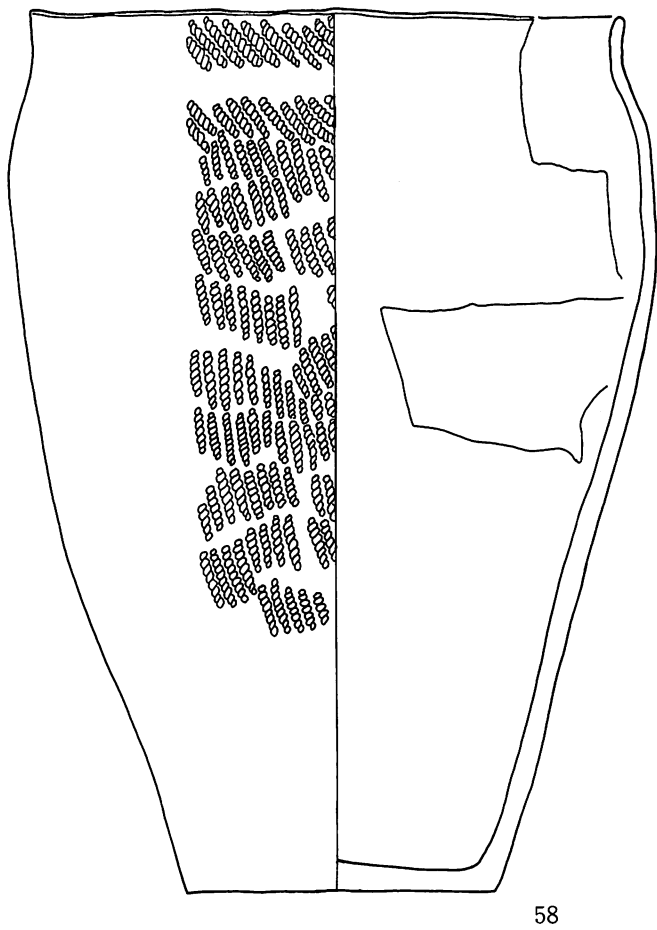


第22図 遺構内出土土器(5)・遺構外出土土器(1)

(41は遺構外)



第23図 遺構外出土土器(2)



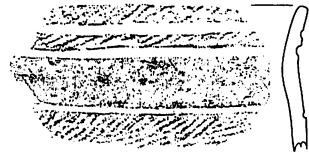
58



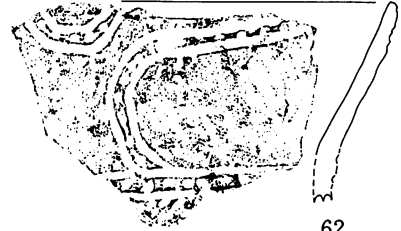
59



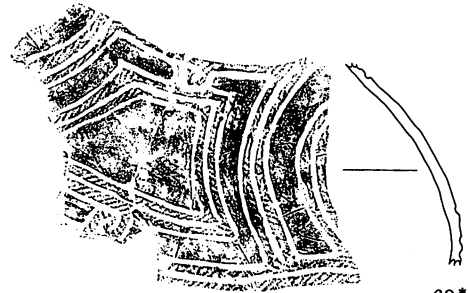
60



61



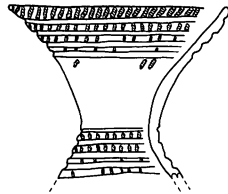
62



63*



64



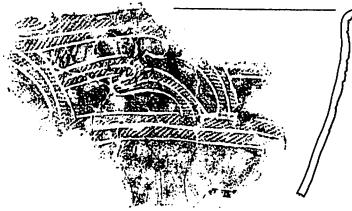
65



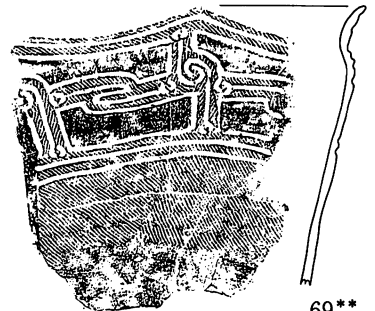
66



67**



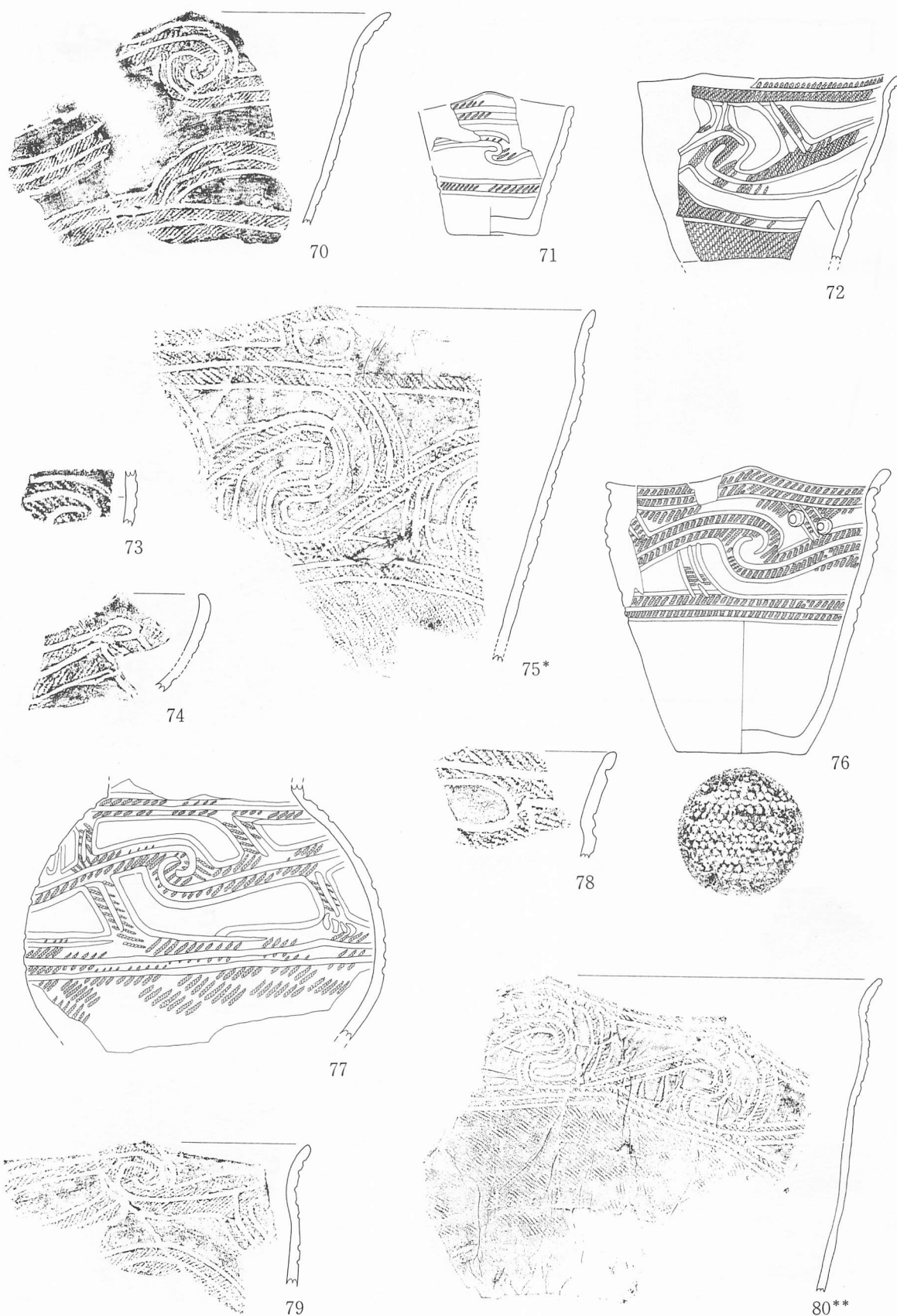
68**



69**

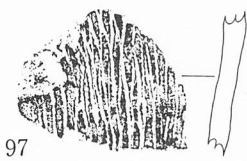
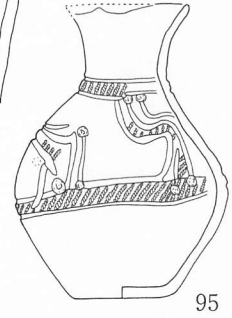
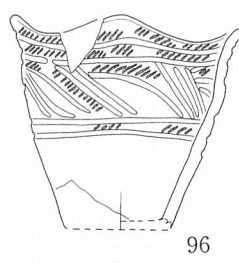
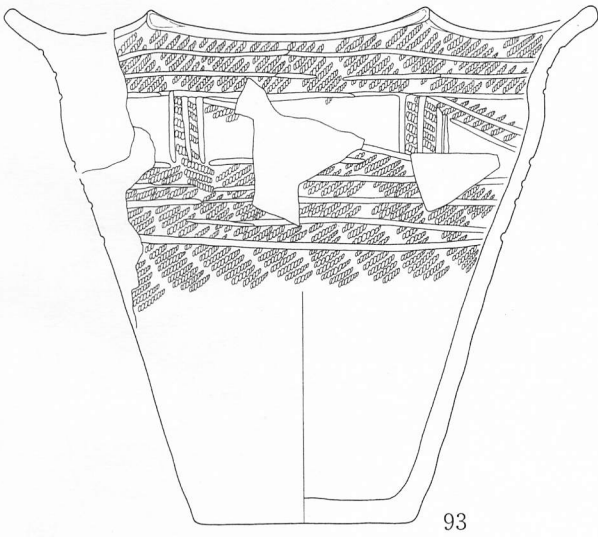
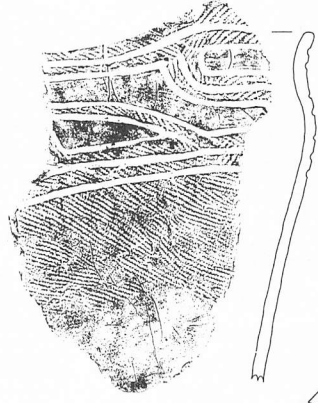
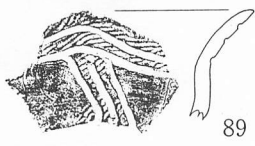
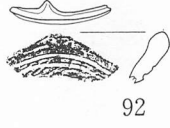
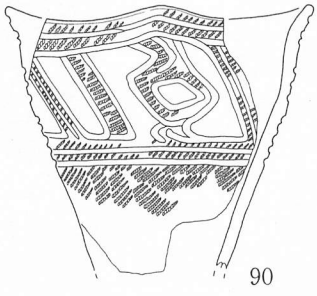
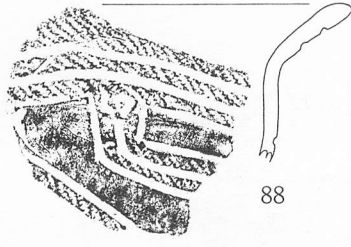
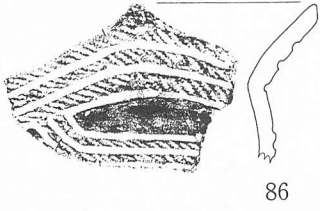
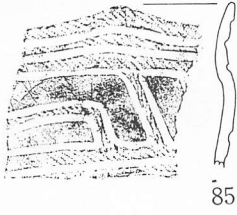
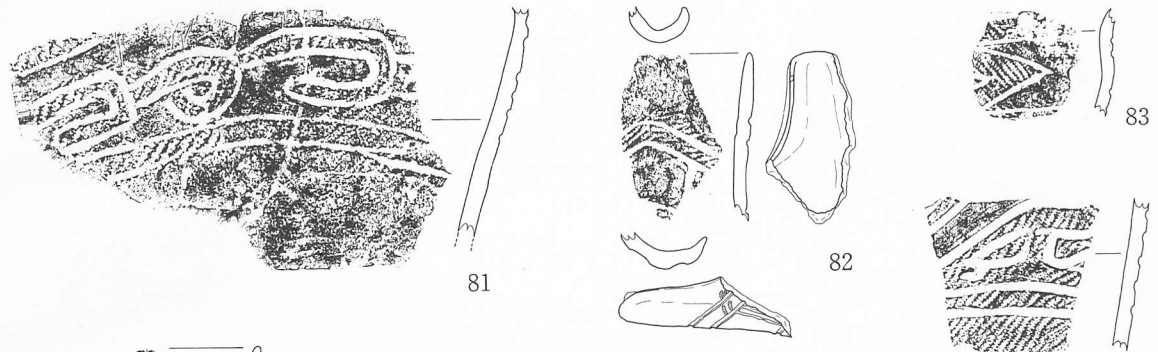
第24図 遺構外出土土器(3)

*S = 1/4 **S = 1/8



第25図 遺構外出土土器(4)

*S = 1/4 **S = 1/8 (80は遺構内)

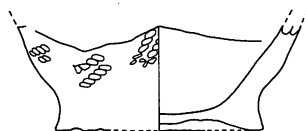


第26図 遺構外出土器(5)

*S = 1/4 (94は遺構内)



98



99



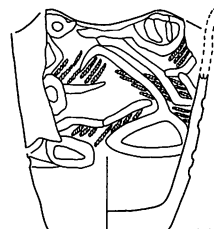
100



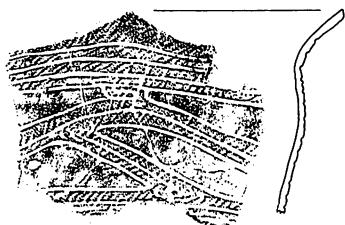
101



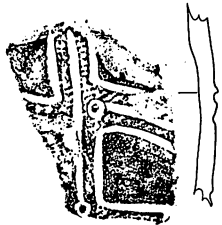
102



103



104**



105



106



107



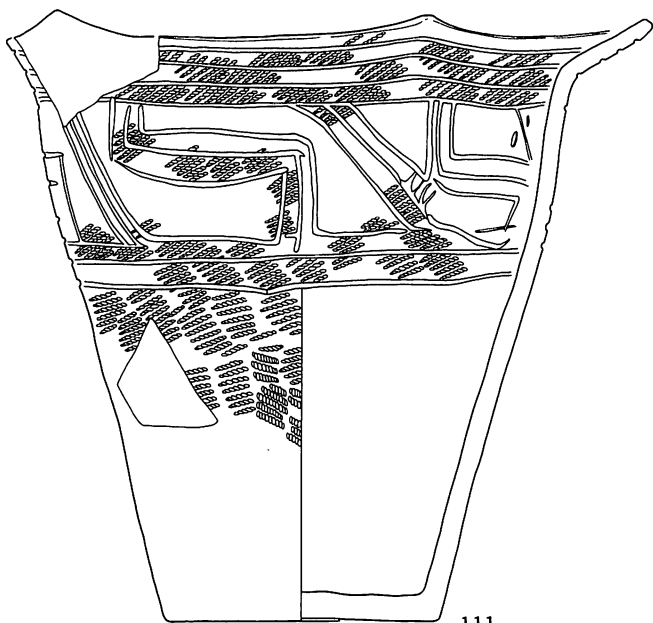
108



109



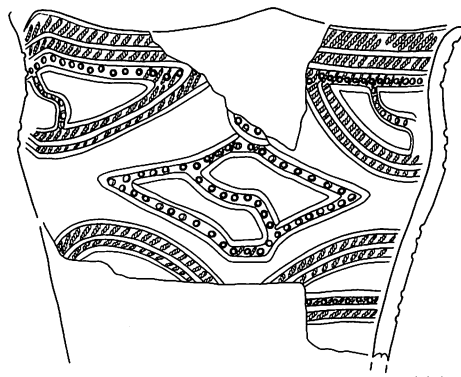
110



111



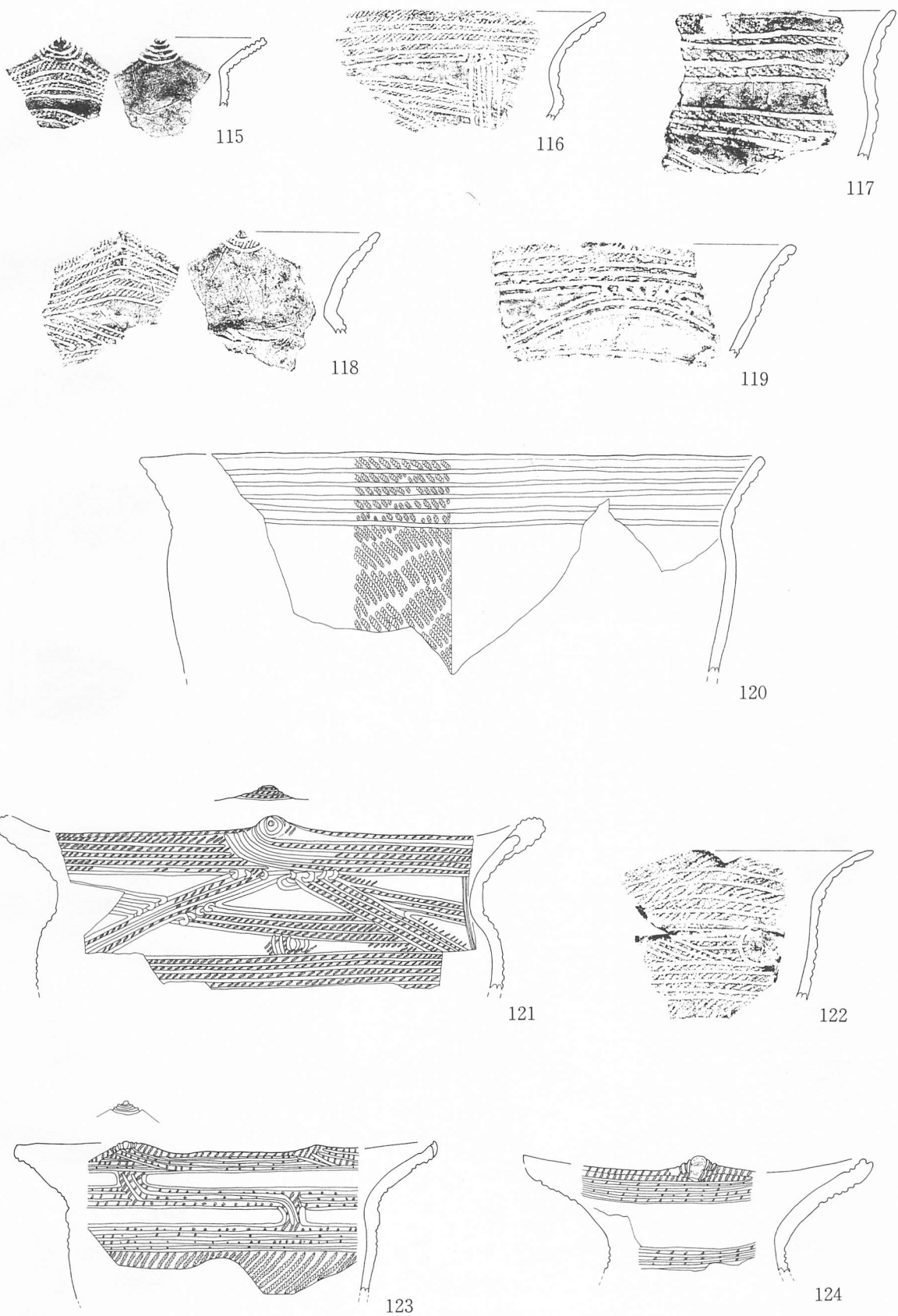
113



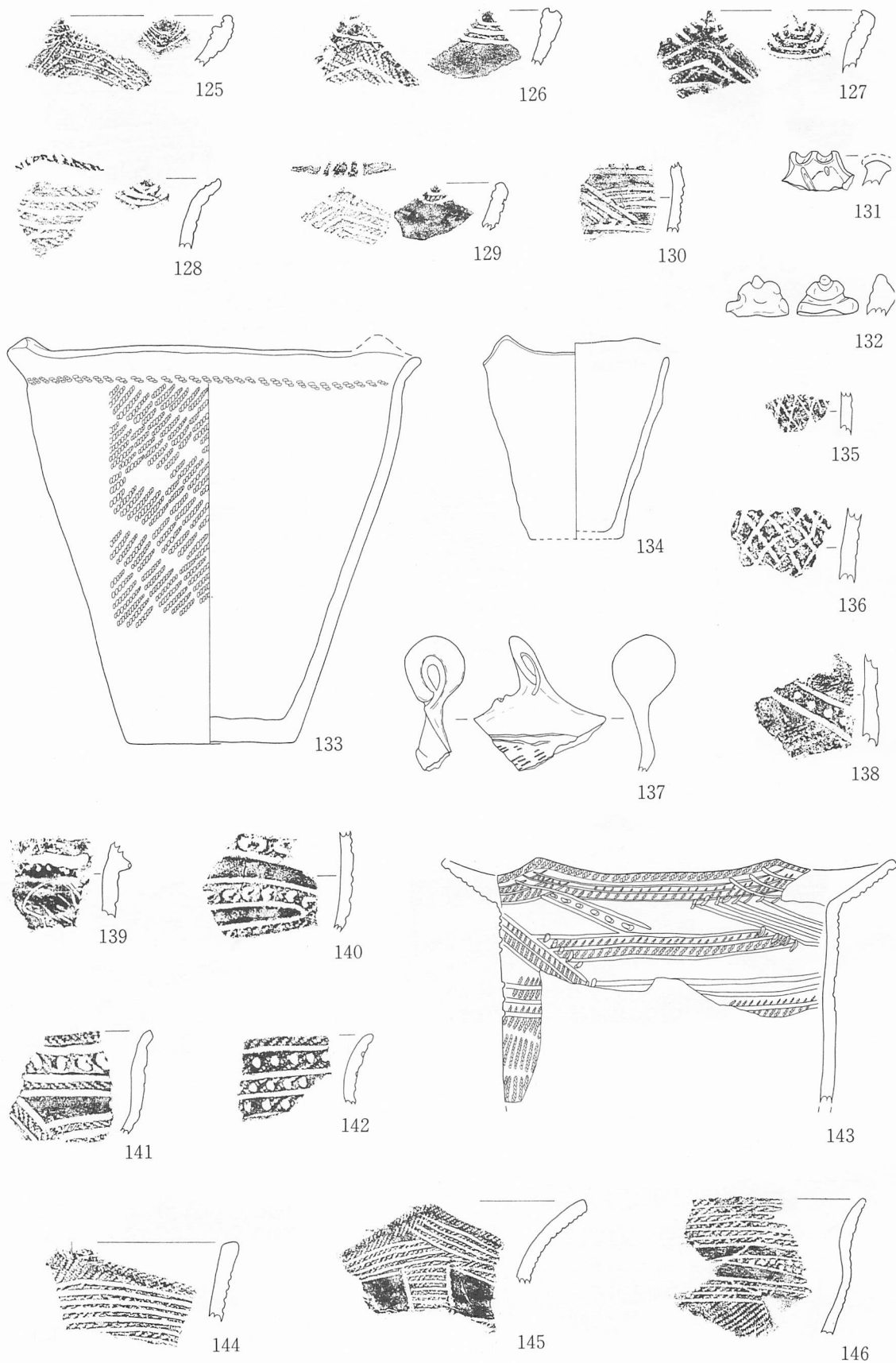
114

第27圖 遺構外出土土器(6)

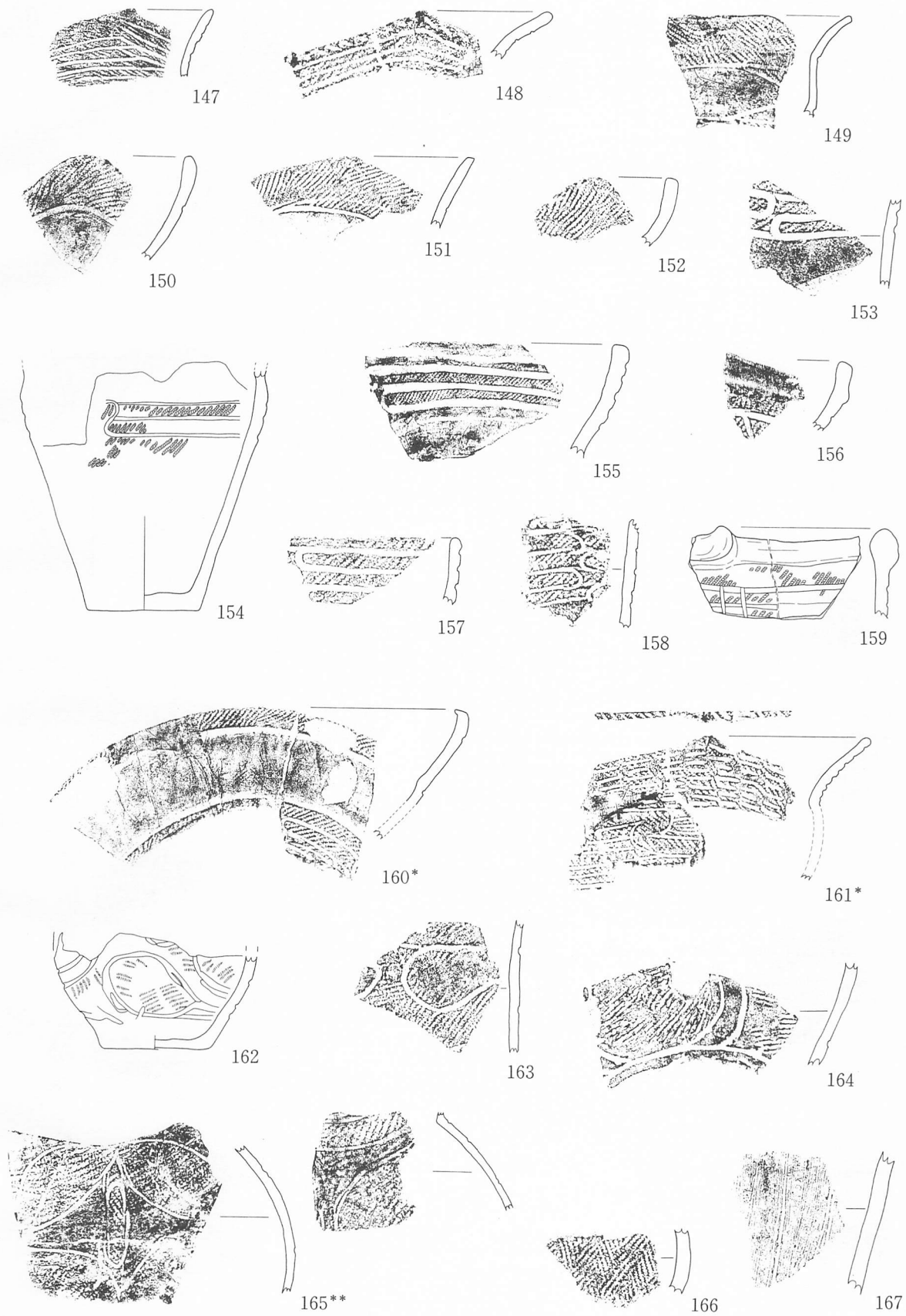
**S = $\frac{1}{2}$



第28図 遺構外出土土器(7)

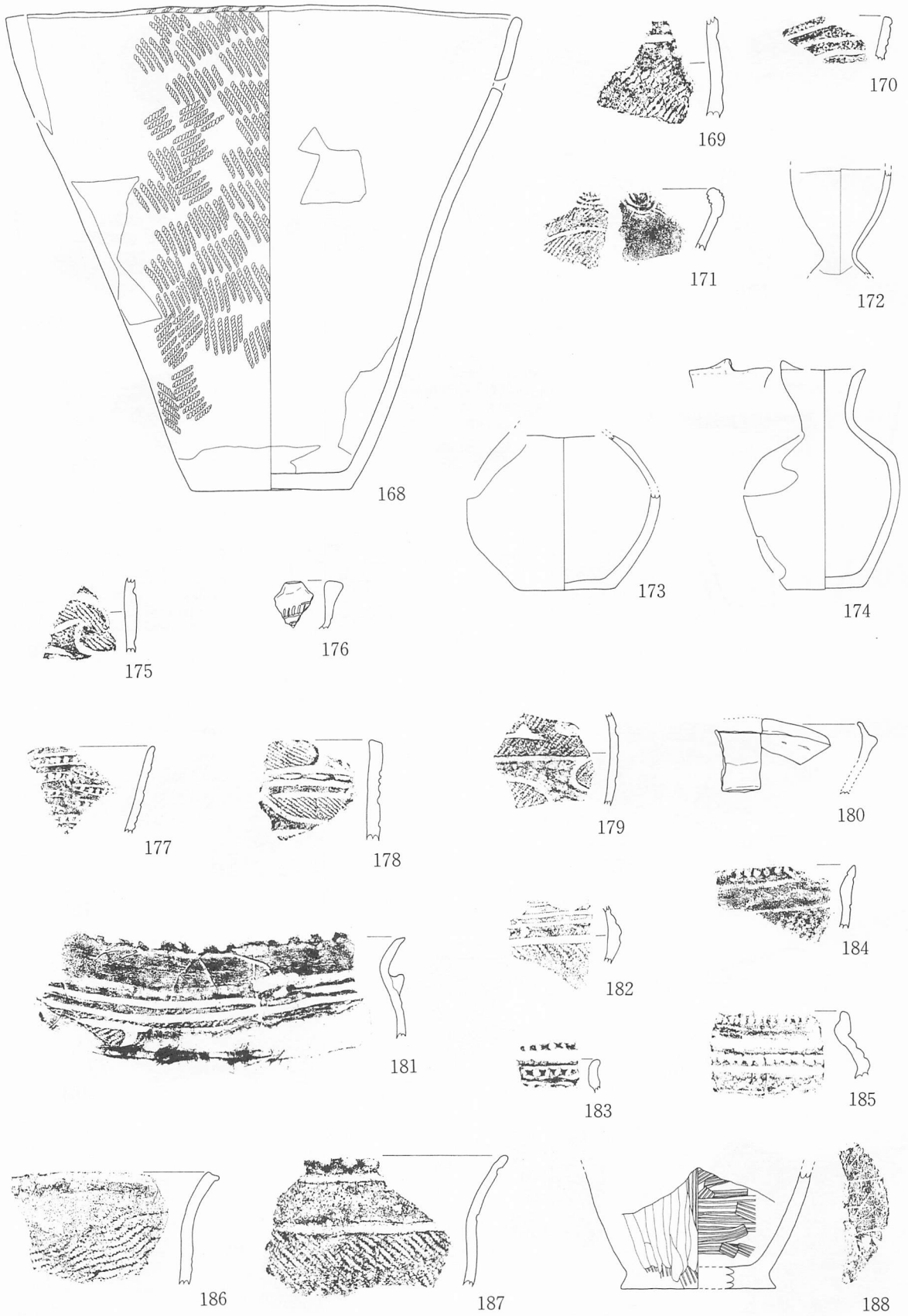


第29圖 遺構外出土土器(8)



第30図 遺構外出土土器(9)

*S = $\frac{1}{4}$ **S = $\frac{1}{8}$



第31圖 遺構外出土土器(10)

番号	出土地点・層位	器種	部位	文様・その他	内面	分類	観測
1	ⅡC21号土坑埋土下位	深鉢	胴部	LR縄文		I	16
2	ⅡC17号土坑 埋土	深鉢	口縁部	LR縄文、頸部無文帯、口唇部ナデ	ミガキ	Ⅲa	16
3	IC8号土坑 埋土	深鉢	胴部	LR縄文	ミガキ	Ⅲa	16
4	IC13号土坑Ⅲ～Ⅳ層	壺	胴部	平行沈線（2条～3条）、磨消縄文（LR）、精製	ナデ	Ⅲb1	16
5	ⅡC17号土坑埋土中位	深鉢	口～胴	LR縄文（全体の3/4）、頸部無文帯	ナデ	Ⅲa	16
6	IC13号土坑埋土下位	浅鉢	口～底	3ヶの突起、口縁に合わせて沈線+LR縄文、底部木片？痕有	ミガキ	Ⅲb1	16
7	ⅡC10号土坑 埋土	深鉢	口～胴	頸部無文帯、RL縄文	ナデ	Ⅲa	16
8	ⅡC10号土坑 Ⅲ層	壺	口～底	平行沈線、LR縄文、胴部及び底部ミガキ、口唇部ナデ	ミガキ	Ⅲb1	16
9	IC8号土坑埋土下位	深鉢	口～胴	頸部無文帯、LR縄文（全体の2/3）	ナデ	Ⅲa	16
10	IC13号土坑Ⅲ～Ⅳ層	深鉢	口縁部	波状口縁、平行沈線、磨消縄文（LR）	ミガキ	Ⅲb2	17
11	ⅡC10号土坑 床直	深鉢	口～胴	頸部無文帯、LR縄文、IC15号土坑からの破片も接合	ミガキ	Ⅲa	16
12	ⅡC10号土坑 下位	深鉢	口～胴	波状口縁、平行沈線、渦巻き文、磨消縄文（LR）	ミガキ	Ⅲb2	17
13	IC4号土坑 埋土	深鉢	胴部	平行沈線、渦巻き文？、磨消縄文（LR）	ミガキ	Ⅲb2	17
14	ⅡC17号土坑 埋土	深鉢	口縁部	波状口縁、平行沈線、渦巻き文、磨消縄文（LR）、穿孔有り	ミガキ	Ⅲb2	17
15	ⅡC17号土坑 中位	深鉢	口縁部	波状口縁、平行沈線、渦巻き文、磨消縄文（LR）	ナデ	Ⅲb2	17
16	ⅡC11号土坑上～中位	深鉢	口縁部	波状口縁、入組文、2～3条の平行沈線、磨消縄文（LR）	ミガキ	Ⅲb2	17
17	ⅡC6号土坑 埋土	深鉢	口～胴	波状口縁、平行沈線、入組文、磨消縄文、胴部下にも縄文	ミガキ	Ⅲb2	17
18	ⅡC10号土坑 埋土	深鉢	口縁部	波状口縁？、平行沈線、磨消縄文（RL）		Ⅲb2	17
19	ⅡC25号土坑 埋土	深鉢	口縁部	波状口縁、平行沈線、磨消縄文（LR）	ミガキ	Ⅲb2	17
20	IC4号土坑 埋土	深鉢	口縁部	平行沈線、磨消縄文（LR）	ミガキ	Ⅲb2	17
21	IC8号土坑 埋土		胴部	平行沈線、磨消縄文		Ⅲb2	17
22	ⅡC16号土坑 Ⅲ層	深鉢	口～胴	波状口縁、入組文、磨消縄文（LR）	ミガキ	Ⅲb2	17
23	ⅡC18号土坑 埋土	深鉢	口縁部	平行沈線、磨消縄文（LR）		Ⅲb2	17
24	ⅡC18号土坑 埋土		胴部	LR縄文	ミガキ	Ⅲ	17
25	IC4号土坑 埋土	深鉢	口縁部	平行沈線、磨消縄文、刺突文	ミガキ	Ⅲd？	17
26	IC8号土坑 埋土		胴部	LR縄文、渦巻き文	ミガキ	Ⅲ	17
27	ⅡC24号土坑上～中位	深鉢	口～胴	波状口縁、3条の平行沈線、磨消縄文（LR）	ミガキ	Ⅲb2	17
28	ⅡC18号土坑 埋土	深鉢	口縁部	波状口縁、平行沈線、磨消縄文（LR）、IC8号・13号土坑よりも一部出土	ミガキ	Ⅲb2	17
29	IC8号土坑 埋土	深鉢	口～胴	平口縁、頸部無文帯、無文帯直下平行沈線、縦位に孤線文	ミガキ	Ⅲe	18
30	ⅡC16号土坑 V層下	深鉢	口～胴	波状口縁、頸部と胴部上は同文様、平行沈線、磨消縄文（LR）	ミガキ	Ⅲb2	17
31	ⅡC10号土坑 埋土	深鉢	口縁部	29とほぼ同じ、LR縄文	ミガキ	Ⅲe	18
32	ⅡC11号土坑 埋土	深鉢	口～胴	波状口縁、多条の平行沈線、渦巻き文、LR縄文		Ⅲb2	18
33	IC1号土坑 埋土	深鉢	口～胴	波状口縁、胴上及び口縁に合わせて沈線有、LR縄文	ミガキ	Ⅲh	18
34	ⅡC10号土坑 下位	浅鉢	完形	平口縁、無文、精製、外面ミガキ	ミガキ	Ⅲg	18
35	IC3号土坑 中位	浅鉢	口～底	平口縁、無文、粗製、外面ナデ（ヘラ？）	ナデ	Ⅲg	18
36	IC11号土坑 埋土		底部	木葉痕有	ミガキ	Ⅲ	18
37	ⅡC10号土坑 下位		底部	網代痕有、胴部LR縄文	ミガキ	Ⅲ	18
38	IC4号土坑 下位		底部	網代痕有	ミガキ	Ⅲ	18
39	IC4号土坑 下位		底部	網代痕有		Ⅲ	18
40	ⅡC9号土坑 下位		底部			Ⅲ	18
41	ⅡC12グリット	深鉢	口～胴	遺構内出土から遺構外に変更 口縁押圧 LR縄文	ナデ	V	18
42	ⅡC11号土坑 埋土		口縁部	口縁部刻目、平行沈線 ⅡC20号土坑よりの破片と接合	ミガキ	V	18
43	ⅡC2号土坑 埋土	深鉢	胴部	平行沈線、LR縄文		V	18

第3表 遺構内出土土器観察表

番号	出土地点・層位	器種	部位	文様・その他	内面	分類	頁
44	ⅡC13	Ⅲ層	深鉢 口縁部	RL縄文、ⅡC21号土坑検出面		I	19
45	ⅡC24	Ⅳ層	深鉢 口～胴	頸部～口縁部無文、LR縄文	ミガキ	I	19
46	ⅡB25	水酸化鉄層	深鉢 口縁部	突起部、刺突	ミガキ	Ⅱ	19
47	ⅡB15	Ⅲ層下	深鉢 口縁部	突起部、隆帯文、刺突		Ⅱ	19
48	ⅡB15	Ⅲ～Ⅳ層	胴部	隆帯文上に無節縄文+刺突	ミガキ	Ⅱ	19
49	ⅡB25	Ⅲ～Ⅳ層	壺 頸～胴	頸部に2条の平行沈線、RL縄文	ミガキ	Ⅲb1	19
50	ⅡB20	Ⅲ層	深鉢 口～底	深鉢、頸部無文帯、LR縄文	ミガキ	Ⅲa	19
51	西側トレンチ		口縁部	口縁部折り曲げ+縄文押圧(LR)	ミガキ	Ⅲ	19
52	ⅠC22	Ⅲ～Ⅳ層	口縁部	口縁部折り曲げ	ミガキ	Ⅲ	19
53	ⅡB25	水酸化鉄層下	壺 口～胴	頸部～口縁無文、LR縄文	ミガキ	Ⅲa	19
54	ⅡB25	Ⅲ層	壺 頸～胴	頸部に沈線、粗製	ナデ	Ⅲa	19
55	旧沢	水酸化鉄層	口縁部	口縁部折り曲げ	ミガキ	Ⅲ	19
56	ⅡB25	水酸化鉄層下	深鉢 口～底	頸部無文、RL縄文	ミガキ	Ⅲa	19
57	ⅡB15・20	水酸化鉄下	深鉢 口～胴	頸部無文	ミガキ	Ⅲa	19
58	ⅡB20		深鉢 口～底	頸部磨消、RL縄文	ミガキ	Ⅲa	19
59	ⅠC22	Ⅲ層	口縁部	波状口縁、平行沈線+充填縄文	ミガキ	Ⅲ	19
60	ⅡB23	Ⅲ層		押圧		Ⅲ	19
61	ⅡB25	Ⅲ層下	口縁部	2条の平行沈線、磨消縄文(LR)	ミガキ	Ⅲ	19
62	ⅠC17・23	Ⅲ層下	深鉢 口縁部	曲線の沈線間に刺突		Ⅲ	19
63	ⅡB20	Ⅲ層	壺? 胴部	3条の平行沈線が基本、磨消縄文(LR)	ミガキ	Ⅲb2	19
64	ⅡB20	Ⅲ層	口～胴	羽状縄文(LR)		Ⅲ	19
65	ⅡB20	Ⅲ～Ⅳ層	壺 口～頸	4条の平行沈線、沈線間に縄文(LR)	ミガキ	Ⅲb1	19
66	ⅡB20	水酸化鉄層	深鉢 口～胴	波状口縁、渦巻文、磨消縄文(LR)	ミガキ	Ⅲb2	19
67	旧沢跡		深鉢 口～胴	波状口縁、3条の沈線、渦巻文? 磨消縄文(LR)	ミガキ	Ⅲb2	19
68	ⅡB20	Ⅲ層	深鉢 口～胴	3条の平行沈線、渦巻文、ⅡC4号土坑出土の土器と接合	ミガキ	Ⅲb2	20
69	ⅡB25	水酸化鉄下	深鉢 口～胴	波状口縁、3条平行沈線、渦巻文、磨消縄文(LR)	ミガキ	Ⅲb2	20
70	ⅡB25	水酸化鉄層	口縁部	緩やかな波状口縁、3条の平行沈線、渦巻文、磨消縄文(LR)	ミガキ	Ⅲb2	20
71	ⅡB25	Ⅲ層下	深鉢 口～底	深鉢、波状口縁、2条の平行沈線、入組文、磨消縄文(LR)	ミガキ	Ⅲb2	20
72	ⅡB20	Ⅲ層下	深鉢 口～胴	波状口縁、2条の平行沈線、入組文、磨消縄文(LR)	ミガキ	Ⅲb2	20
73	ⅡB20	水酸化鉄層下	胴部	渦巻文、沈線間にRL縄文		Ⅲb2	20
74	ⅠC22	Ⅲ層	口縁部	波状口縁、突起部直下に入組文		Ⅲb2	20
75	旧沢跡		深鉢 口～胴	波状口縁、3条の平行沈線、入組文	ミガキ	Ⅲb2	20
76	ⅡB20	Ⅲ層下～Ⅳ層	深鉢 口～底	波状口縁、2～3条の平行沈線、入組文、穿孔有	ミガキ	Ⅲb2	20
77	ⅡB25	水酸化鉄層下	壺 胴部	3条の平行沈線、磨消縄文(LR縄文)、入組文	ミガキ	Ⅲb2	20
78	ⅡB20	Ⅲ層	深鉢 口縁部	波状口縁、平行沈線、磨消縄文(RL)	ミガキ	Ⅲb2	20
79	ⅡB25	水酸化鉄層下	深鉢 口縁部	波状口縁、突起部直下渦巻文有、磨消縄文(LR)	ミガキ	Ⅲb2	20
80	ⅡC16号土坑 最下部		深鉢 口～胴	波状口縁、入組文、磨消縄文(RL)		Ⅲb2	20
81	ⅡB20	Ⅲ～Ⅳ層	胴部	2条の平行沈線、磨消縄文(LR)	ミガキ	Ⅲb2	20
82	ⅠC17	Ⅲ層下	注ぎ口	平行沈線間にLR縄文	ミガキ	Ⅲb1	20
83	ⅠC24	Ⅳ層下	胴部	RL充填縄文、内面黒色処理	ミガキ	Ⅲb2	20
84	ⅡB25	Ⅲ層下	深鉢 胴部	2条の平行沈線、磨消縄文(LR)	ミガキ	Ⅲb2	20
85	ⅡB25	Ⅲ～Ⅳ層	深鉢 口～胴	波状口縁、2～3条の平行沈線、クランク文、磨消縄文(RL)	ミガキ	Ⅲb2	20
86	ⅡB15	Ⅲ層下	深鉢 口縁部	波状口縁、3条の平行沈線、磨消縄文	ミガキ	Ⅲb2	20
87	ⅠC22	Ⅲ層	壺? 口縁部	緩やかな波状口縁、3条の平行沈線、磨消縄文(LR)	ミガキ	Ⅲb2	20
88	ⅡB25	Ⅲ層	深鉢 口縁部	波状口縁、3条の平行沈線、磨消縄文(RL)	ミガキ	Ⅲb2	20
89	ⅡB20	Ⅲ層下～Ⅳ層	口縁部	波状口縁、2～3条の平行沈線、磨消縄文	ミガキ	Ⅲb2	20
90	ⅡB25	水酸化鉄層下	深鉢 口～胴	波状口縁、2～3条の平行沈線、磨消縄文(LR)	ミガキ	Ⅲb2	20
91	旧沢跡北側T	Ⅲ層	深鉢 口縁部	口唇部ナデ、波状口縁、無節縄文	ミガキ	Ⅲ	20
92	ⅡB20	Ⅲ層下	口縁部	波状の突起部、内面においてつまむ、平行沈線、LR縄文	ミガキ	Ⅲb	20
93	ⅡB20	Ⅲ層	深鉢 口～底	波状口縁、3～4条の平行沈線、磨消縄文(LR)、網代痕	ミガキ	Ⅲc	21
94	ⅡC17号土坑上～中位		深鉢 口～胴	波状口縁、3条の平行沈線、クランク文、磨消縄文(RL)	ミガキ	Ⅲb2	21

第4表 遺構外出土土器観察表(1)

番号	出土地点・層位	器種	部位	文様・その他	内面	分類	観測
95	I B 2 4 水酸化鉄層下	壺	口～底	2条平行沈線、クランク文、刺突、磨消縄文 (LR)	ミガキ	III b 2	21
96	II B 2 0 Ⅲ層下	ミナチユ 7土器	口～胴	深鉢、波状口縁、2条の平行沈線、クランク文磨消縄文	ミガキ	III b 2	21
97	II B 2 0 水酸化鉄層下		胴部	押圧縄文 (LR)	ミガキ	III h	21
98	II B 2 5 水酸化鉄層下	浅鉢	口～底	突起 (3ヶ所?)、LR縄文	ミガキ	III h	21
99	II B 2 0 Ⅲ層下		底部	RL縄文	ミガキ	III	21
100	II B 0 5 Ⅲ層下		胴部	沈線間に縄文 (LR)	ミガキ	III	21
101	II B 1 5 Ⅲ層下～Ⅳ層		胴部	斜状縄文、曲線による沈線、磨消縄文 (LR)	ミガキ	III	21
102	II B 2 0 水酸化鉄層下	深鉢	口縁部	平縁、RL縄文	ミガキ	III a	21
103	II B 2 5 水酸化鉄層下	ミナチユ 7土器	口～底	深鉢、波状口縁、磨消縄文 (LR)、区画文の変形	ミガキ	III b 2	21
104	旧沢跡	深鉢	口～胴	波状口縁、3～4条の平行沈線、磨消縄文 (LR)	ミガキ	III b 2	21
105	II B 2 5 Ⅲ層		胴部	磨消縄文 (LR)		III b 2	21
106	II B 2 0 Ⅲ～Ⅳ層		胴部	磨消縄文 (LR)		III b 2	21
107	II B 2 5 Ⅲ層下		胴部	RL縄文	ミガキ	III	21
108	II B 2 5 Ⅲ層下		胴部	多条の細い平行沈線、磨消縄文 (LR)	ミガキ	III b 2	21
109	I C 1 8 Ⅲ層下		胴部	平行沈線及び曲線文、LR縄文	ミガキ	III b 2	21
110	I C 22・23 Ⅲ～Ⅳ層	深鉢	口縁部	波状口縁、3～5条の平行沈線、クランク文、RL縄文	ミガキ	III c	21
111	II B 2 0 Ⅲ層下	深鉢	口～底	波状口縁、3～4条の平行沈線、クランク文、口縁外反	ミガキ	III c	21
112	旧沢跡 Ⅲ層		胴部	曲線による多条の平行沈線		III c ?	21
113	西側 T		胴部	不規則な条線		III h	21
114	II B 2 0 Ⅲ層下	深鉢	口～胴	波状口縁、3条の平行沈線、刺突文、磨消縄文 (LR)	ミガキ	III d	21
115	II C 0 4 Ⅳ層上面	深鉢	口縁部	波状口縁、多条平行沈線、突起部沈線により強調、磨消縄文	ミガキ	III c	21
116	II B 2 0 Ⅲ層上	深鉢	口縁部	多条の平行沈線、磨消縄文	ミガキ	III c	21
117	II B 1 5 Ⅲ～Ⅳ層	深鉢	口縁部	3～4条の平行沈線、磨消縄文 (RL?)	ミガキ	III c	21
118	I C 2 3 Ⅲ～Ⅳ層	深鉢	口縁部	多条の平行沈線、突起部内面にも沈線、波状口縁、RL縄文	ミガキ	III c	21
119	I C 1 6 Ⅲ層	深鉢	口縁部	多条の平行沈線、磨消縄文	ミガキ	III c	21
120	II B 2 0 Ⅲ層	深鉢	口縁部	多条の平行沈線、全面に縄文 (RL)	ミガキ	III c	22
121	II B 2 0 水酸化鉄層下	深鉢	口縁部	4ヶの突起、多条の平行沈線、突起内面にも沈線有、LR縄文	ミガキ	III c	22
122	II B 2 0 Ⅲ層	深鉢	口縁部	波状口縁、多条の平行沈線、磨消縄文 (LR)	ミガキ	III c	22
123	II B 2 0 水酸化鉄層	深鉢	口縁部	6ヶの突起 (内面沈線3ヶ、なし3ヶ)、4条の平行沈線	ミガキ	III c	22
124	旧沢跡 水酸化鉄層下	壺?	口縁部	6条の平行沈線、突起部内面3条の平行沈線	ミガキ	III c	22
125	旧沢跡 Ⅲ層	深鉢	口縁部	波状口縁、多条の平行沈線、突起部内面にも沈線有	ミガキ	III c	22
126	II B 2 0 Ⅲ層下～Ⅳ層	深鉢	口縁部	波状口縁、突起部内面にも沈線有、RL縄文	ミガキ	III c	22
127	II B 2 3 Ⅲ層	深鉢	口縁部	波状口縁、突起部内面にも沈線有、LR縄文	ミガキ	III c	22
128	II B 1 9 Ⅲ層下		口縁部	波状口縁、突起部内面にも沈線有	ミガキ	III c	22
129	II B 2 0 水酸化鉄層上	深鉢	口縁部	波状口縁、突起部内面にも沈線有、LR縄文	ミガキ	III c	22
130	I C 1 7 Ⅲ層下		胴部	沈線の多様、刻み目	ミガキ	III c	22
131	西側 T 旧沢水酸化鉄層		突起部			III c	22
132	西側 T 旧沢水酸化鉄層		突起部			III c	22
133	II B 1 5 水酸化鉄層下	深鉢	口～底	平縁+小突起、LR縄文、網代痕有、直線的立ち上がり	ミガキ	III c 2	22
134	II B 2 0 Ⅲ層	ミナチユ 7土器	口～底	深鉢、波状口縁、無文、粗製	ミガキ	III g	22
135	II B 2 0 Ⅲ層下		胴部	網目状撚糸文	ミガキ	III h	22
136	旧沢 Ⅲ層下		胴部	格子状文?		III h	22
137	I C 2 0 Ⅲ層		突起部	大型突起、渦巻状突起	ミガキ	III c	22
138	I C 1 6 Ⅲ層		胴部	沈線間に突起、無節縄文	ミガキ	III d	22
139	II B 2 0 Ⅲ層下		胴部	曲線的条線、隆帯文上に刺突		III	22
140	II B 2 0 Ⅲ層		胴部	曲線の平行沈線間に刺突		III d	22
141	旧沢跡北 Ⅲ層		口縁部	平行沈線、磨消縄文 (RL)、刺突	ミガキ	III d	22
142	II B 2 0 Ⅲ層		口縁部	平行沈線、沈線間に刺突、LR縄文	ミガキ	III d	22
143	II B 1 5 Ⅲ層下位	深鉢	口～胴	外反する波状口縁、3条の平行沈線、区画文、刺突、磨消縄文	ミガキ	III d	22
144	北側 T 盛土下	深鉢	口縁部	波状口縁、多条の平行沈線 (LR)	ミガキ	III d	22
145	II B 1 5 焼土検出面	深鉢	口縁部	波状口縁、多条の平行沈線、磨消縄文 (LR)	ミガキ	III d	22

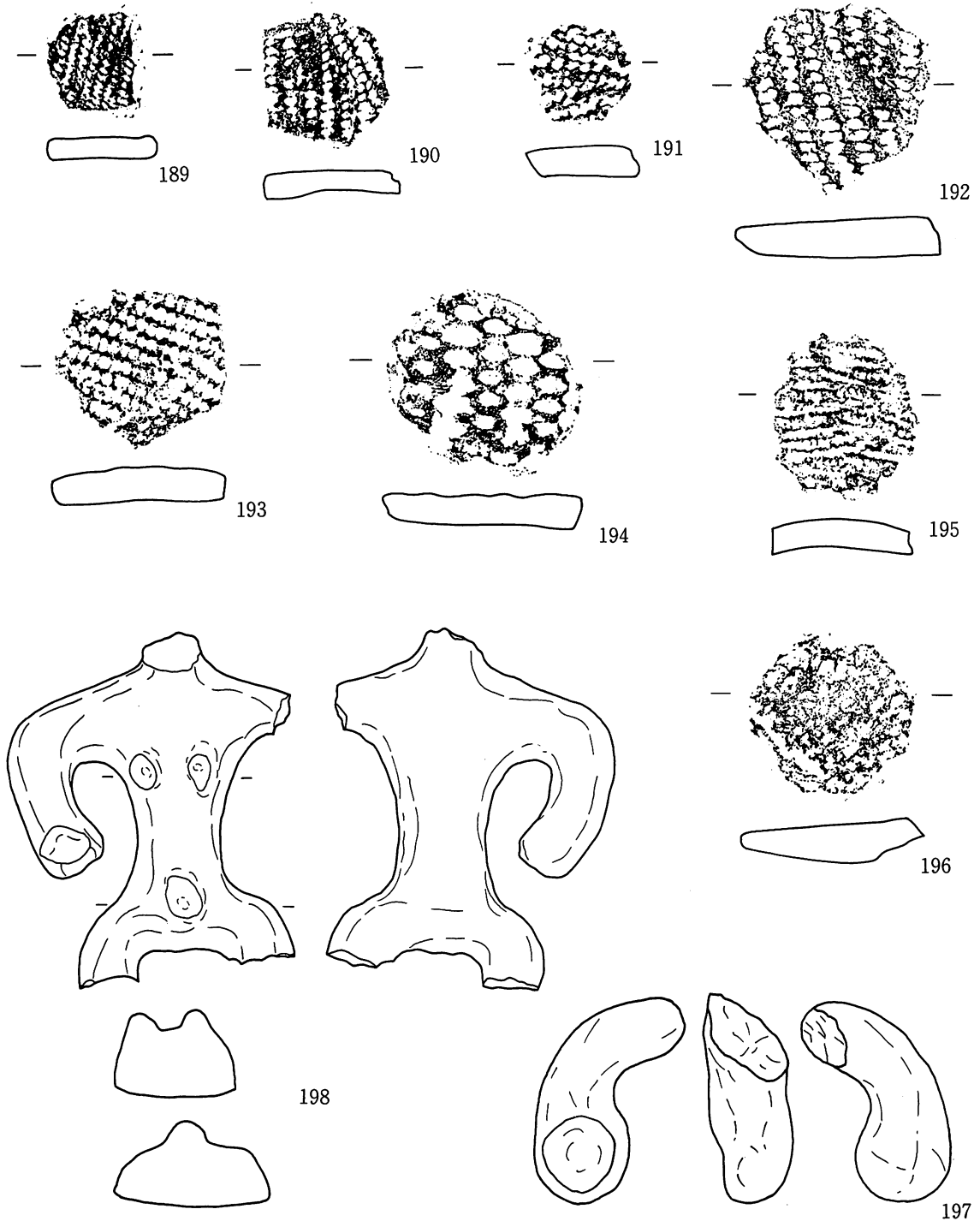
第4表 遺構外出土土器観察表(2)

番号	出土地点・層位	器種	部位	文様・その他	内面	分類	年
146	ⅡB20 Ⅲ～Ⅳ層		口縁部	多条の平行沈線、刺突、LR縄文	ミガキ	Ⅲd	22
147	北側T 盛土下		口縁部	多条の沈線(条線)、波状口縁	ミガキ	Ⅲd	22
148	ⅡB20 Ⅲ層		口縁部	波状口縁、平行沈線、刻み目	ミガキ	Ⅲd	22
149	ⅡB20 Ⅲ層		口縁部	外反する口縁、RL縄文	ミガキ	Ⅲ	22
150	ⅡB25 水酸化鉄層		口縁部	波状口縁(大?)、LR縄文	ミガキ	Ⅲ	22
151	ⅡB20 Ⅲ層		口縁部	波状口縁、LR縄文	ミガキ	Ⅲ	22
152	ⅠB25 Ⅲ層中		口縁部	波状口縁、LR縄文		Ⅲ	22
153	ⅡB05旧沢 下位		胴部	平行沈線、縦位に孤状の沈線、LR縄文		Ⅲe	23
154	ⅡB09 Ⅲ層下	深鉢	口～底	平行沈線、縦位に孤状の沈線、LR縄文	ミガキ	Ⅲe	23
155	ⅡB05 Ⅲ～Ⅳ層上		口縁部	平行沈線、縦位に孤状の沈線、LR縄文	ミガキ	Ⅲe	23
156	ⅡB15 Ⅲ～Ⅳ層上		口縁部	内彎、LR縄文、波状口縁?	ミガキ	Ⅲ	23
157	ⅠC17 Ⅲ層下		口縁部	平行沈線、縦位に孤状の沈線、LR縄文	ミガキ	Ⅲe	23
158	旧沢跡 Ⅲ層		胴部	平行沈線、縦位の沈線、LR縄文		Ⅲe	23
159	ⅡB15 水酸化鉄層下		口縁部	突起部、平行沈線	ミガキ	Ⅲ	23
160	ⅡB25 Ⅳ層	浅鉢	口縁部	内面外面ともミガキあり、LR縄文	ミガキ	Ⅲe	23
161	ⅡB03 Ⅲ～Ⅳ層	深鉢	口縁部	波状口縁、規則的に刻み目、入組文有、刺突	ミガキ	Ⅲ	23
162	ⅠC25 Ⅲ層	壺	胴～底	木葉文、斜状縄文、粗製	ナデ	Ⅲf	23
163	ⅡB25 Ⅲ層下		胴部	曲線による区画沈線(木葉文)、沈線内磨消縄文(LR)	ミガキ	Ⅲf	23
164	ⅠC21 Ⅲ～Ⅳ層上	壺?	胴部	孤線縄文、充填縄文(無節)	ナデ	Ⅲf	23
165	ⅡB09・ⅡB16 Ⅲ層	壺?	胴部	孤線文、LR縄文	ナデ	Ⅲf	23
166	ⅡB20 Ⅲ層下～Ⅳ層上		胴部	非結束羽状縄文	ミガキ	Ⅲ	23
167	ⅡB20 Ⅲ層下		胴部	規則性のない条線、内面の縦位のナデ	ミガキ	Ⅲ	23
168	ⅡB02 Ⅲ層	深鉢	口～底	平口縁、直線的な立ち上がり、RL縄文、口縁部に穿孔有	ミガキ	Ⅲh	23
169	北側T 盛土下		胴部	平行沈線間に刺突、無節縄文	ミガキ	Ⅲd	23
170	ⅡB20 水酸化鉄層		口縁部	平行沈線、刺突	ミガキ	Ⅲd	23
171	旧沢跡北側 Ⅲ層		口縁部	突起部内彎ぎみ、内面沈線、LR縄文	ミガキ	Ⅲc	23
172	ⅡB15 Ⅲ層下～Ⅳ層			小型土器、外面内面とも丁寧ミガキ	ミガキ	Ⅲg	23
173	ⅠC22 Ⅲ層下	壺	胴～底	無文、外面ミガキ	ナデ	Ⅲg	23
174	ⅡB20 水酸化鉄層焼土	壺	口～底	無文、口縁部1ヶ所突起有、小型、外面ミガキ		Ⅲg	23
175	ⅡB04 Ⅲ～Ⅳ層		胴部	入組文?RL縄文		Ⅲ	23
176	西側T旧沢水酸化鉄層		口縁部	突起部、刻み目		Ⅳ	23
177	ⅠC21北側T Ⅲ層下		口縁部	交互の刺突による入り組み		Ⅳ	23
178	ⅡB05旧沢跡		口縁部	充填縄文(RL)、横位の刺突	ミガキ	Ⅳ	23
179	北側T 盛土下		胴部	三叉文、LR縄文	ミガキ	Ⅴ	23
180	ⅡB25 Ⅲ～Ⅳ層		口縁部	無文	ミガキ	Ⅴ	23
181	ⅡB05 Ⅲ～Ⅳ層		口縁部	口唇部刻み目、頸部横貼瘤、横位沈線	ミガキ	Ⅴ	23
182	東側T		口縁部	内彎、横位沈線、RL縄文	ミガキ	Ⅴ	23
183	北側T 盛土下		口縁部	口唇部刻み目、口縁内面沈線、LR縄文	ミガキ	Ⅴ	23
184	ⅠC17 Ⅲ層下		口縁部	口唇部刻み目、平行沈線	ミガキ	Ⅴ	23
185	ⅠC17・22 Ⅲ層		口縁部	口唇部刻み目、口縁内面沈線、LR縄文	ミガキ	Ⅴ	23
186	ⅠC23 Ⅳ層		口縁部	口唇部押圧による調整、頸部より下LR縄文	ミガキ	Ⅴ	23
187	ⅠC23 Ⅳ層		口縁部	口唇部波状に押圧、横位沈線下LR縄文		Ⅴ	23
188	ⅡB25旧沢跡	甕	底部	内面ハケメ、外面ハケメ+ミガキ	ハケメ	Ⅵ	23

第4表 遺構外出土土器観察表(3)

(2) 土製品 (第32図、写真図版24-189~198)

円盤型土製品が8点、土偶が2点出土している。いずれも遺構外での出土で大半が旧沢埋土内及びその周辺である。土偶は2点とも沈線、付着物等はなく、スプーン状の手をしており、縄文時代後期前葉の時期のものと思われる。



第32図 土製品

番号	出土地点・層位	器種	文様・その他	内面	分類	頁碼
189	ⅡB20	Ⅲ層 円盤型土製品	土器胴部使用、LR縄文			24
190	ⅡB15	Ⅲ層 円盤型土製品	土器胴部使用、LR縄文			24
191	ⅡB20	Ⅲ層 円盤型土製品	単節縄文			24
192	ⅠC24	Ⅳ層 円盤型土製品	土器胴部使用、LR縄文			24
193	西側T中央南	円盤型土製品	LR縄文			24
194	ⅡB18	Ⅲ層 円盤型土製品	土器底部使用、網代痕			24
195	ⅡC02	Ⅳ層 円盤型土製品	土器胴部使用、単節縄文			24
196	ⅡB25	Ⅲ層下 円盤型土製品	土器底部使用			24
197	旧沢南側水酸化鉄層下	土偶	右手、スプーン状			24
198	旧沢南側水酸化鉄層下	土偶	胴部及び右手、文様なし、スプーン状			24

第5表 土製品観察表

(3) 石器 (第33~40、写真図版25~28-1~54)

ⅠC5号土坑の埋土上位より27の石器が出土しているが、土坑内上位とその周辺(同グリット内)では20・31・32のような石器及び未製品の剥片が大小合わせて10数個出土している。これらは、土坑検出時に出土したものであり、ほとんどの石器群の取り上げが終了した時点でⅠC5号土坑が検出された。最初この土坑がこの石器群の保管場所的要素を持っているのかとも考えられたが、実際土坑を掘り上げると埋土上面の1点を除きそれ以外の出土はなく、37cm強の深さの土坑にわざわざ保管したような様子は見られなかった。またその周辺では石器が作られたあのようなチップ類はなかった。

全体的に小型の石器が多く、磨石などの拳大以上の石器は大変少ない。石斧についても小型の磨製石斧の数が目立っており、大型の製品がなぜ少ないのか疑問の残るところである。

図版	仮番	出土地点・層位	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	備考
01	44	ⅡB05ベルト断面Ⅲ層	石 鏃	2.5	1.6	0.25	0.72	粘板岩	写真図版 25
02	02	ⅠC8号P 埋土下部	石 鏃	*1.3	1.4	0.2	0.59	赤褐色凝灰岩	25
03	03	西側T(旧沢)酸化鉄層	石 鏃	2.3	1.2	0.35	0.85	チャート	25
04	05	ⅠC20 Ⅳ層	石 鏃	2.7	1.5	0.3	1.1	珪質泥岩	25
05	04	ⅡB20 Ⅲ層酸化鉄層	石 鏃	2.65	0.9	0.4	1.09	チャート	25
06	45	ⅡB20 酸化鉄層	石 鏃	2.7	0.9	0.60	1.20	チャート質粘板岩	25
07	01	ⅡB20 酸化鉄層下	石 鏃	3.8	1.5	0.45	3.06	チャート質粘板岩	25
08	46	ⅡC6号P 最下部	石 鏃	4.2	1.0	0.45	2.02	珪質泥岩	25
09	49	ⅡC16号P 最下部	石 鏃	6.8	3.4	1.85	39.85	粘板岩	25
10	48	ⅡB20旧沢跡	石 匙	6.1	3.2	0.50	13.39	珪質泥岩	25
11	06	ⅠC5号P付近検出面	石 匙	3.2	5.1	0.65	13.15	チャート質細粒凝灰岩	25
12	08	ⅠC10 Ⅲ~Ⅳ層	搔器?	2.6	2.2	0.8	4.56	珪質泥岩	25
13	07	ⅡB20 Ⅲ層下	搔器	2.0	3.6	0.55	4.79	チャート質粘板岩	25
14	11	ⅡB25 Ⅲ層下	搔器	3.8	5.7	0.8	16.99	硬質泥岩	25

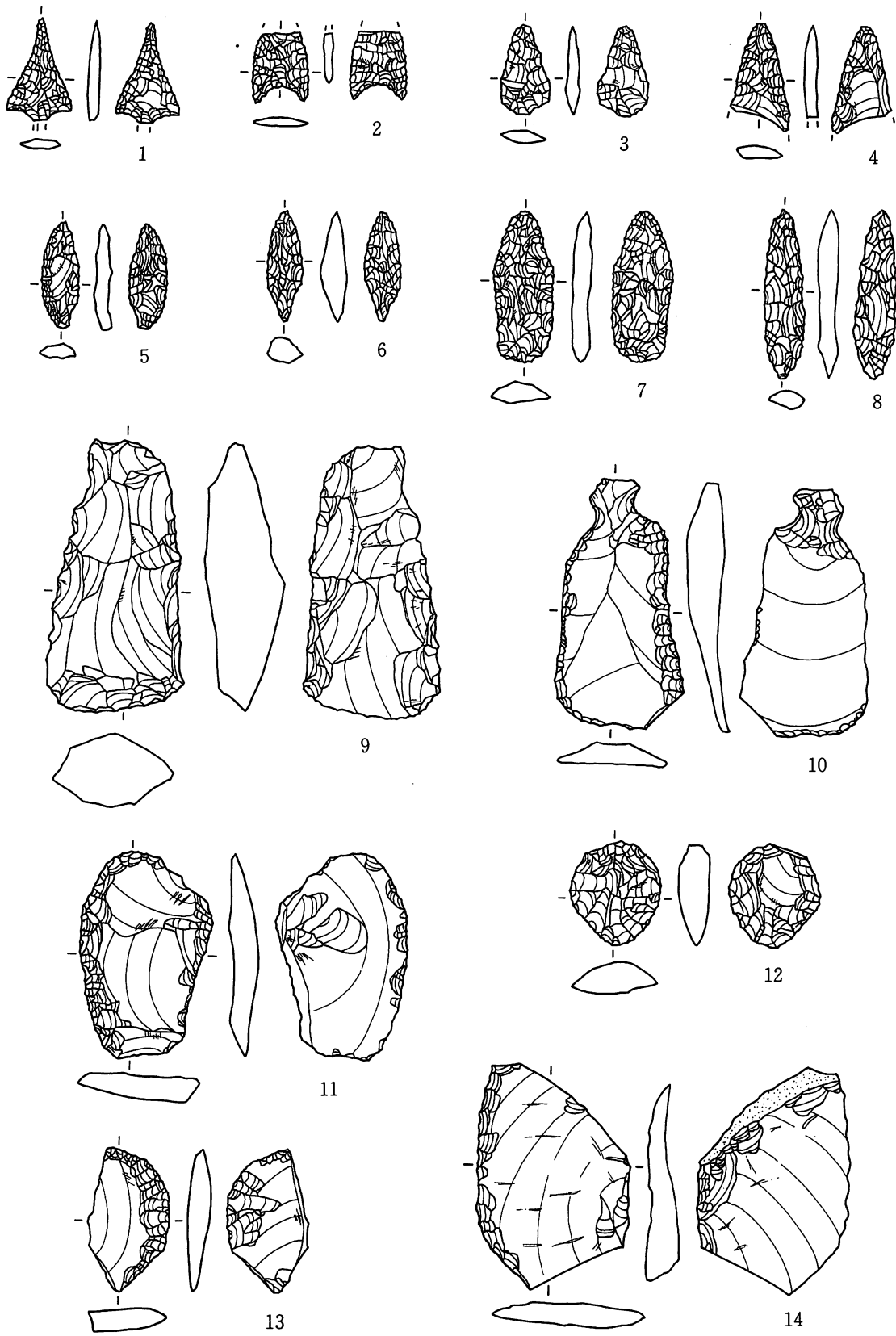
第6表 石器観察表(1)

図版	仮番	出土地点・層位	器種	長さ	幅	厚さ	重量	石質	備考
15	13	II B 0 5 Ⅲ層下	搔器	4.0	4.6	0.80	21.44	硬質泥岩	写真図版 25
16	18	I C 2 3 Ⅲ層	搔器	4.5	2.5	0.95	11.36	珪質泥岩	25
17	21	土捨て場	搔器	2.75	4.85	1.35	18.21	チャート質細粒凝灰岩	25
18	42	II B 1 9 Ⅲ層下	搔器	2.9	2.5	0.60	4.83	チャート	25
19	43	II B 2 0 Ⅲ層	搔器	2.8	2.9	0.90	6.66	チャート質粘板岩	25
20	52	I C 2 3 Ⅳ層	搔器	8.2	3.4	1.40	49.49	チャート	26
21	20	II B 2 0 酸化鉄層	その他	2.7	1.8	0.40	2.25	粘板岩	25
22	10	II B 2 4 Ⅲ層	不明	3.2	2.1	0.7	5.7	チャート	25
23	09	II B 2 5 (旧沢) Ⅲ層下	削器	3.3	5.4	1.3	21.3	チャート質粘板岩	26
24	12	II B 2 5 Ⅲ層	不明	1.7	5.0	1.10	10.25	粘板岩	26
25	41	II B 2 0 Ⅲ層	不明	4.0	2.9	0.90	14.06	粘板岩	25
26	14	II B 1 5 酸化鉄層下	削器	4.5	5.6	1.05	24.95	チャート質細粒凝灰岩	26
27	51	I C 5 号 P 上層	削器	3.1	4.0	1.10	14.29	チャート	26
28	16	II B 1 9 Ⅲ層	その他	3.3	3.5	1.00	16.24	赤褐色凝灰岩	26
29	103	I C 2 3 Ⅲ層	剥片	3.7	4.1	1.10	16.69	チャート	26
30	17	II C 1 0 Ⅲ層	剥片	6.7	2.5	0.60	12.99	珪質泥岩	26
31	109	I C 2 3 Ⅲ層	剥片	5.8	5.4	1.40	48.35	チャート	26
32	15	I C 2 3 Ⅲ層	剥片	7.8	3.8	1.20	29.49	チャート	26
33	19	I C 2 3 Ⅲ層	その他	5.7	5.1	0.80	36.69	珪質泥岩	26
34	36	西側 T 中央北	磨製石斧	*3.6	3.0	2.10	31.29	安山岩	27
35	26	I C 1 3 号 P Ⅲ～Ⅳ層	磨製石斧	3.9	2.5	0.50	7.24	凝灰岩	27
36	22	II B 2 0 Ⅲ層下	磨製石斧	*3.4	1.5	0.60	5.73	凝灰岩	27
37	25	I C 2 5 Ⅳ層上面	磨製石斧	*3.9	2.5	0.80	13.75	凝灰岩	27
38	24	I C 2 号 P Ⅱ層	磨製石斧	5.0	1.6	0.60	6.60	凝灰岩	27
39	23	II B 2 5 Ⅲ層下	磨製石斧	*4.4	1.7	0.60	6.70	凝灰岩	27
40	27	II C 0 5 Ⅲ層	磨製石斧	*5.0	2.8	1.10	23.89	凝灰岩	27
41	29	旧沢跡南側	磨製石斧	*6.0	3.4	*1.50	46.35	安山岩	27
42	32	II B 1 5 Ⅲ層下～Ⅳ層	磨製石斧	*6.5	*4.0	2.70	99.00	安山岩	27
43	47	旧沢(西側 T 中央) 黒色土	磨製石斧	6.3	2.2	0.85	17.68	凝灰岩	27
44	30	I C 2 1 Ⅳ層上面	磨製石斧	*4.5	4.2	1.70	39.99	凝灰岩	27
45	31	II B 2 0 Ⅲ層	磨製石斧	*8.0	*4.5	*2.40	165.00	粘板岩	27
46	33	II C 0 9 Ⅳ層	磨製石斧	11.2	5.4	2.10	225.00	凝灰岩	27
47	34	II B 2 0 酸化鉄層	磨製石斧	*7.0	4.7	2.40	130.00	安山岩質凝灰岩	27
48	35	II C 0 5 Ⅲ～Ⅳ層	磨製石斧	*8.2	4.6	2.30	125.00	凝灰岩	27
49	37	II B 2 5 黒色土	打製石斧	*7.1	*4.8	*3.70	241.00	安山岩質凝灰岩	27
50	28	西側 T 南	打製石斧	8.4	3.1	1.10	39.99	凝灰岩	27
51	38	II B 2 0 酸化鉄層	敲石?	8.9	6.9	5.10	458.00	安山岩	27
52	39	I C 1 4 号 P 埋土	磨石?	6.5	3.5	2.90	100.00	安山岩	28
53	53	I C 4 号 P 最下層	台石?	*10.4	12.4	6.90	1.37kg		28
54	40	西側 T 中央	石皿	*17.0	*6.1	2.70	391.00	デイサイト	28
54	50	II B 2 0	—	—	—	—	—	No, 40と接合	28

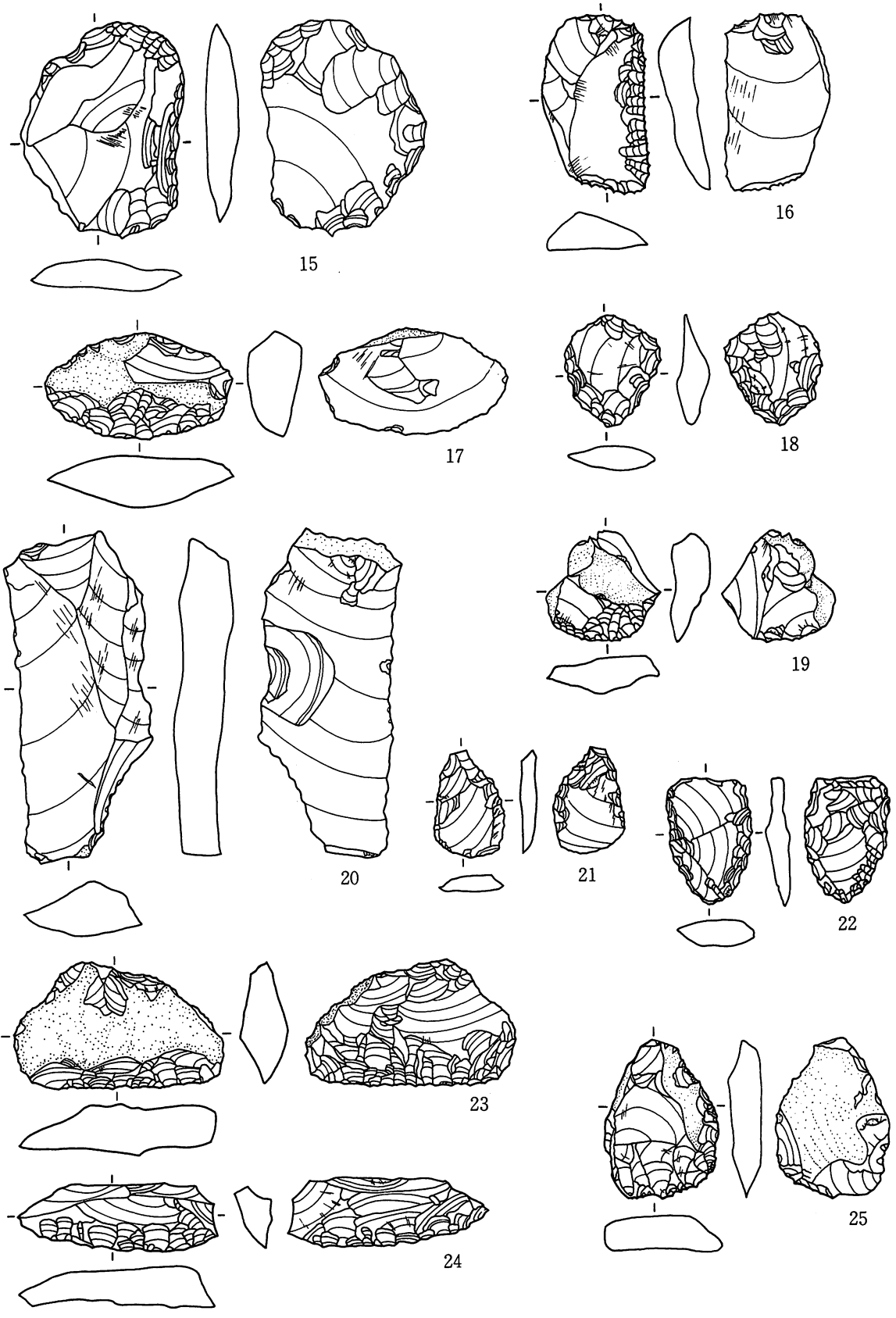
※単位 = cm、g

*欠損部有り

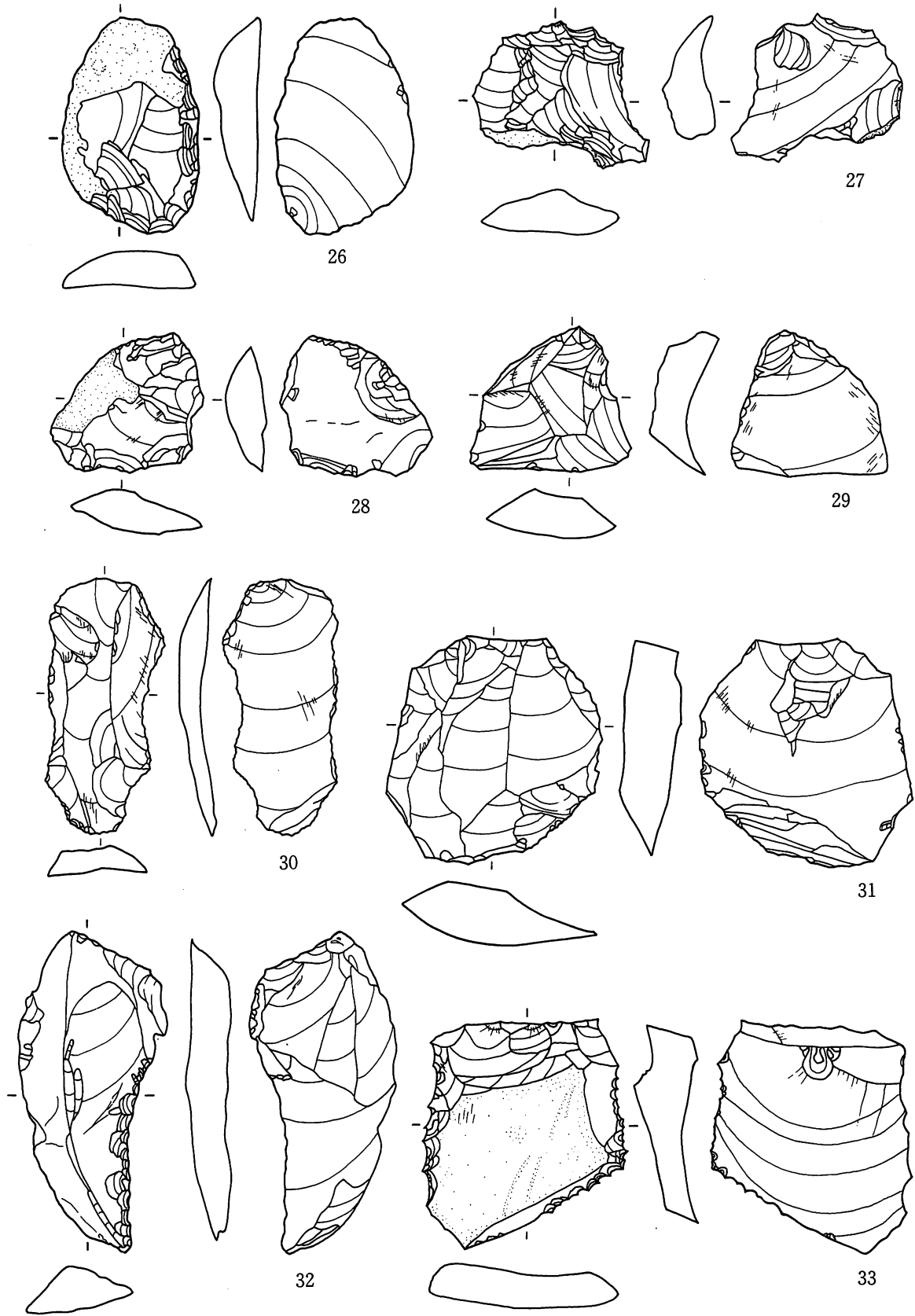
第6表 石器観察表(2)



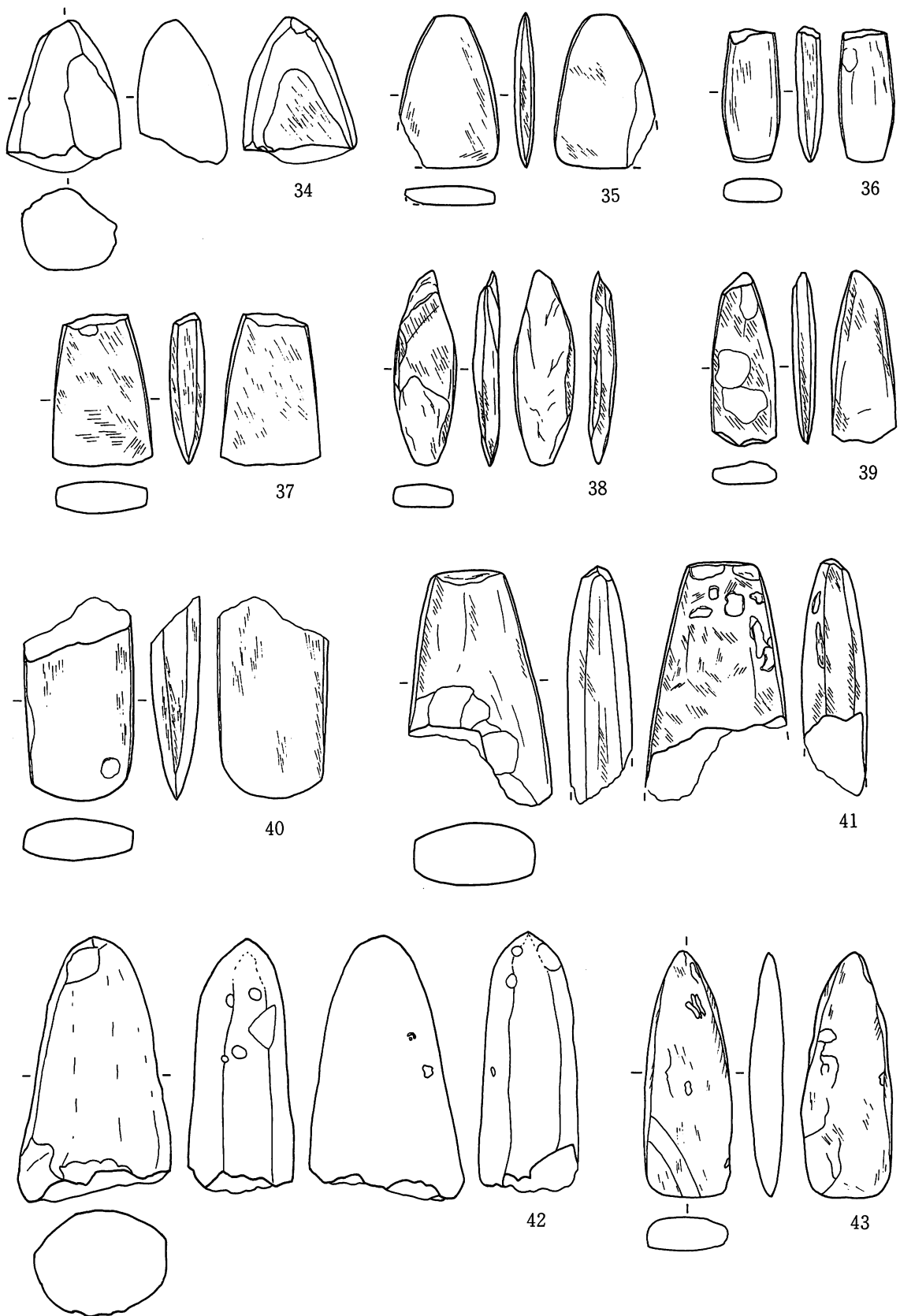
第33图 石器(1)



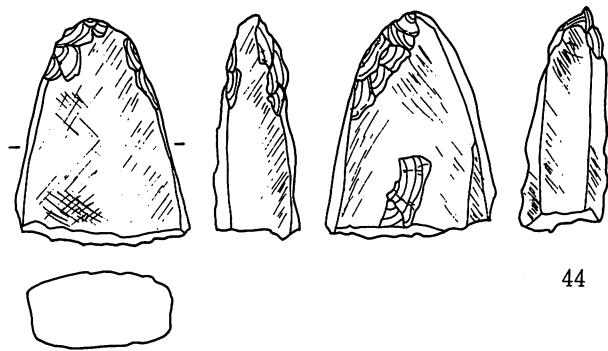
第34图 石器(2)



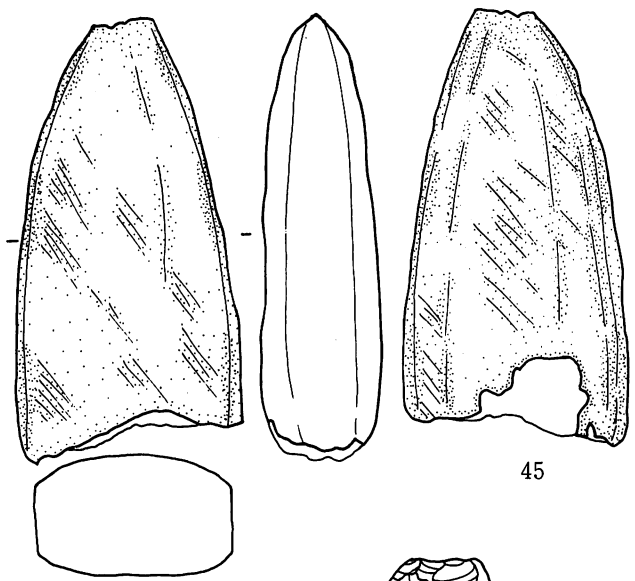
第35图 石器(3)



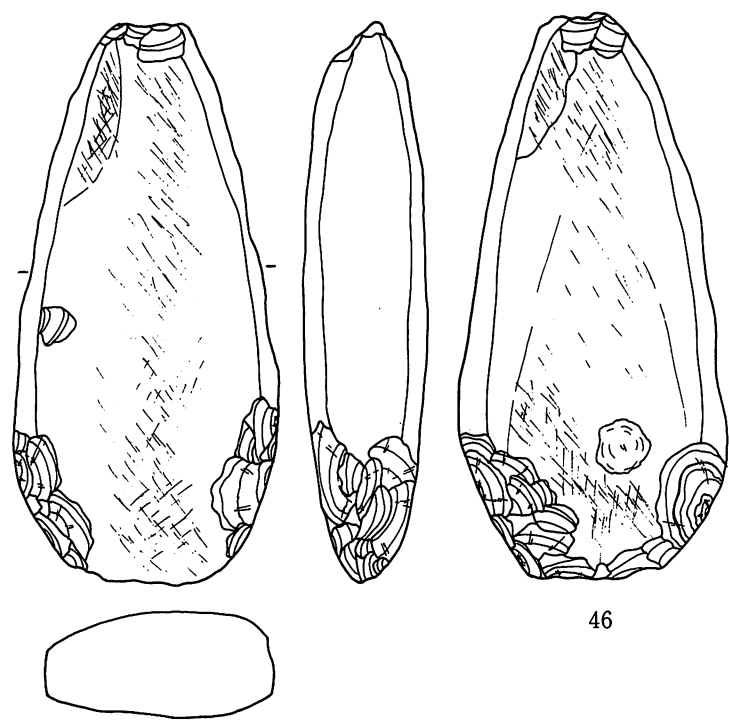
第36图 石器(4)



44

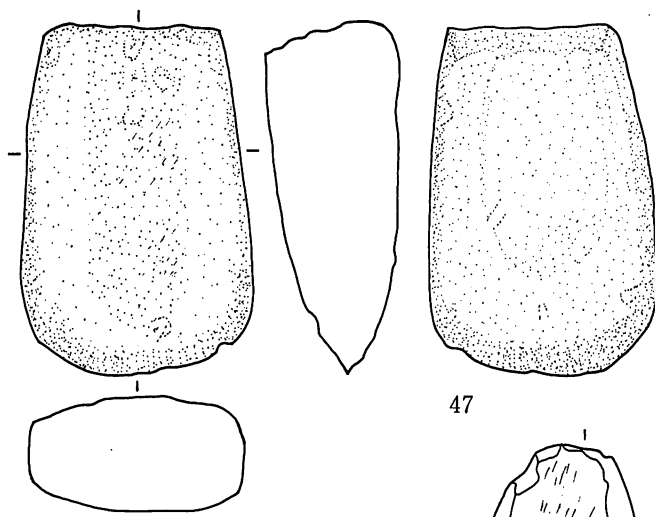


45

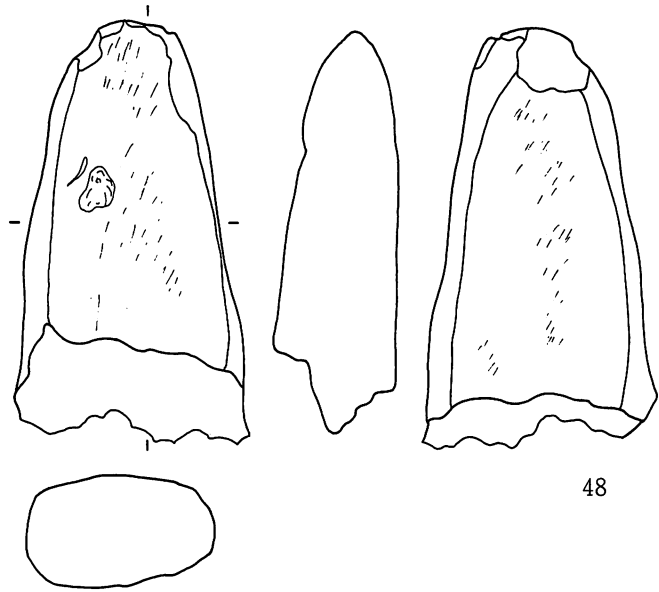


46

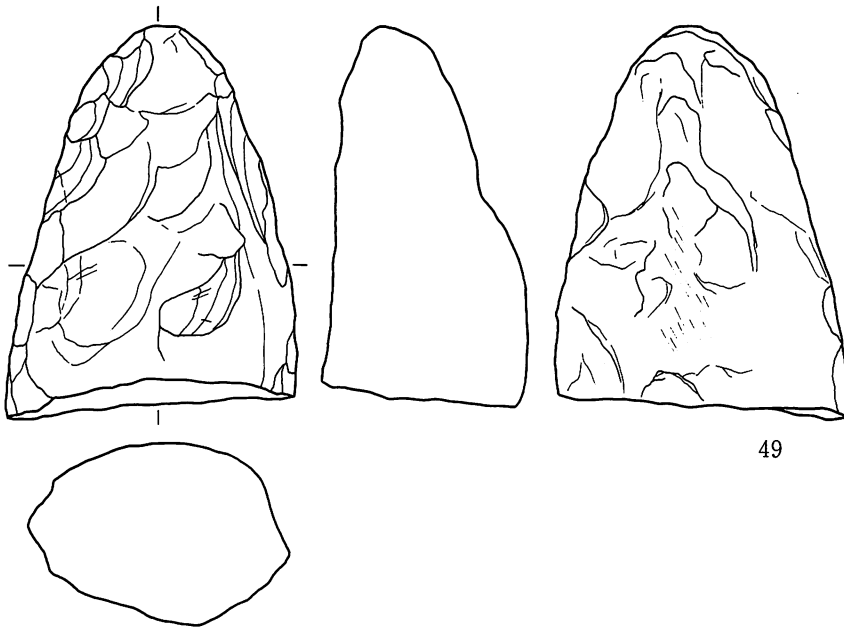
第37图 石器(5)



47

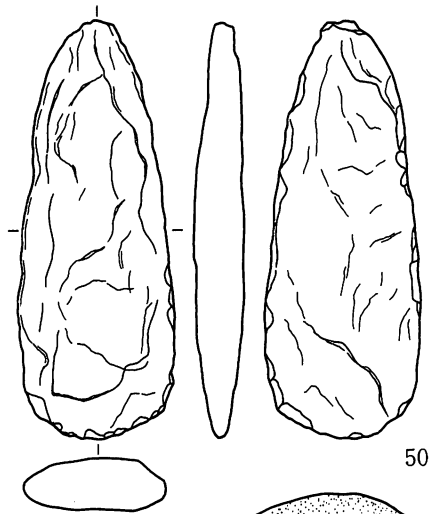


48

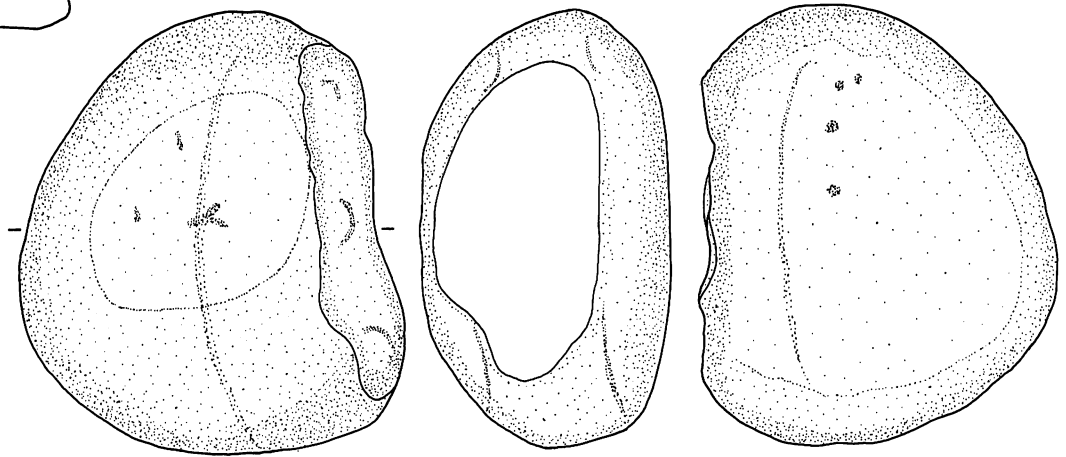


49

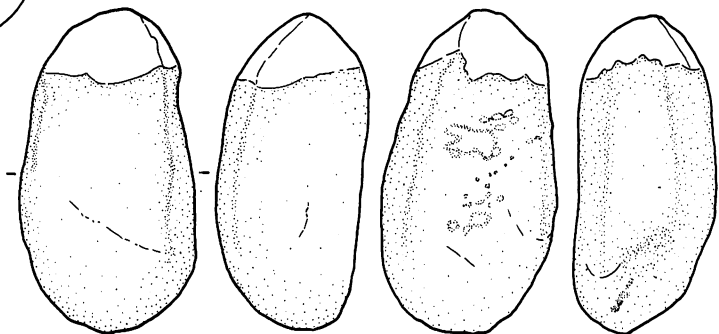
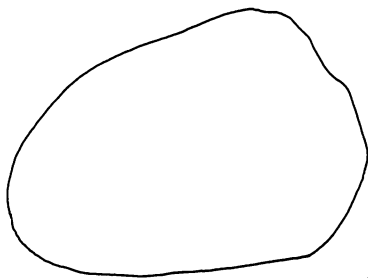
第38図 石器(6)



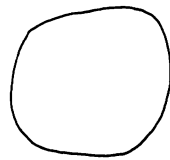
50



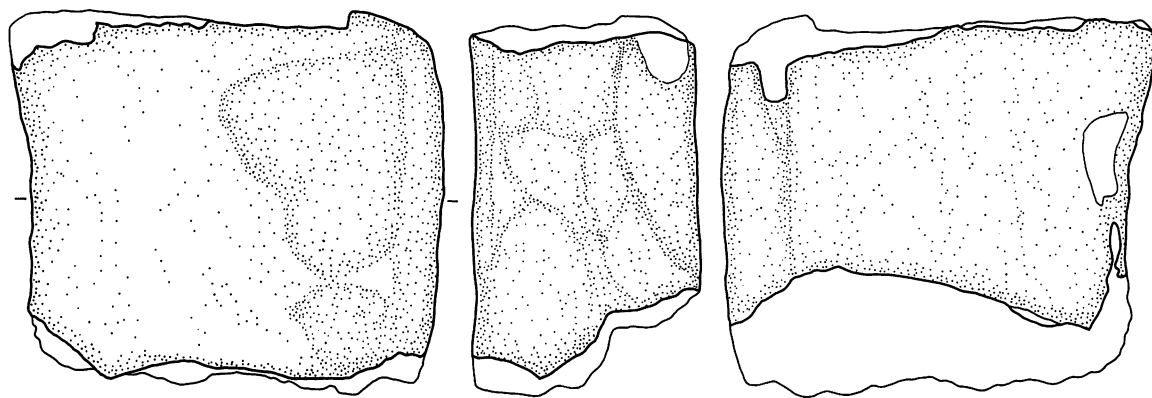
51



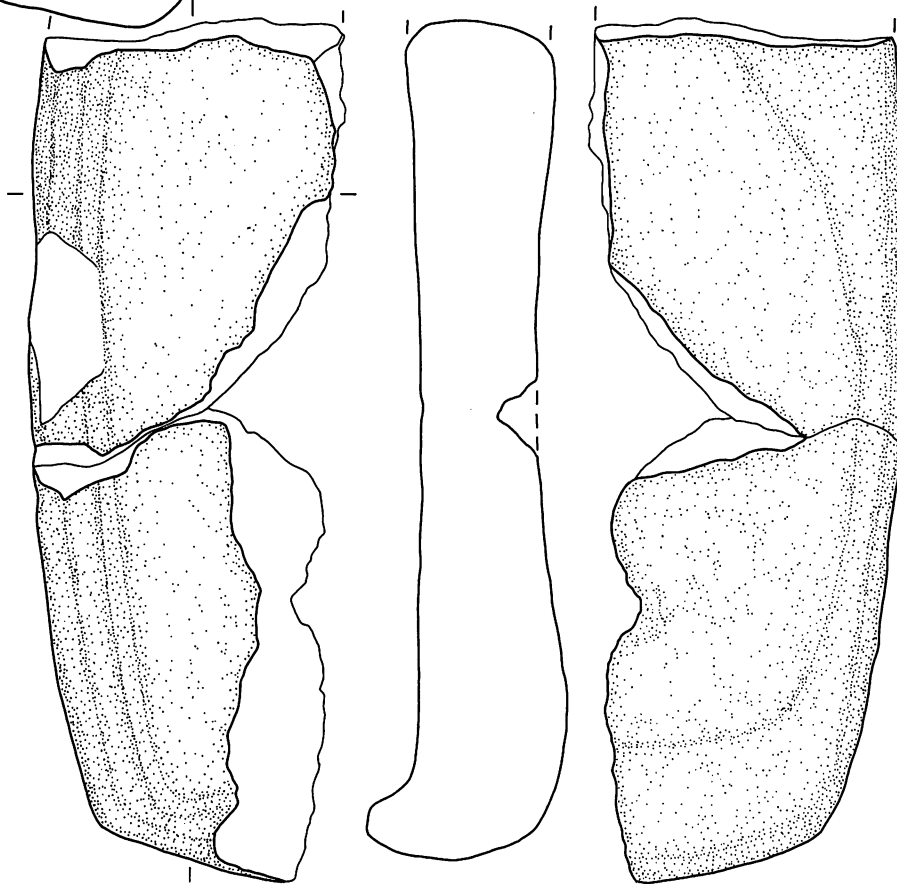
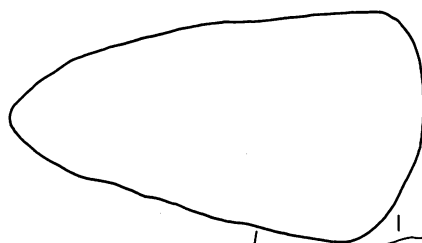
52



第39圖 石器(7)



53*



54



第40図 石器(8)

*S = $\frac{1}{4}$

V. まとめ

今回の調査区は、山間の谷部に位置しておりその中央部にある旧沢が長い間途絶えずに流れていた様子がよくわかる。検出された土坑群は、旧沢の東側からのみ検出されたが、地形からみると旧沢の西側にも官代沢に沿って緩斜面が続いており、今回の土坑の検出状況からみても同様に遺構が存在するであろうことは否めない。また調査区北側においても住居址が見つかる可能性は大きい。

遺跡は、遺物の出土状況からみても縄文時代後期の前葉が中心となっているのは事実であるが、遺構の重複しているものも多く、また焼土との位置関係からみても一時期のものではないと考えられる。土器の中には後期だけではなく、縄文時代中期、晩期の土器も出土しているが、全体の出土量や出土状況から言っても中期・晩期の遺構と判断するのは難しい。今回の土坑の埋土中から出土した遺物はその遺構に直接伴うものとは到底言えないが、埋土状況からみて人為的に埋められた様子が窺えることから、その遺物が関係する時期に土坑が埋められたと考えても良いのではないかと判断した。

土坑の形状の違いによる時期差については、断面形がビーカー型とフラスコ型とが、それぞれビーカー型同士、フラスコ型同士でも重複しており、埋土中からの出土土器についても特別分けることができないため、時期差はないようである。また土器の出土した土坑とそれ以外の土坑の検出された位置をみても特別な意味があるようには思われない。土坑の大きさは大小、深浅様々あるが、それによる土器の出土状況や位置関係も時期差はない。土坑の使用目的が明確にわかるような遺物はない。

旧沢については、中央部に大きな礫の集まりがある。その礫に挟まれるような状態で土器や石器の出土した形となった。Ⅱ B20グリット、Ⅱ B25グリット、Ⅱ B15グリットとがそれにあてはまる場所であるが、土偶の出土もその場所である。旧沢の中でもそこに数多くの土器があったのは、そこに当時の人間がそれらを捨てるか、自然にそこに集まったかのどちらかと思われるが、土器の出土状況からみて、時代ごとに土器が重なって出土してはいない。そうした場合自然にそこに土器が集まったということは以前に大規模な水の流れがあったということになる。それに伴って、土坑埋土からの出土の土器（上位～中位）と旧沢からの出土の土器とが接合したとしても不思議は全くない。土坑の中でもある程度人為的に埋められ後に自然に埋まったと思われるものもあるようである。

以上、今回の調査では土坑等の遺構の性格や時期差など明確にはできなかったが、今後周辺で発掘調査が行われた際に改めて本遺跡で検出された遺構、遺物について考えてみたい。

写真図版

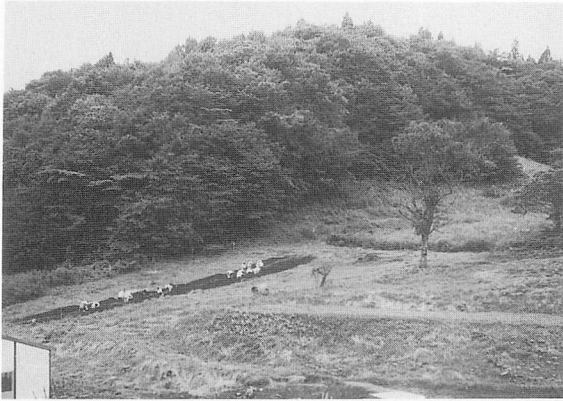


遺跡全景(遠景)

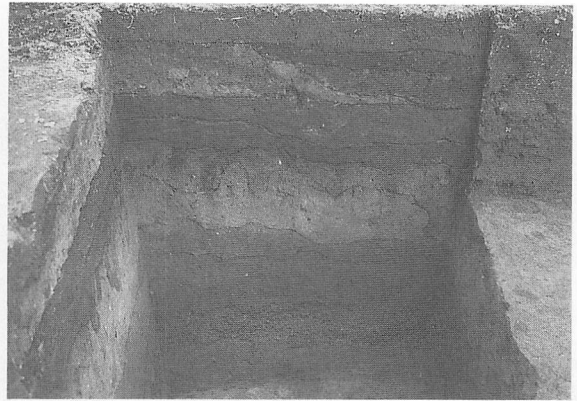


近景

写真図版1 遺跡全景



調査前風景



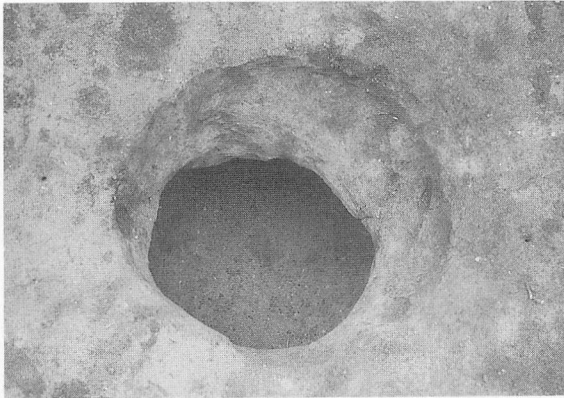
土層断面



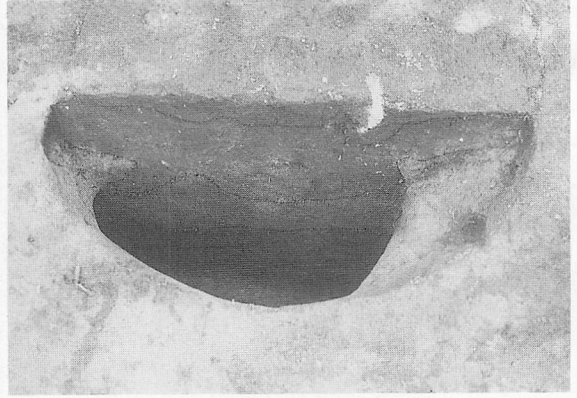
IC1号土坑完掘



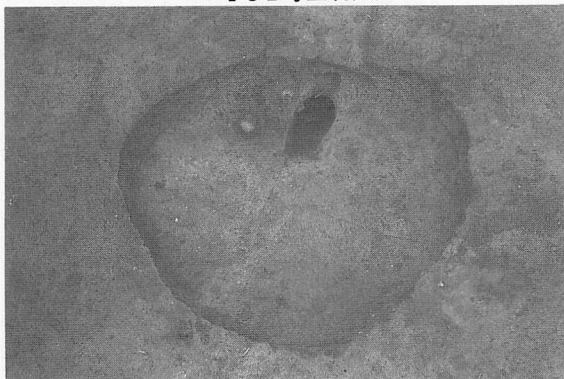
IC1号土坑断面



IC2号土坑完掘



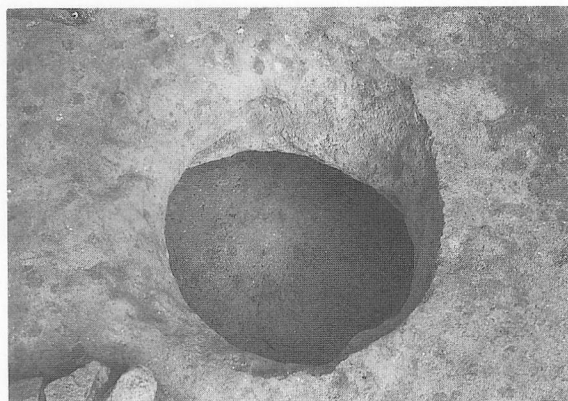
IC2号土坑断面



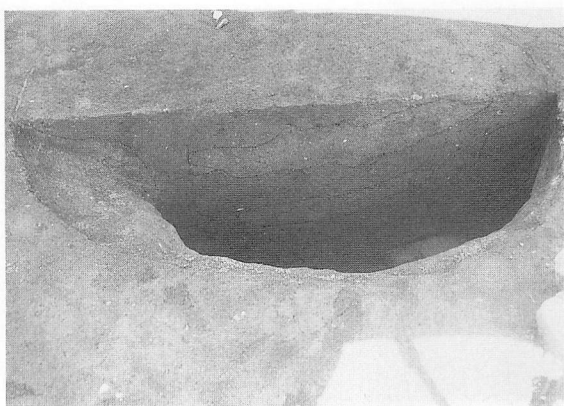
IC3号土坑完掘



IC3号土坑断面



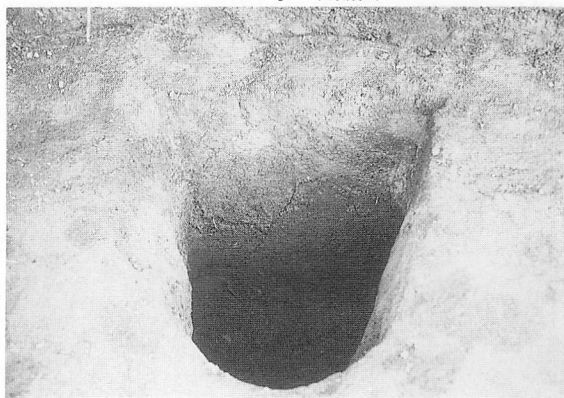
IC4号土坑完掘



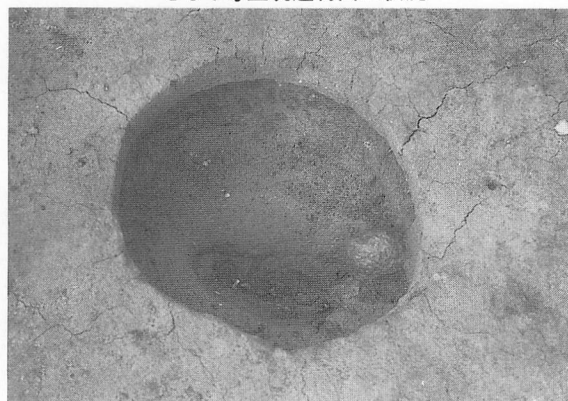
IC4号土坑断面



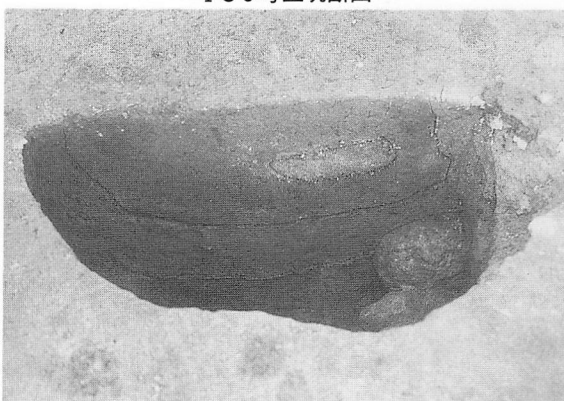
IC4号土坑遗物出土状况



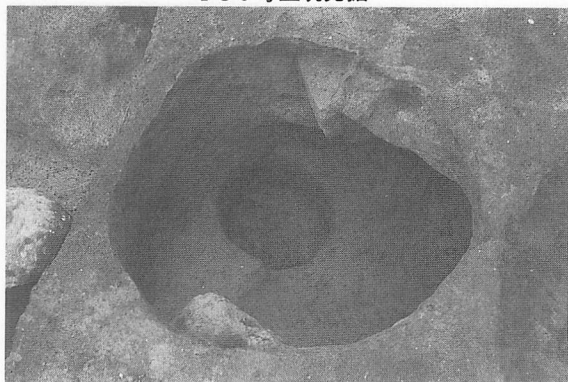
IC5号土坑断面



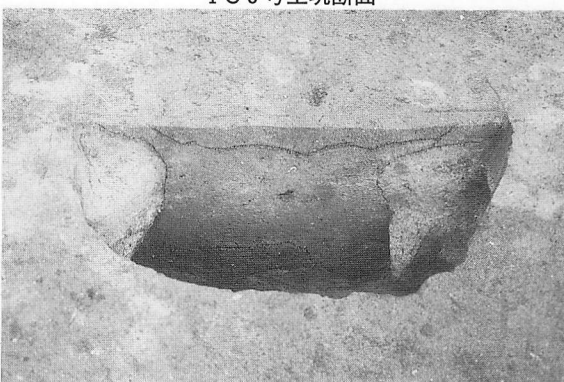
IC6号土坑完掘



IC6号土坑断面

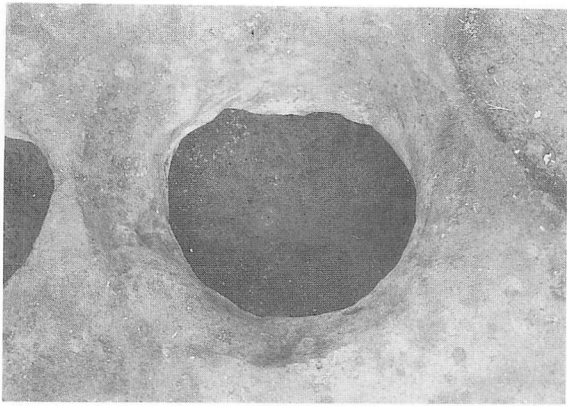


IC7号土坑完掘

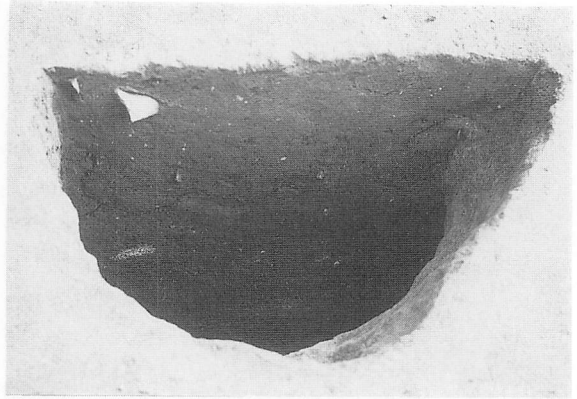


IC7号土坑断面

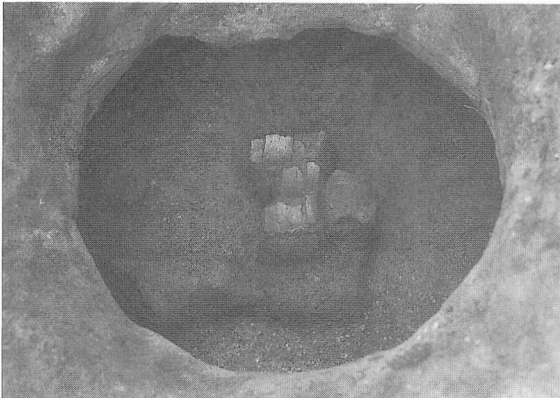
写真図版3 遺構(2)



IC8号土坑完掘



IC8号土坑断面



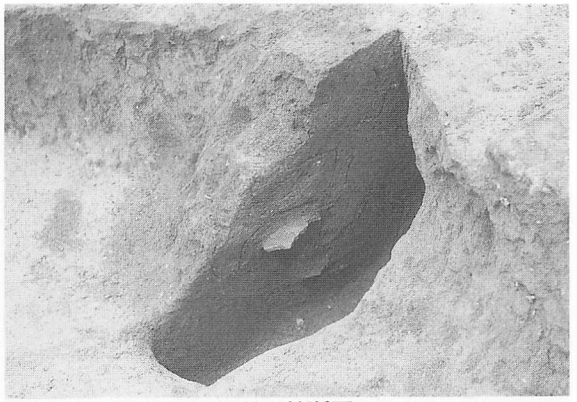
IC8号土坑遺物出土状况



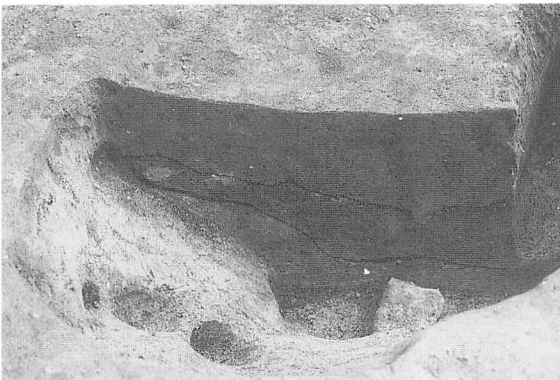
IC9号土坑完掘



IC10号土坑完掘



IC9号土坑断面

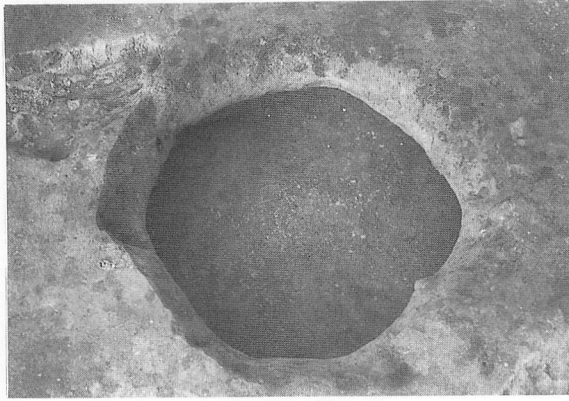


IC10号土坑断面

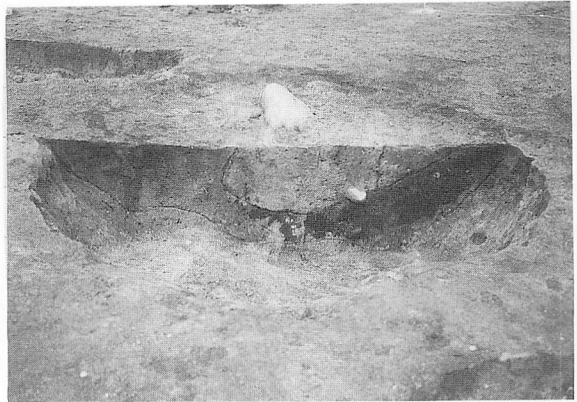


IC12号土坑断面

写真図版4 遺構(3)



I C11号土坑完掘



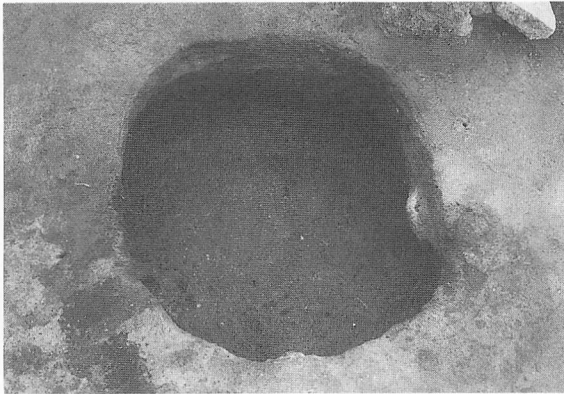
I C11号土坑断面



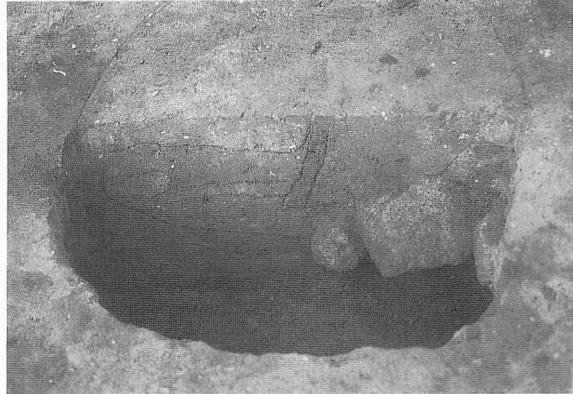
I C13号土坑完掘



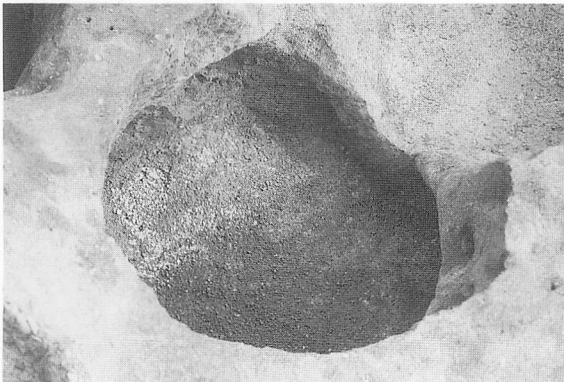
I C13号土坑断面



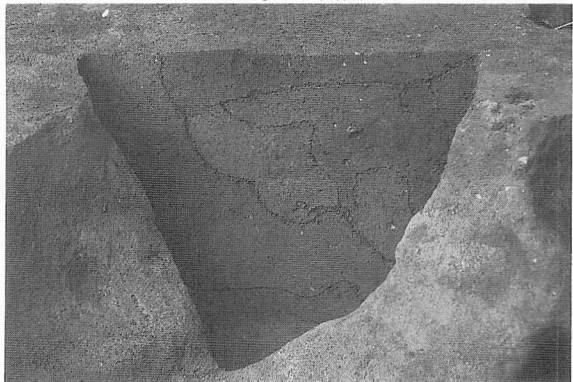
I C14号土坑完掘



I C14号土坑断面



I C15号土坑完掘

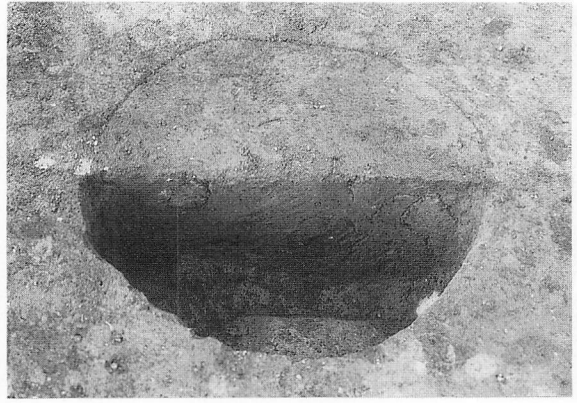


I C15号土坑断面

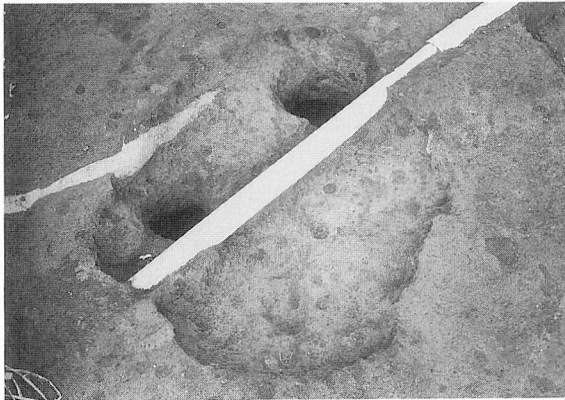
写真図版 5 遺構(4)



II B 1号土坑完掘



II B 1号土坑断面



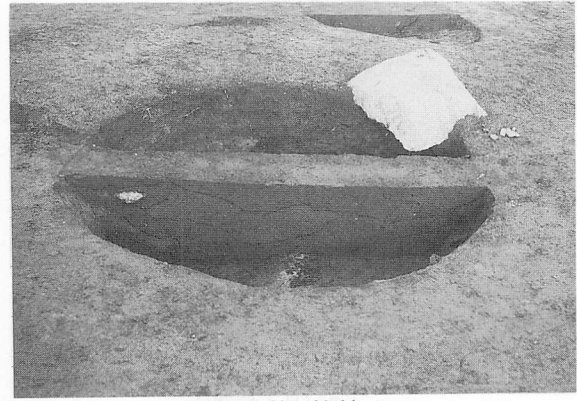
II C 1号土坑完掘



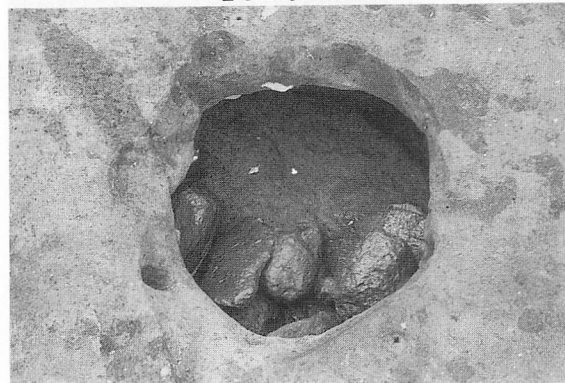
II C 1号土坑断面



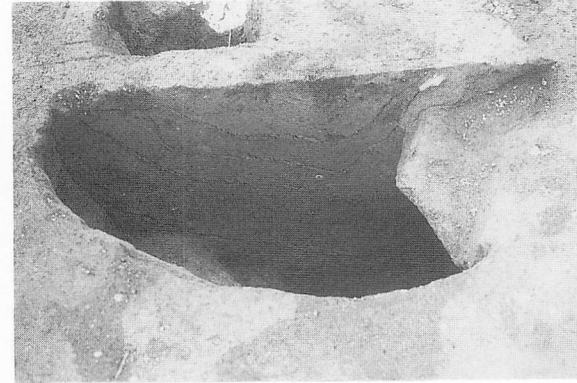
II C 2号土坑完掘



II C 2号土坑断面



II C 3号土坑完掘



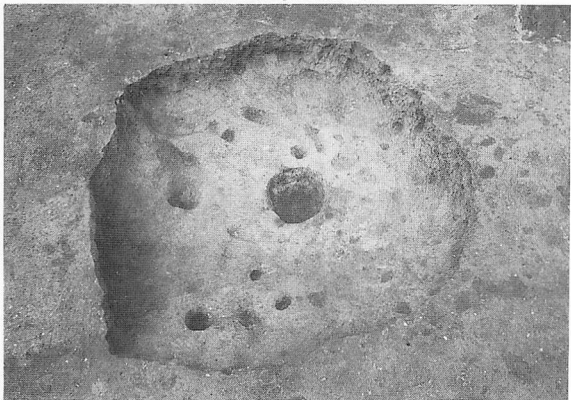
II C 3号土坑断面



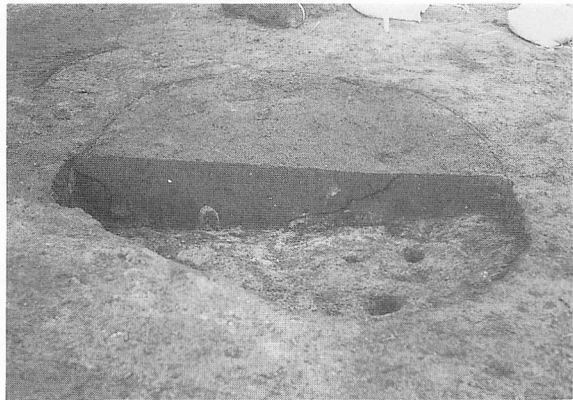
II C 4号土坑完掘



II C 4号土坑断面



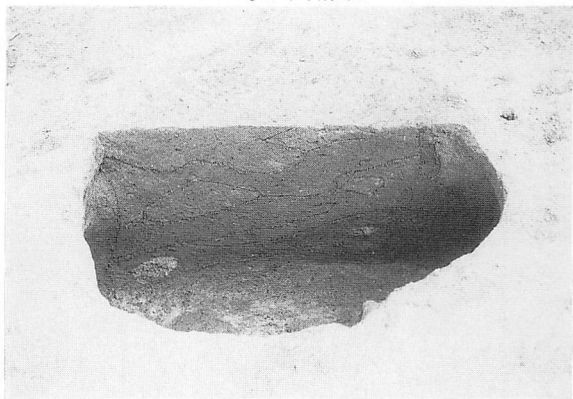
II C 5号土坑完掘



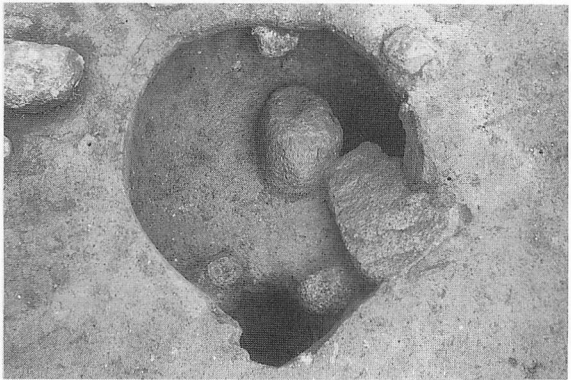
II C 5号土坑断面



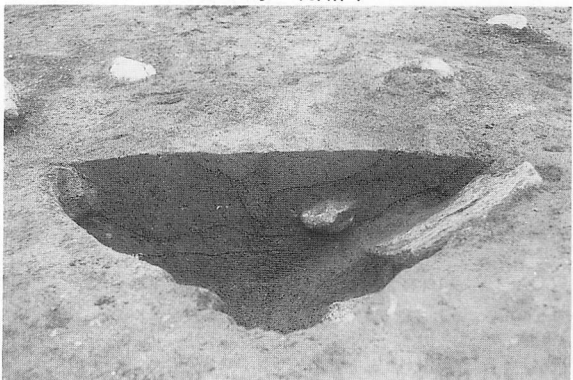
II C 6号土坑完掘



II C 6号土坑断面

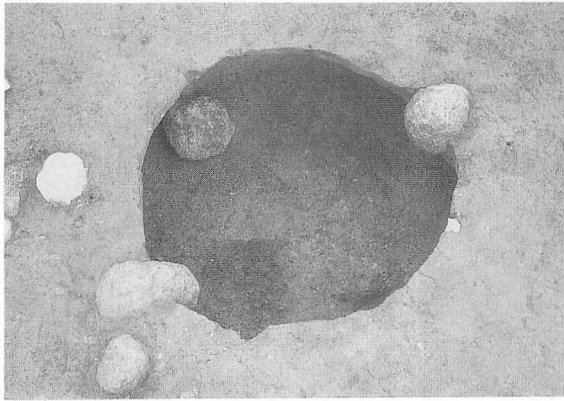


II C 7号土坑完掘

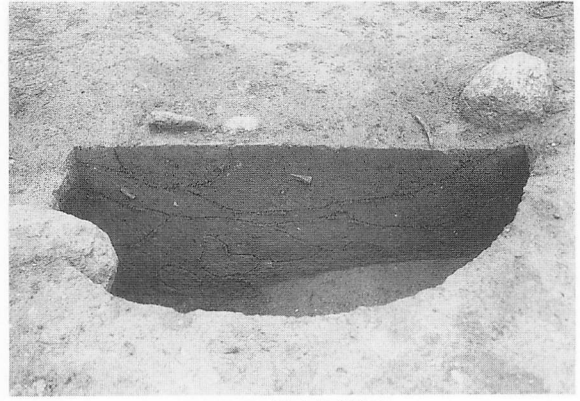


II C 7号土坑断面

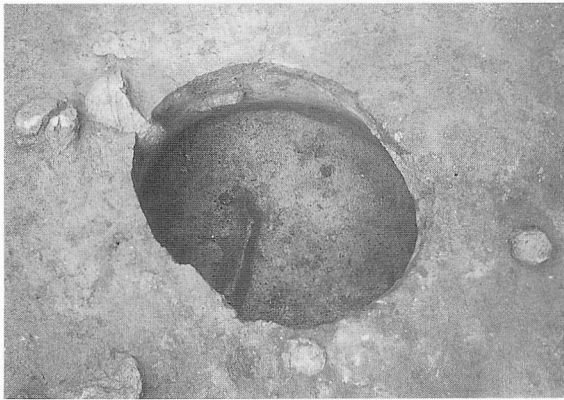
写真図版 7 遺構(6)



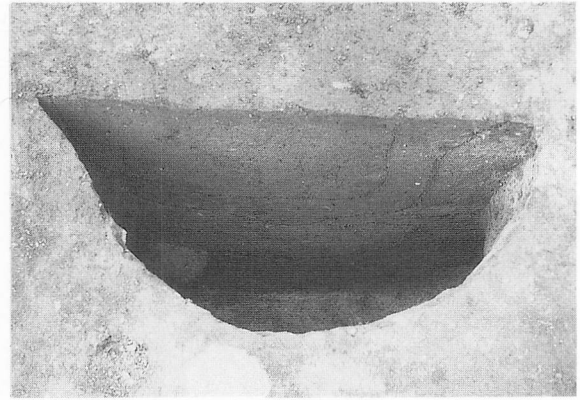
II C 8号土坑完掘



II C 8号土坑断面



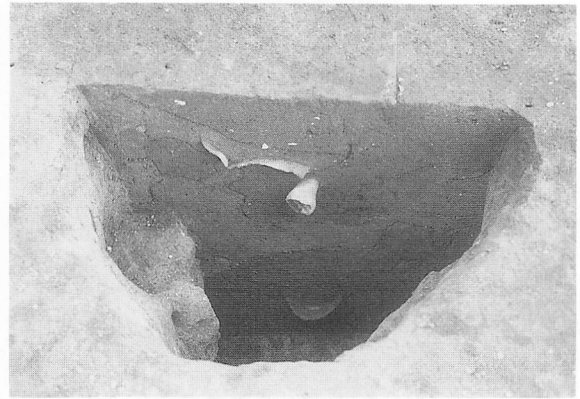
II C 9号土坑完掘



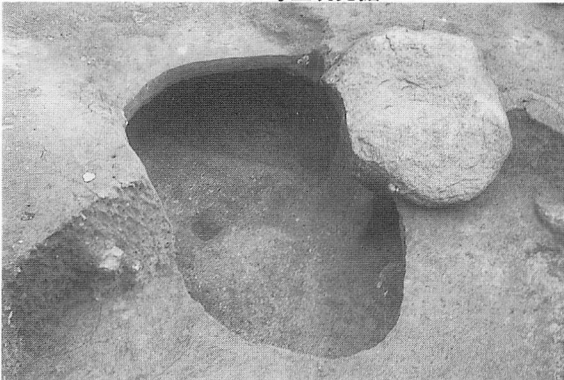
II C 9号土坑断面



II C 10号土坑完掘



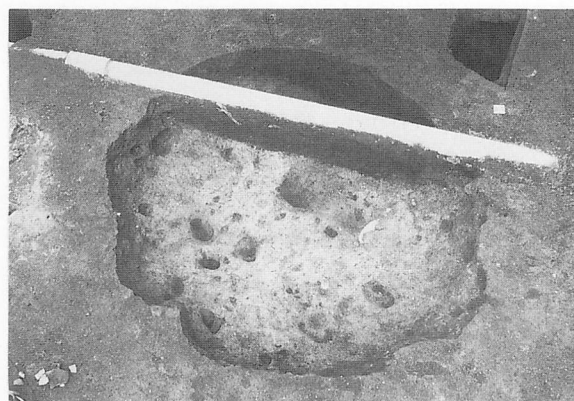
II C 10号土坑断面



II C 11号土坑完掘



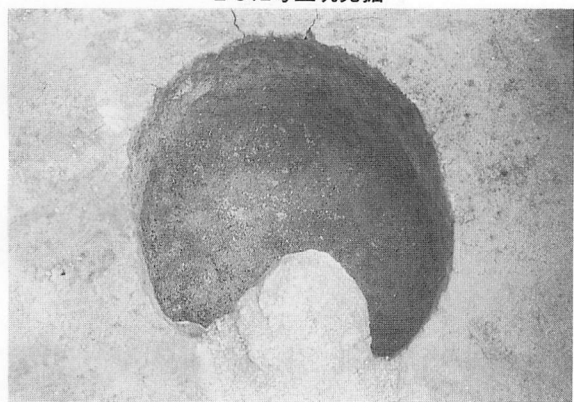
II C 11号土坑断面



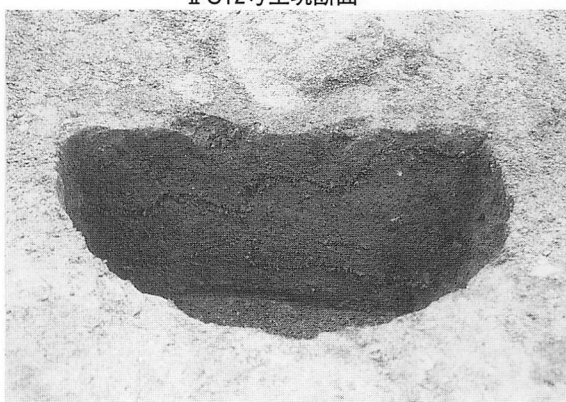
II C12号土坑完掘



II C12号土坑断面



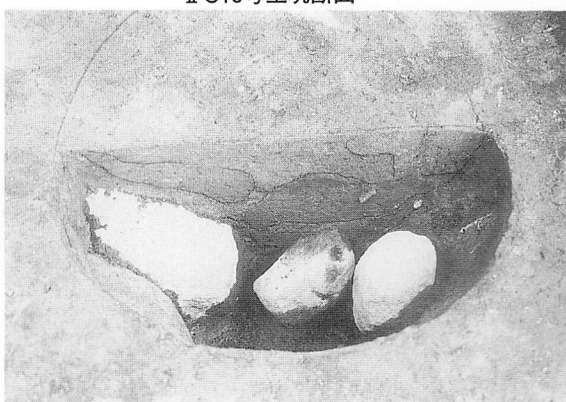
II C13号土坑完掘



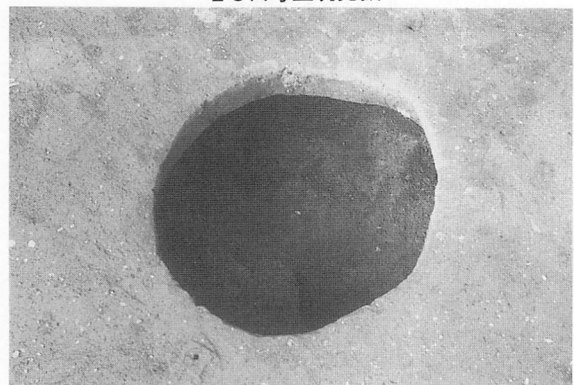
II C13号土坑断面



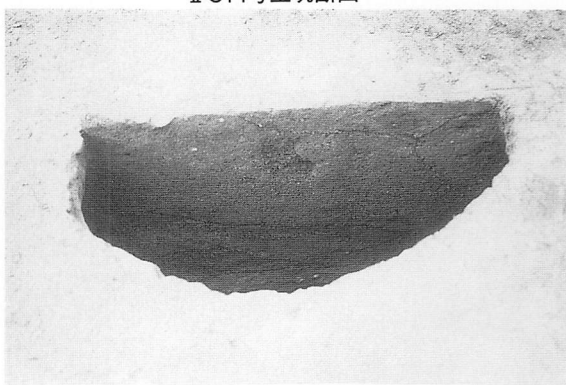
II C14号土坑完掘



II C14号土坑断面

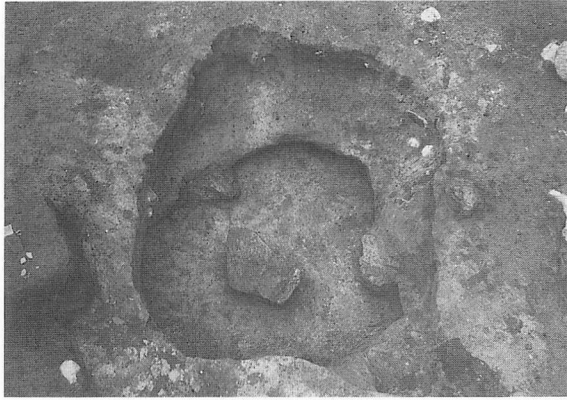


II C15号土坑完掘



II C15号土坑断面

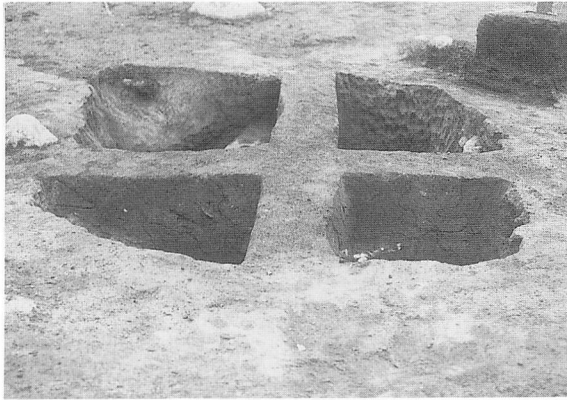
写真図版9 遺構(8)



II C16号土坑完掘



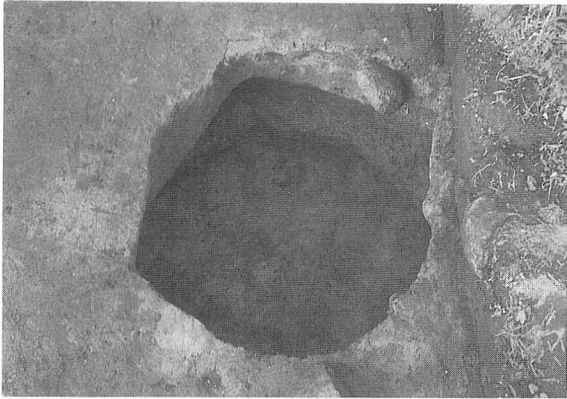
II C16号土坑断面



II C16号土坑断面



II C16号土坑遺物出土状況



II C17号土坑完掘



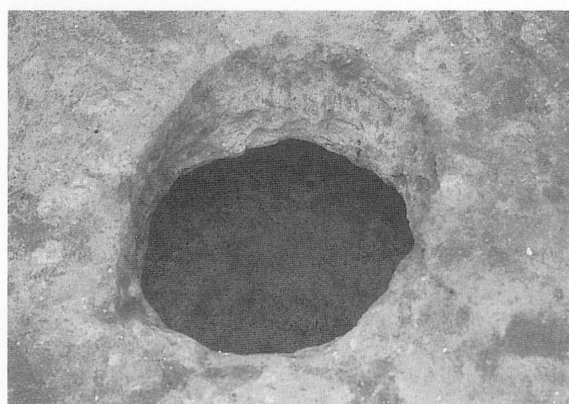
II C17号土坑断面



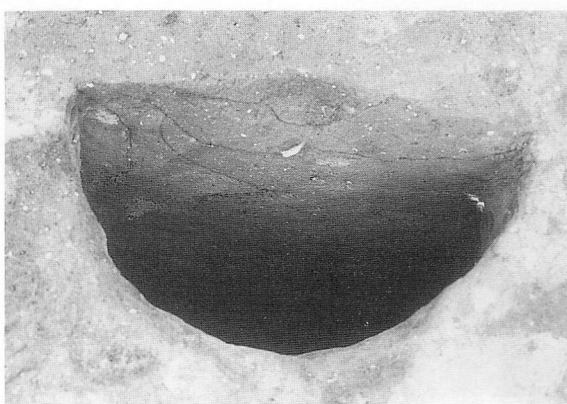
II C17号土坑内遺物出土状況



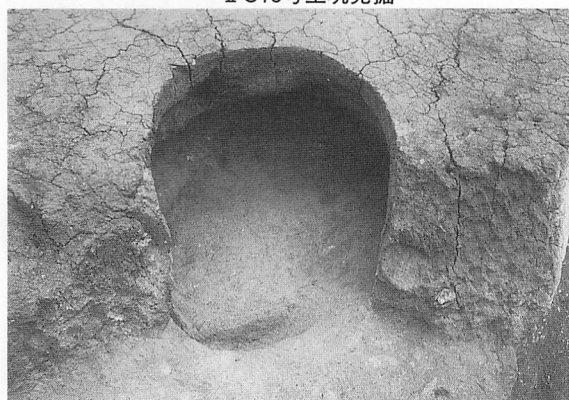
II B20号土偶出土状況



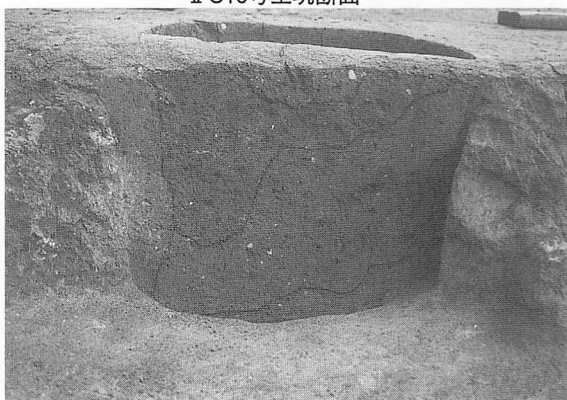
II C18号土坑完掘



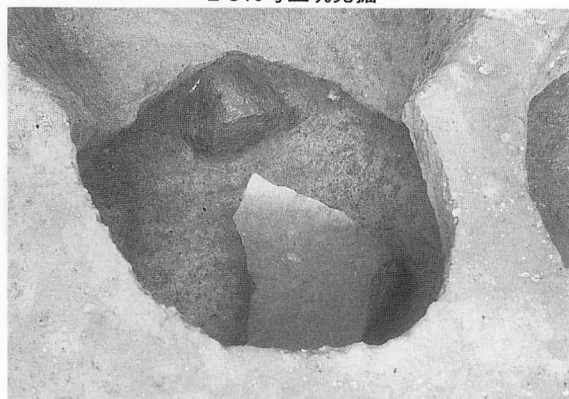
II C18号土坑断面



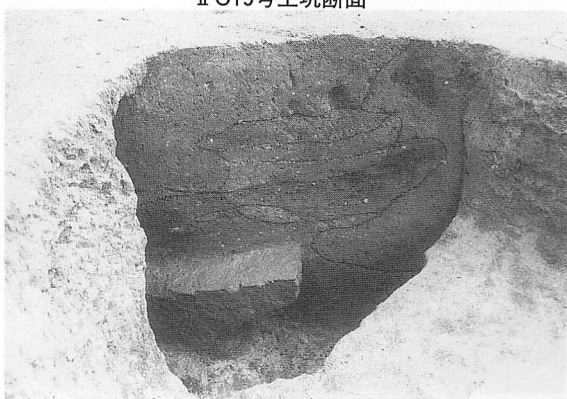
II C19号土坑完掘



II C19号土坑断面



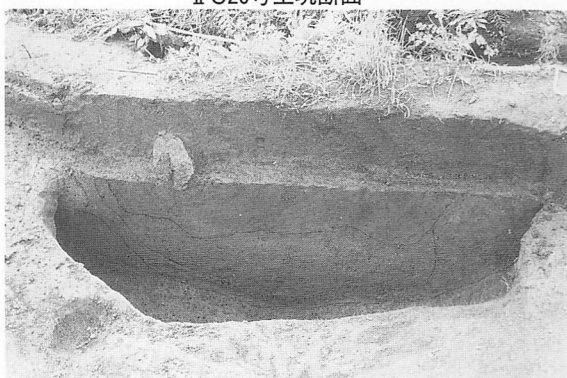
II C20号土坑完掘



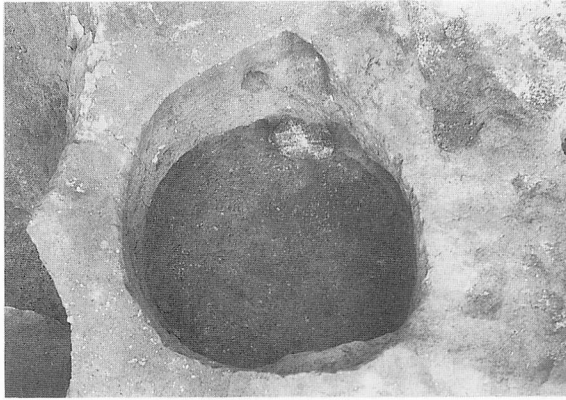
II C20号土坑断面



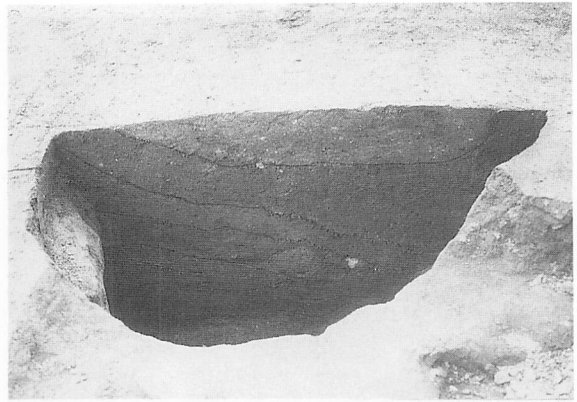
II C21号土坑完掘



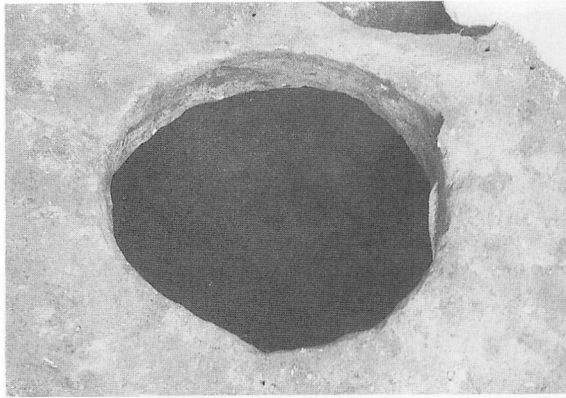
II C21号土坑断面



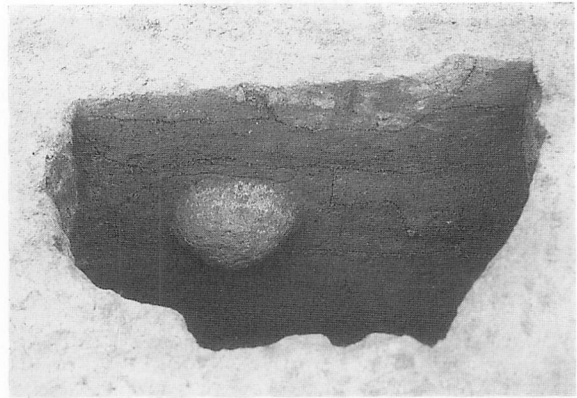
II C22号土坑完掘



II C22号土坑断面



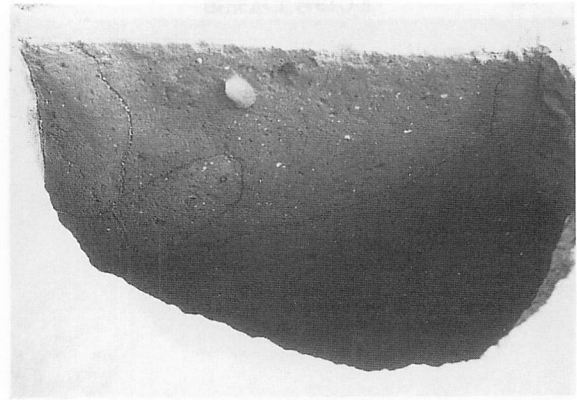
II C23号土坑完掘



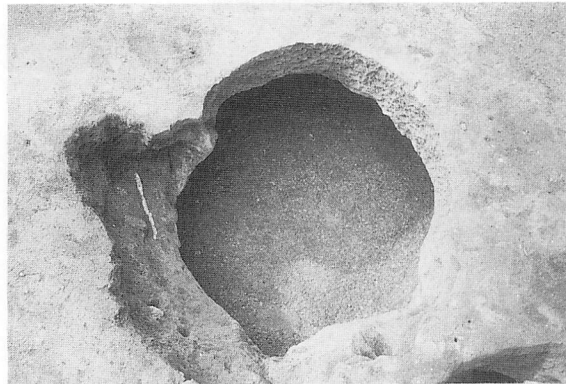
II C23号土坑断面



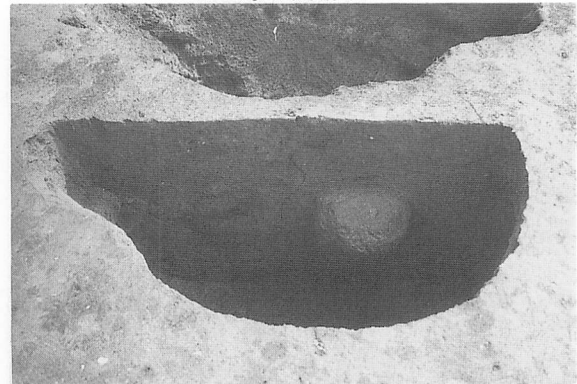
II C24号土坑完掘



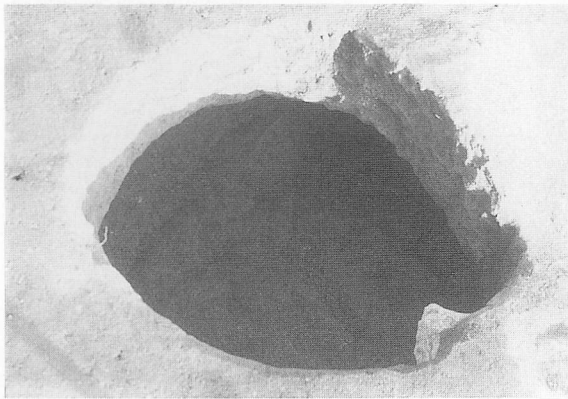
II C24号土坑断面



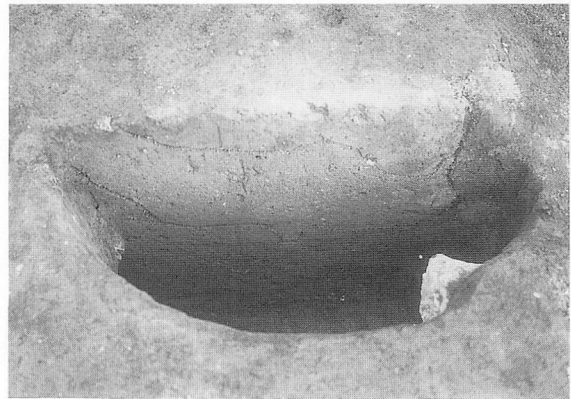
II C25号土坑完掘



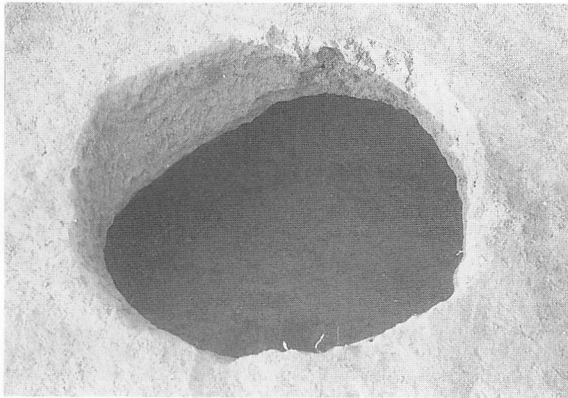
II C25号土坑断面



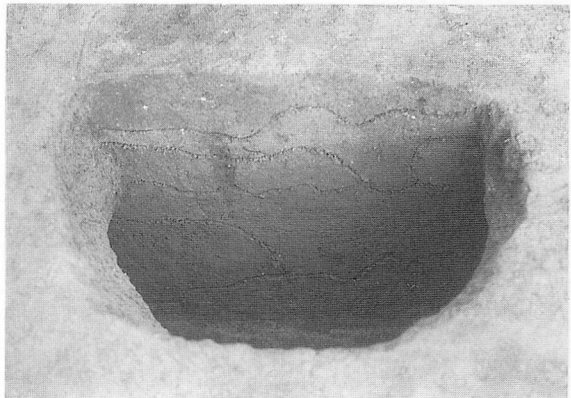
II C26号土坑完掘



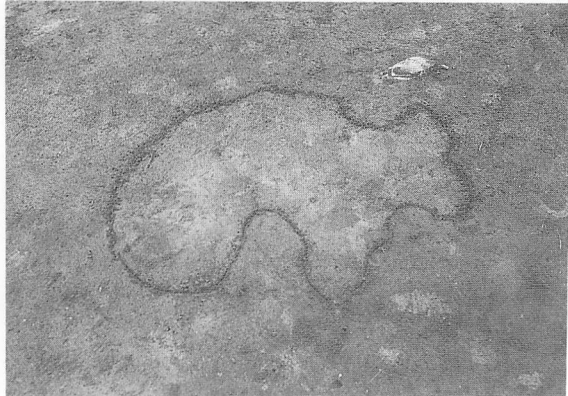
II C26号土坑断面



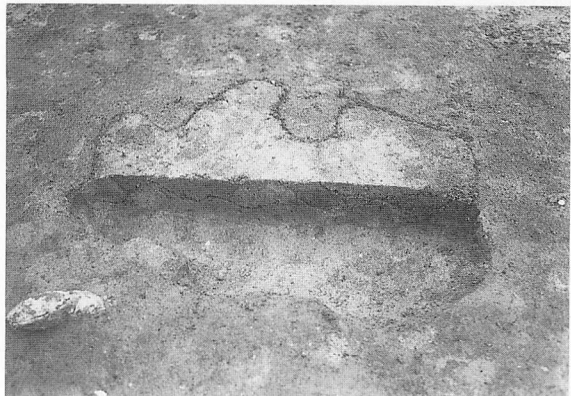
II C27号土坑完掘



II C27号土坑断面



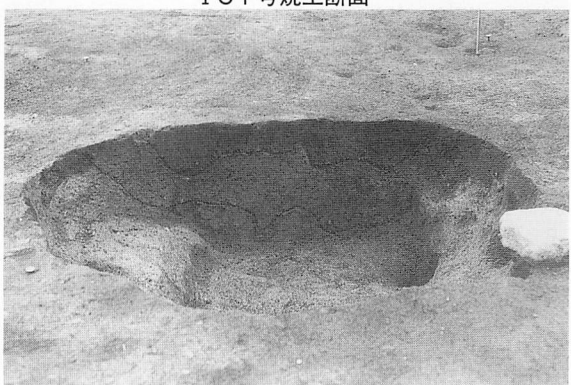
I C1号烧土检出状况



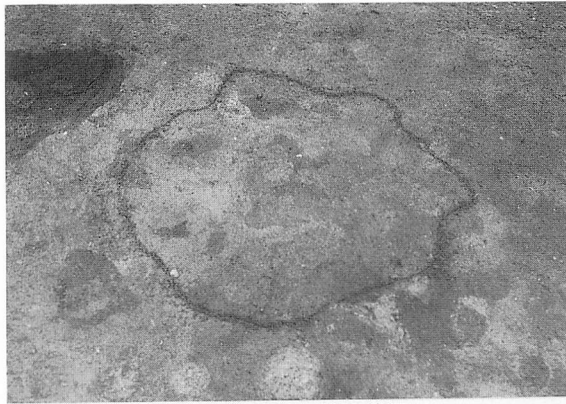
I C1号烧土断面



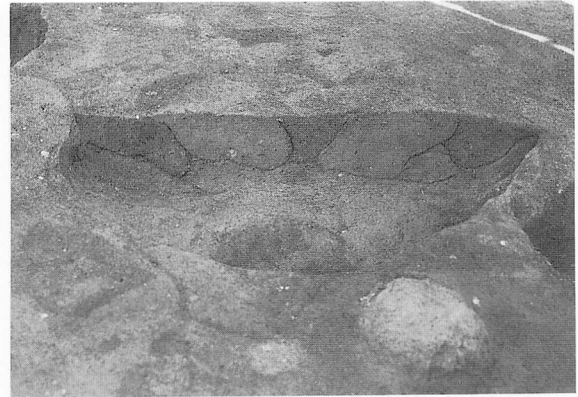
I C2号烧土检出状况



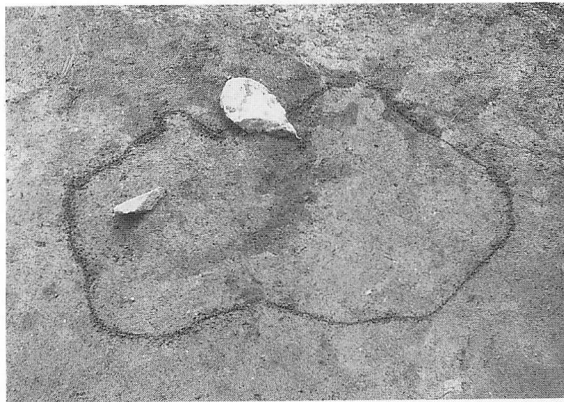
I C2号烧土断面



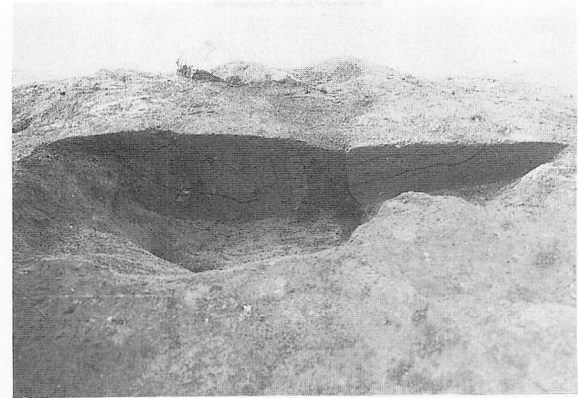
II C 1号烧土检出状况



II C 1号烧土断面



II C 2号烧土检出状况



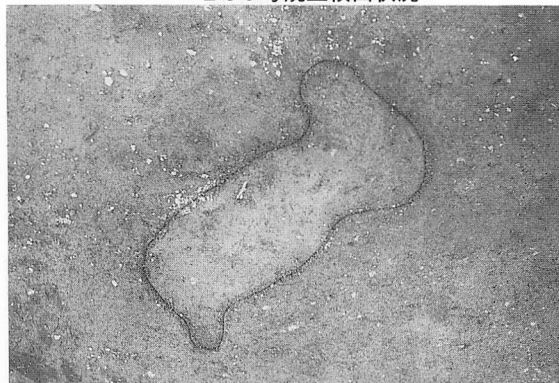
II C 2号烧土断面



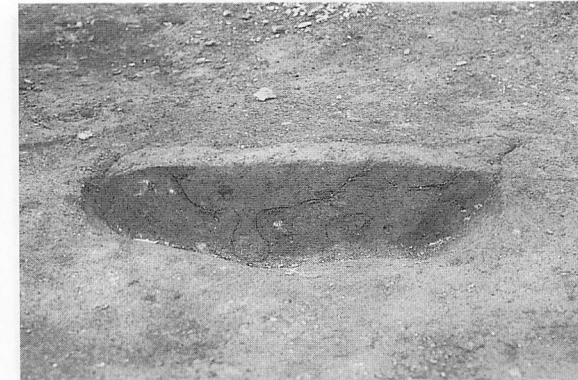
II C 3号烧土检出状况



II C 3号烧土断面



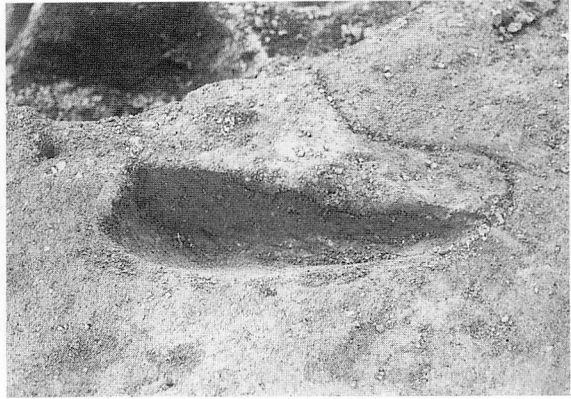
II C 4号烧土检出状况



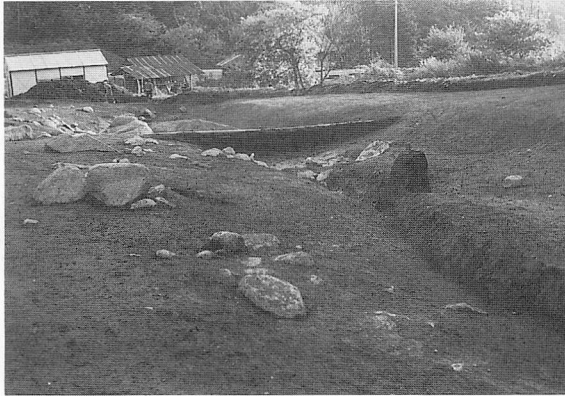
II C 4号烧土断面



II C 5号焼土検出状況



II C 5号焼土断面



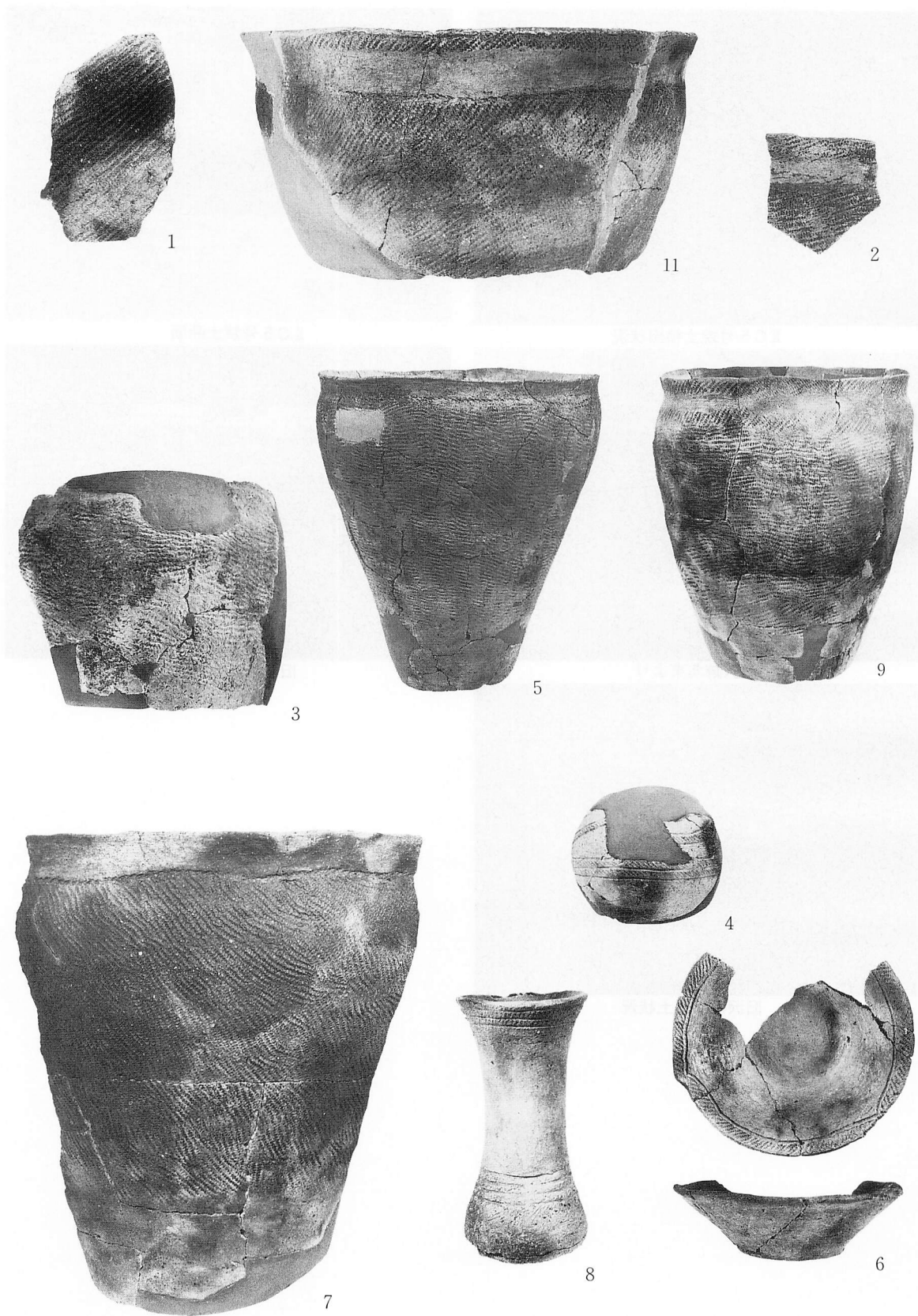
旧沢跡北東より



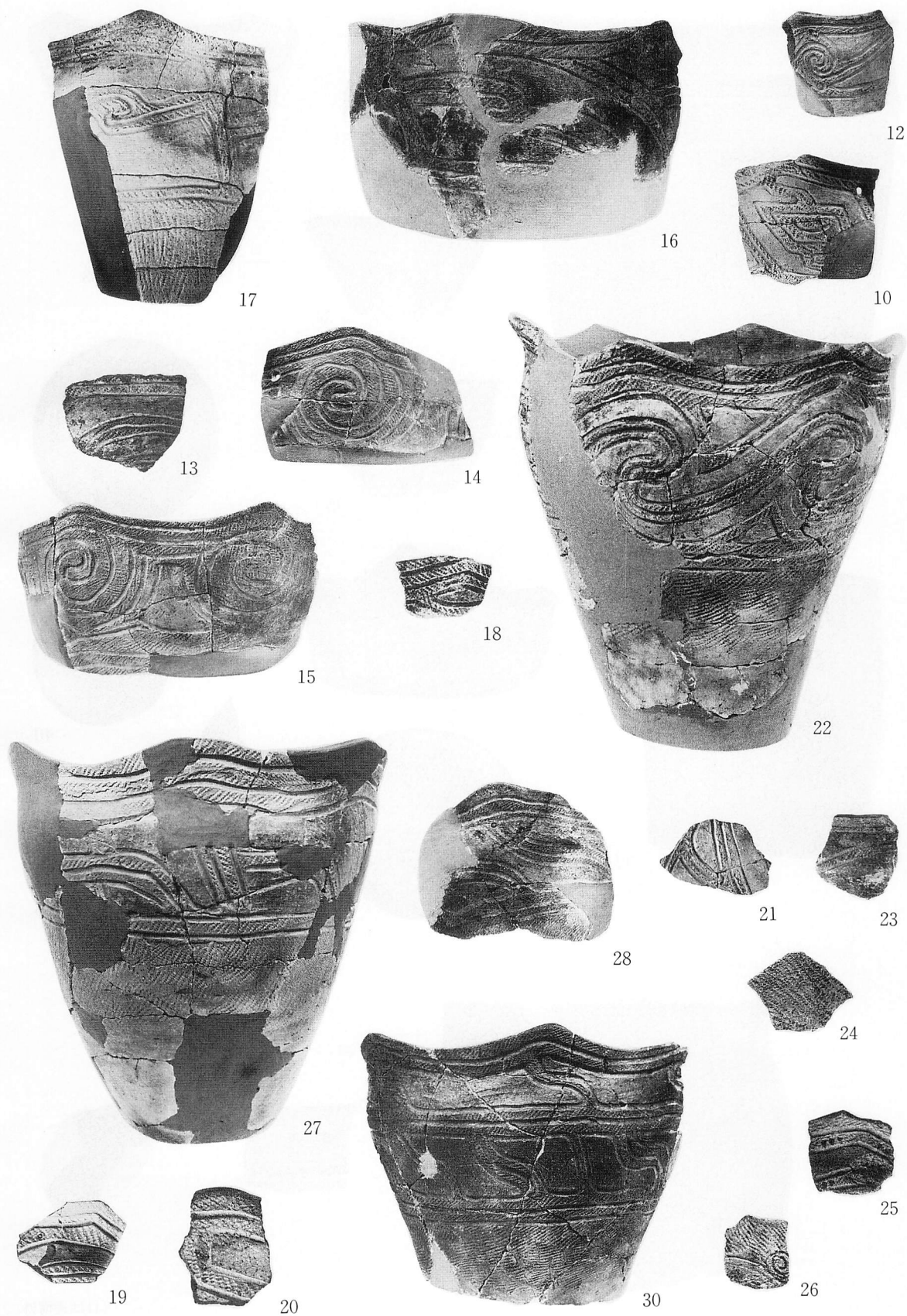
旧沢跡北西より



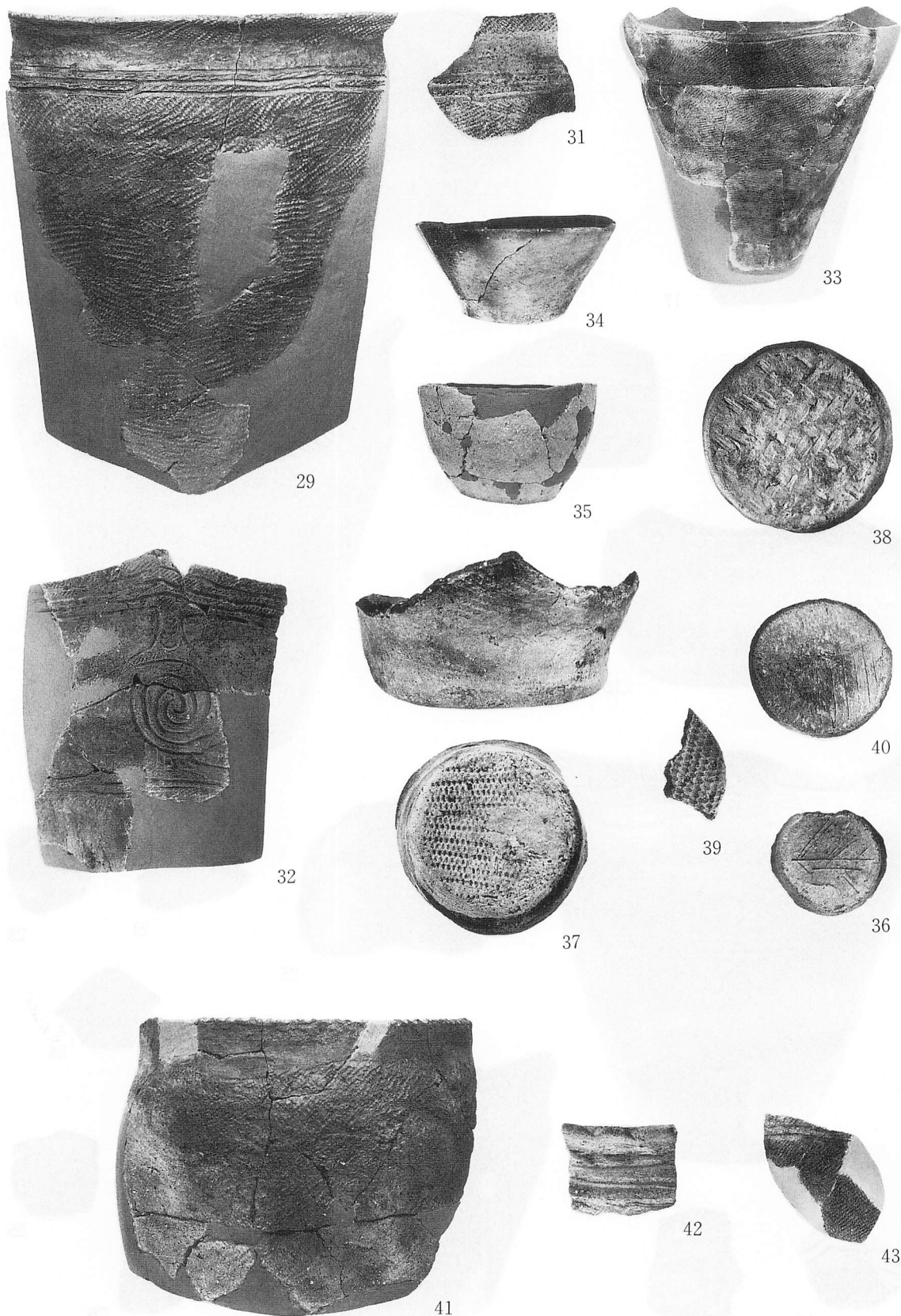
旧沢遺物出土状況



写真図版16 遺構内出土土器(1)

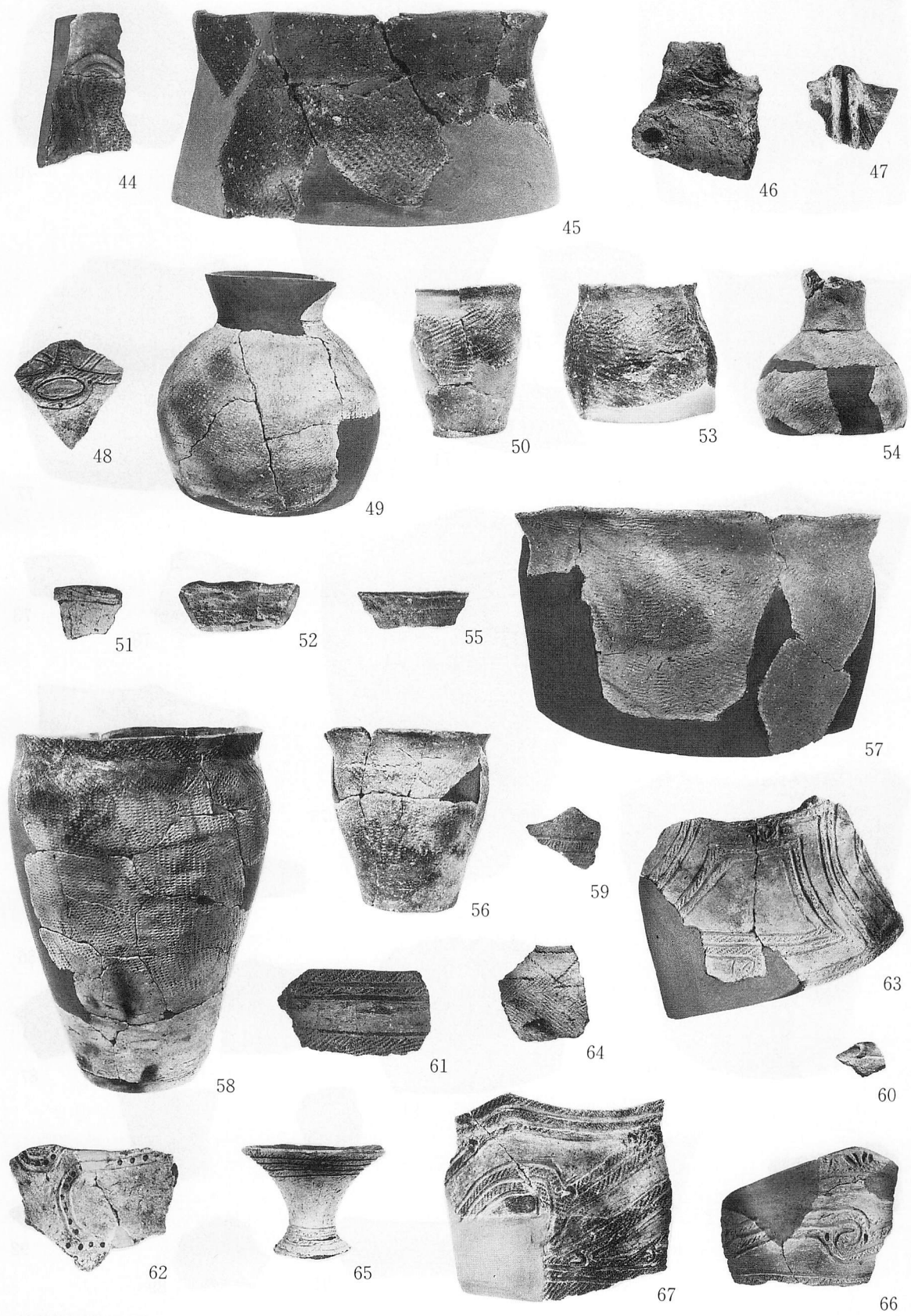


写真図版17 遺構内出土土器(2)

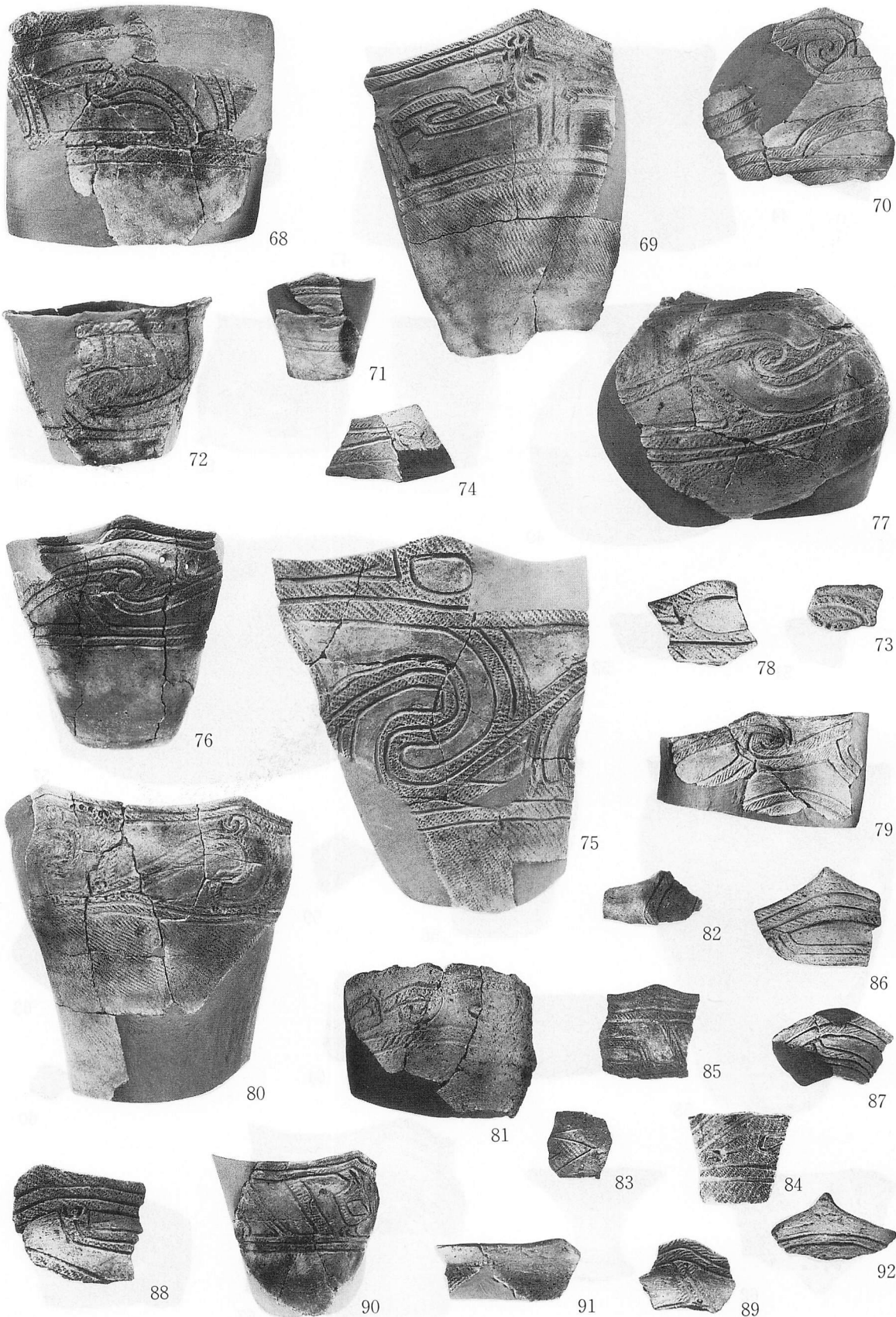


(41は遺構外)

写真図版18 遺構内出土土器(3)

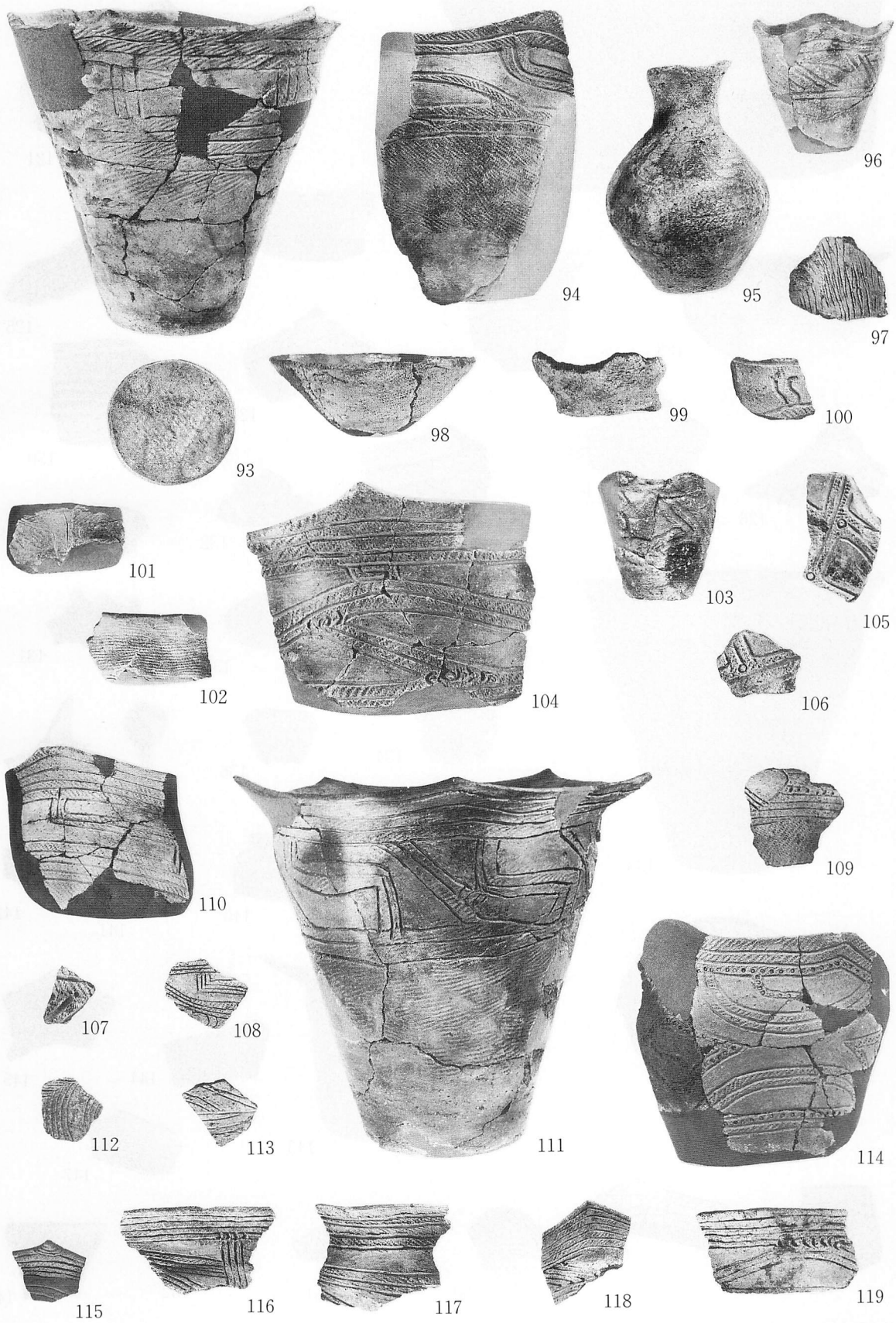


写真図版19 遺構外出土土器(1)



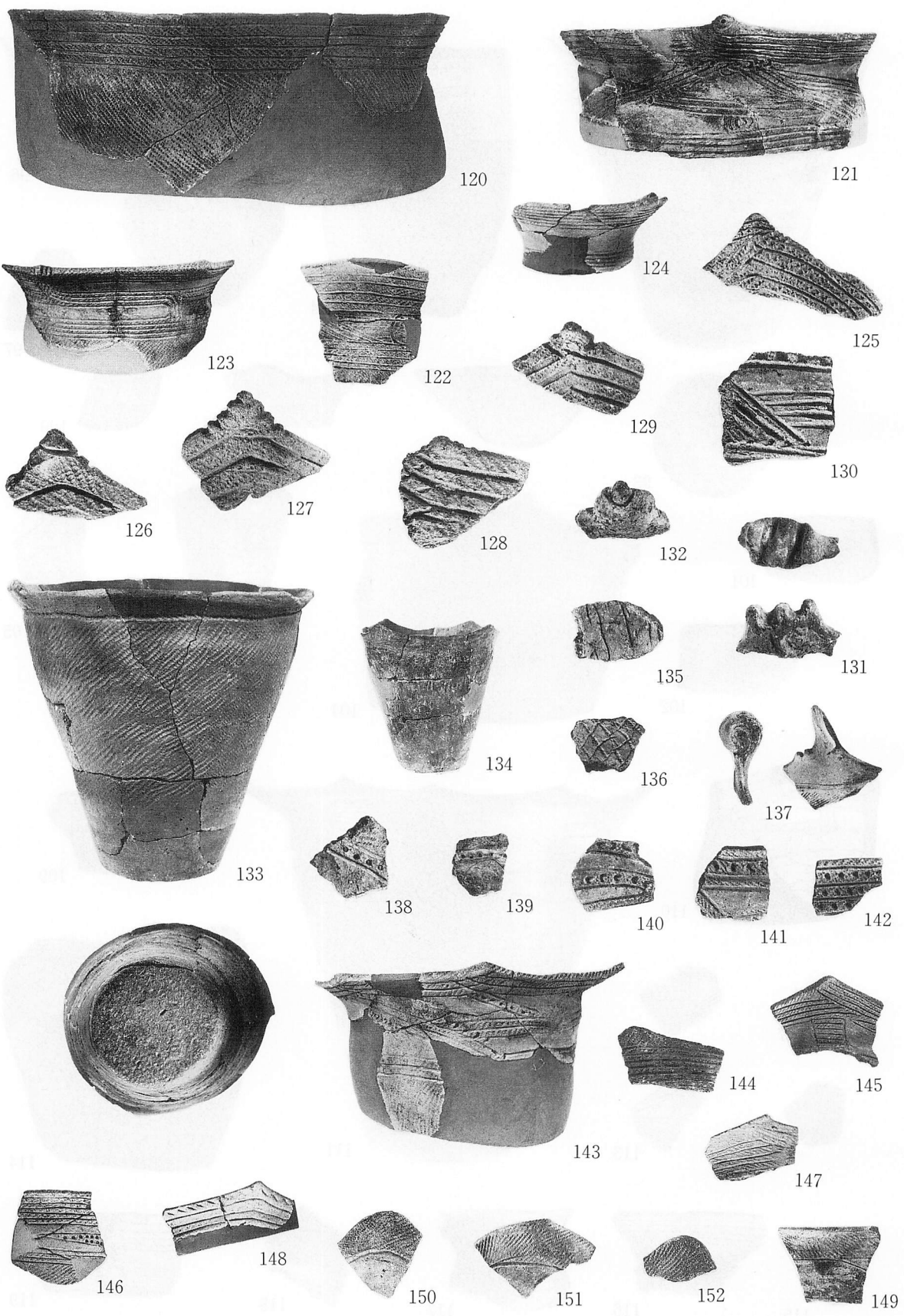
写真図版20 遺構外出土器(2)

(80は遺構外)

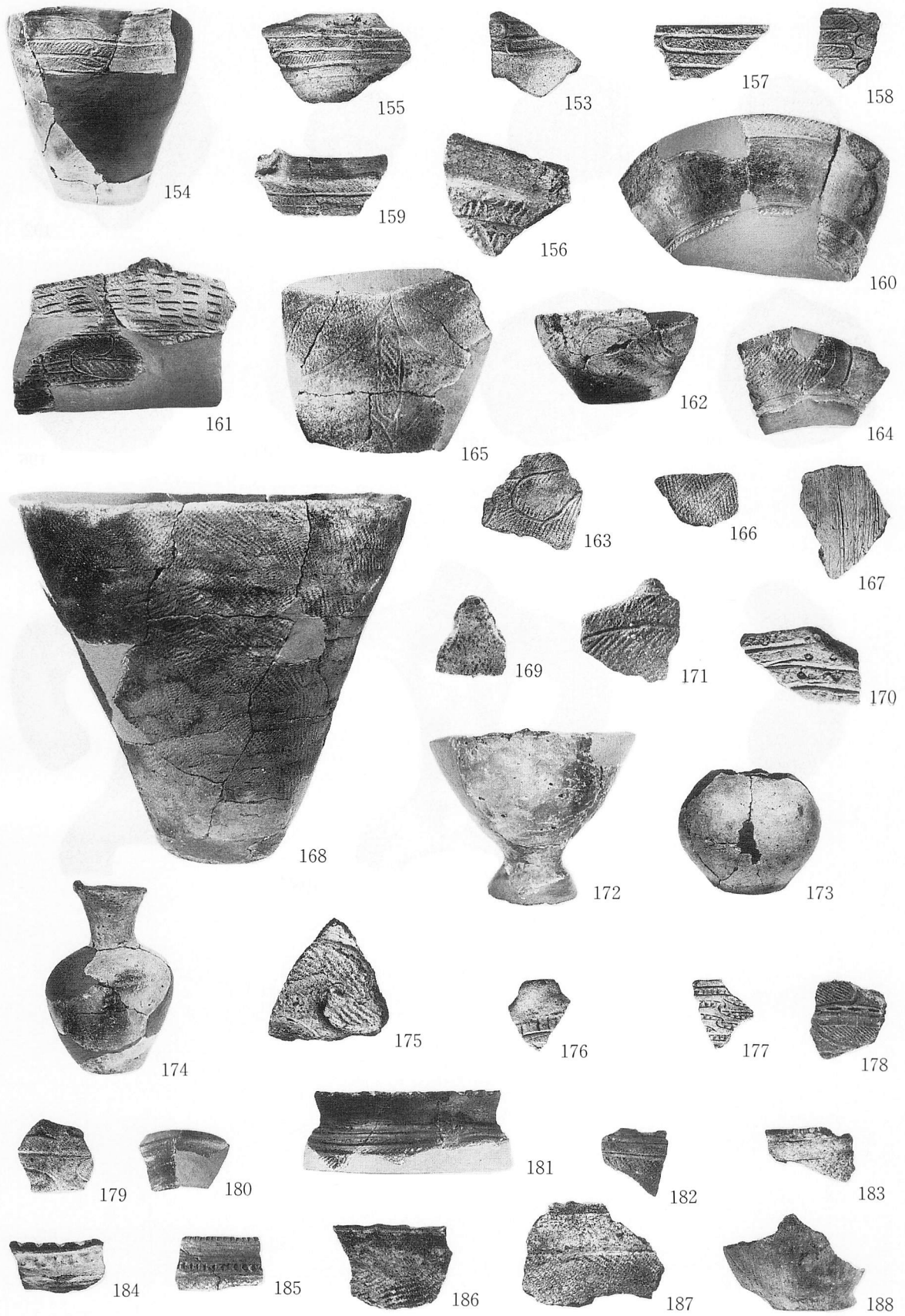


写真図版21 遺構外出土土器(3)

(94は遺構外)



写真図版22 遺構外出土器(4)



写真図版23 遺構外出土土器(5)



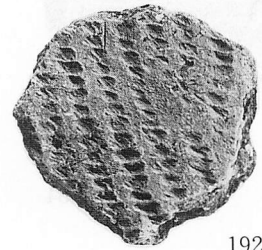
189



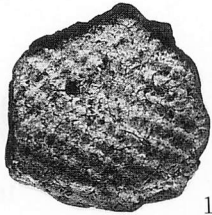
190



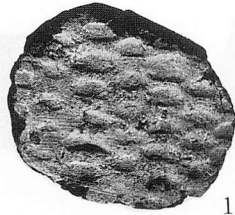
191



192



193



194



195



196

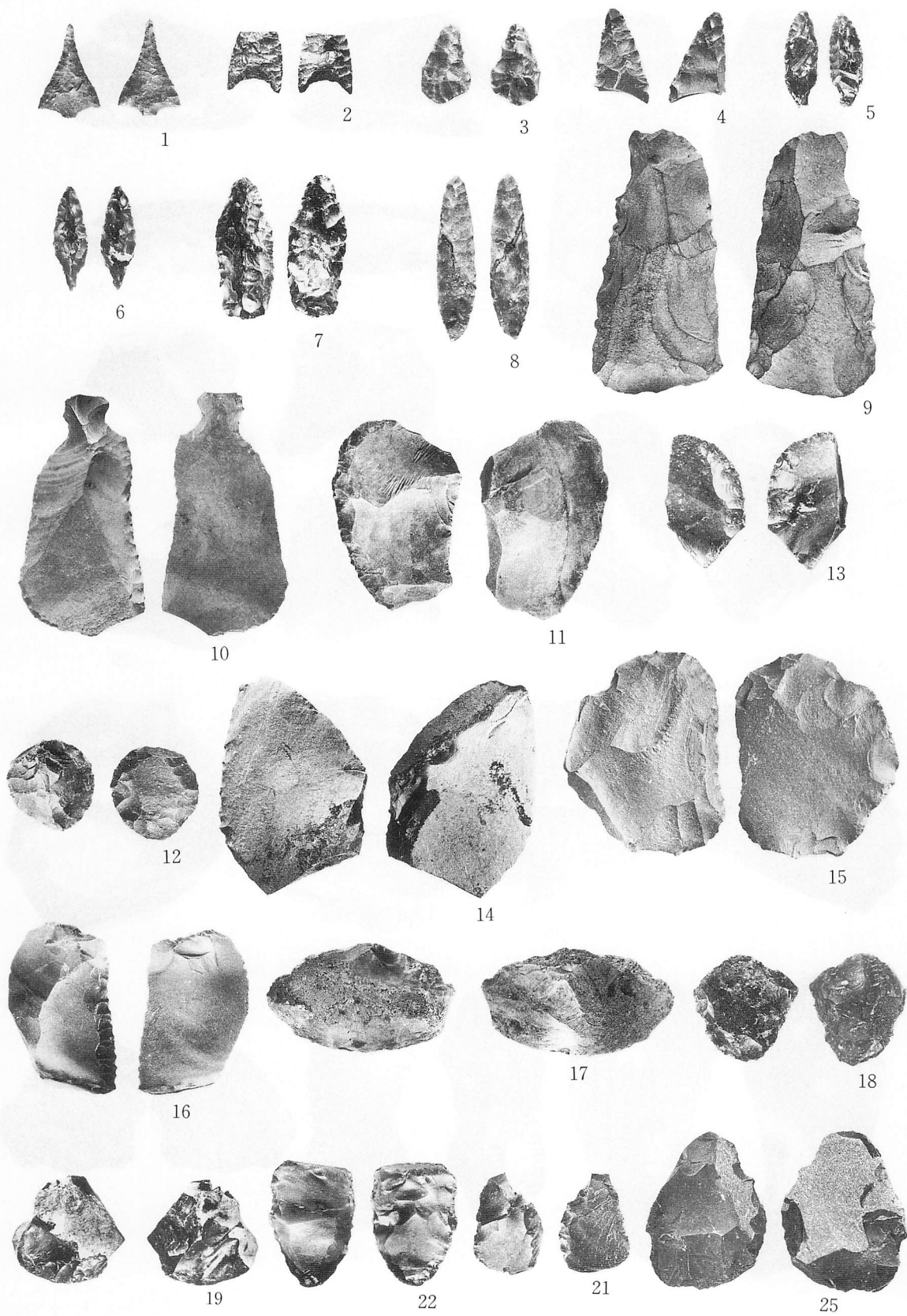


197

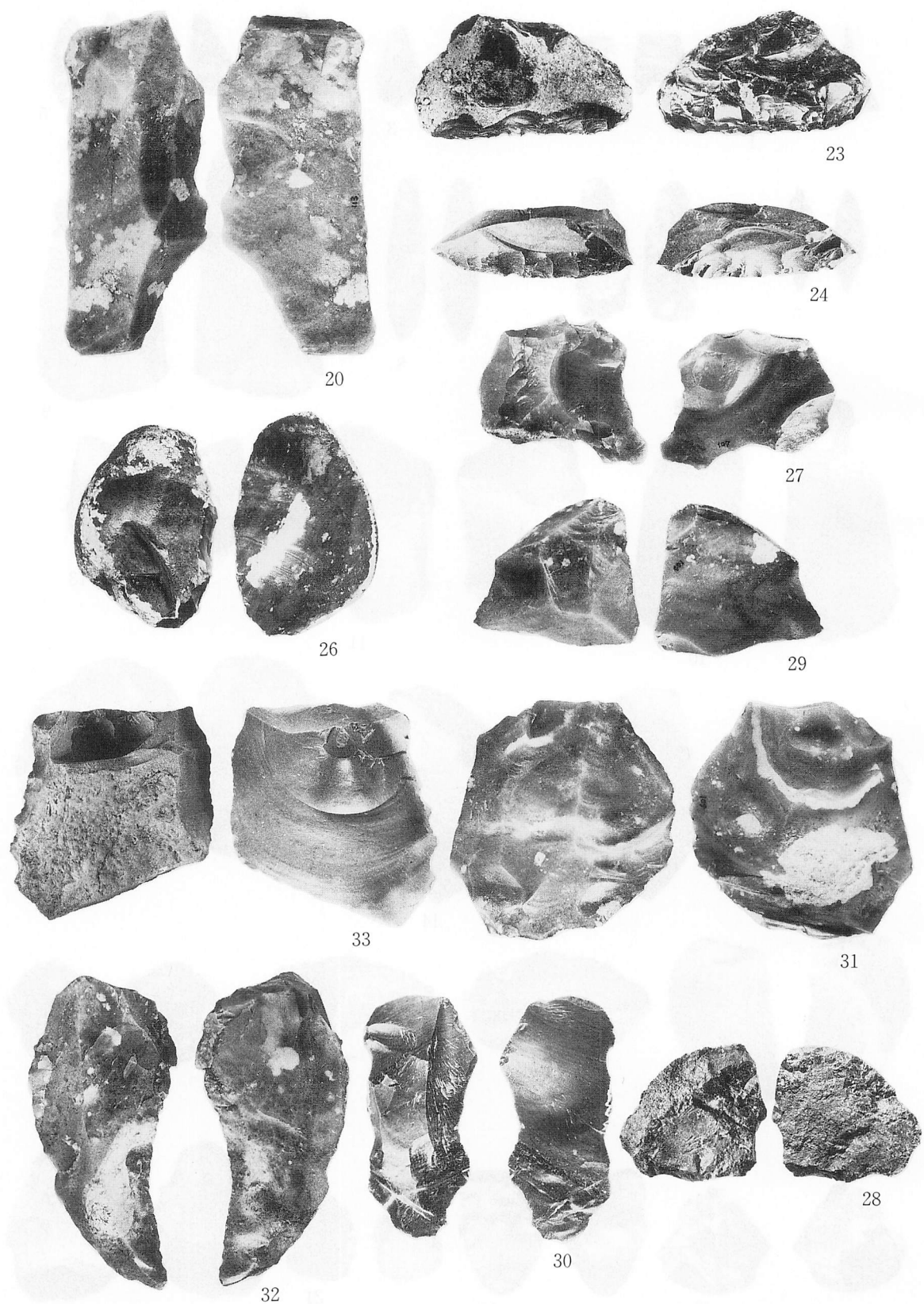


198

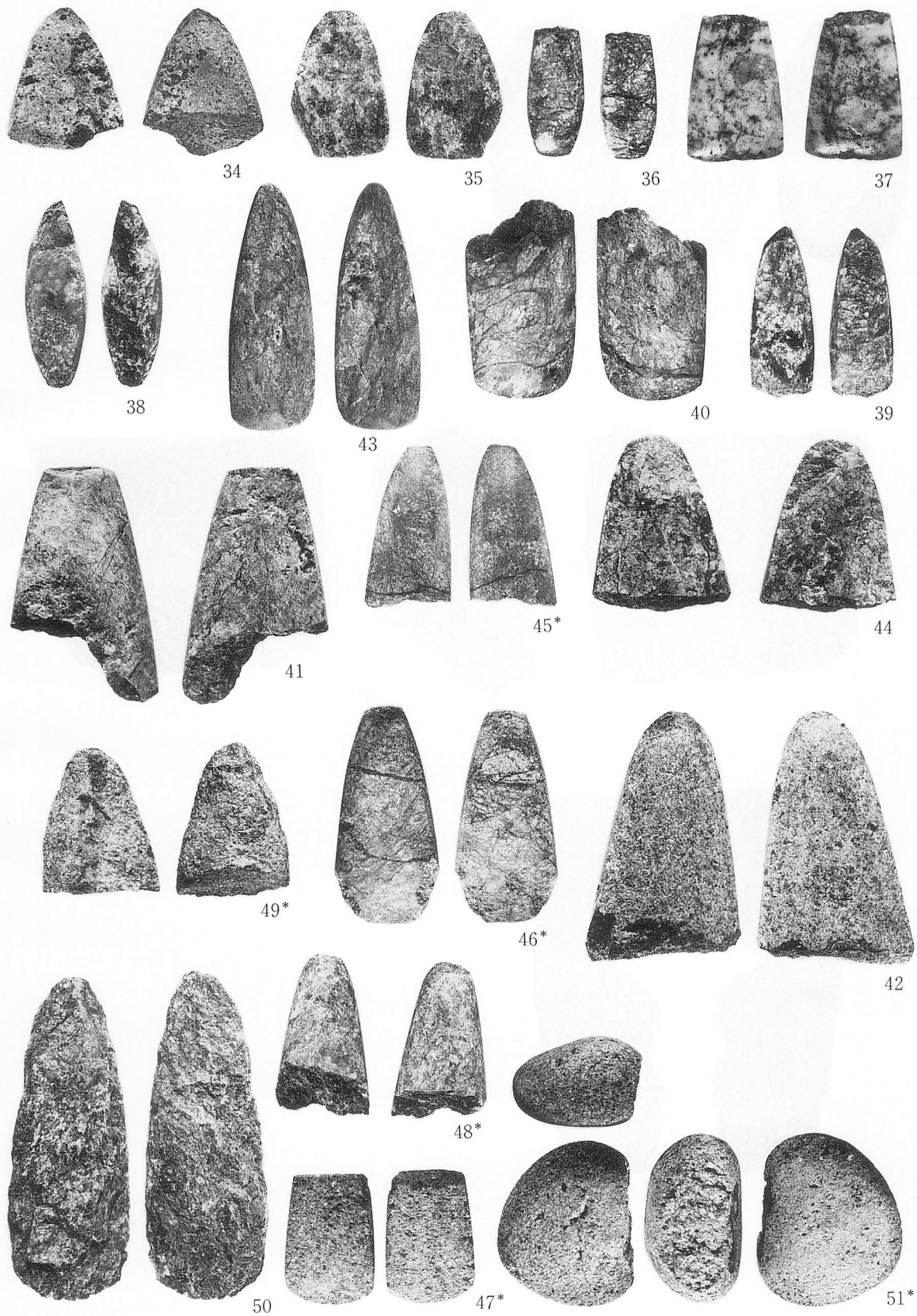




写真図版25 石器(1)

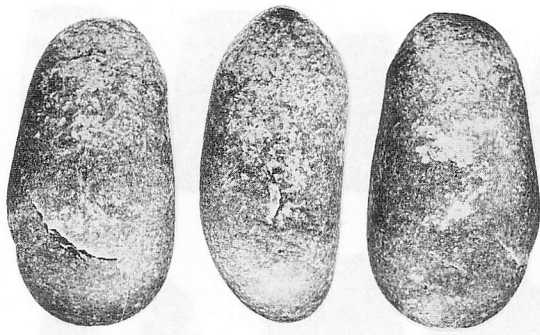


写真図版26 石器(2)

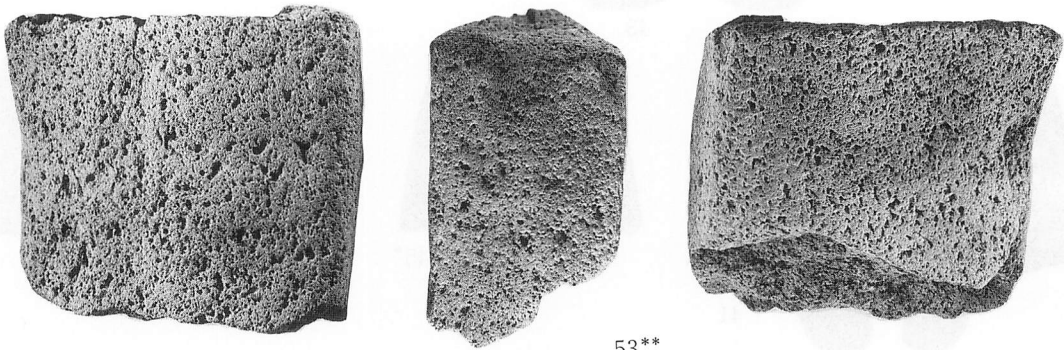


*S = 1/3 **S = 1/6

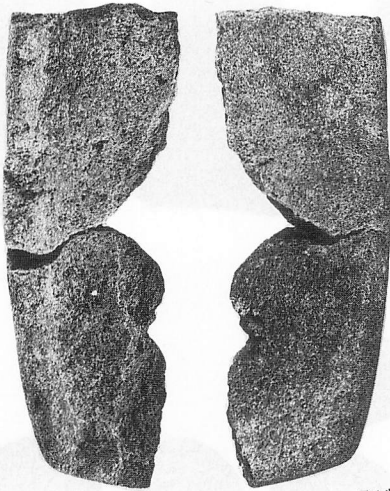
写真図版27 石器(3)



52*



53**



54*

写真図版28 石器(4)

*S = $\frac{1}{3}$ **S = $\frac{1}{2}$

報告書抄録

ふりがな	まほらにいせきはつくつちようさほうこくしょ							
書名	間洞Ⅱ遺跡発掘調査報告書							
副書名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第260集							
巻次								
シリーズ名	広域農道整備事業関連遺跡発掘調査							
シリーズ番号								
編著者名	木戸口俊子							
編集機関	(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒020 岩手県盛岡市下飯岡11-185 Tel 019-638-9001							
発行年月日	1997年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積㎡	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	°′″	°′″			
間洞Ⅱ遺跡	岩手郡玉山村 おあぎのとのあま 大字日戸字間 洞6-7ほか		KE78-0240	39度 48分 14秒	141度 13分 46秒	19950816 ～ 19951031	2,605㎡	広域農道整備事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
間洞Ⅱ遺跡	散布地	縄文	土坑43基 焼土7基		縄文土器片 9箱 土製品 10点 石器 54点			

財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員

所 長 山 影 源 吉
副 所 長 鷹 羽 康 造

〔管理課〕

管 理 課 長 澤 田 寛
主 任 横 山 文 彦
主 事 千 葉 勝 彦

〔調査課〕

調 査 課 長 小 田 野 哲 憲
課 長 補 佐 高 橋 與 右 衛 門
〃 工 藤 利 幸
主 任 文 化 財 中 川 重 紀
專 門 調 査 員 佐々木 清 文
〃 高 橋 義 介
〃 酒 井 宗 孝
〃 菊 池 人 見
文 化 財 小 山 内 透
專 門 調 査 員 金 子 佐 知 子
〃 松 本 建 速
〃 菊 地 榮 壽
〃 宮 本 節 子
〃 下 田 隆 衛
〃 濱 田 宏
〃 金 子 昭 彦
〃 晴 山 雅 光
〃 木 戸 口 俊 子
〃 阿 部 勝 則

文 化 財
專 門 調 査 員

羽 柴 直 人
星 雅 之
高 木 晃
杉 沢 昭 太 郎
大 道 篤 史
溜 浩 二 郎
村 上 拓
中 村 直 美
川 向 聖 子
佐 藤 良 和
篠 根 敬 志
柴 田 慈 幸
鈴 木 浩 二
鈴 木 聡
高 橋 実 央
千 葉 和 弘
平 澤 里 香
山 口 俊 規
山 下 浩 幸

期 限 付
專 門 職 員

〔資料課〕

資 料 課 長 菊 池 強 一
文 化 財 伊 藤 拓
專 門 調 査 員

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第260集

間洞Ⅱ遺跡発掘調査報告書

広域農道整備事業関連遺跡発掘調査

平成9年3月25日 印刷

平成9年3月31日 発行

発行 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒020 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地

電話 (019) 638-9001

FAX (019) 638-8563

印刷 株式会社 吉田印刷

〒020 盛岡市名須川町23-27

電話 (019) 625-2323